

令和 5 年度志木市国民健康保険
レセプト疾病構造分析事業報告書
(令和 4 年度分)

令和 6 年 3 月

目次

第1章 事業の概要	1
1. 事業の目的	1
2. 実施方法	1
3. 集計・分析の対象	1
第2章 医療費の状況	2
1. 国民健康保険被保険者数の構成	2
第3章 医療費の構造分析	3
1. 令和4年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合	3
2. 令和4年度の医療費、レセプト件数の状況	6
3. レセプト件数が36件以上(平均3件/月)の人数	7
4. 頻回受診者の疾病構造	9
5. 長期入院患者の疾病構造	10
第4章 国保医療費の疾病構造	11
1. 疾病分類別の総医療費と受療割合(入院、入院外を含む全体の医療費)	11
2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合	17
3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合	21
第5章 国保医療費の上位疾患の構造	26
1. 総医療費の上位疾患	26
2. 入院医療費の上位疾患	32
3. 入院外医療費の上位疾患	34
第6章 注目疾患別に見た診療の状況	37
1. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費	37
2. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費	38
3. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費	41
4. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費	42
5. 関節疾患に対する入院医療費	44
6. 関節疾患に対する入院外医療費	45
7. かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院医療費	47
8. かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院外医療費	48
9. 新生物に対する入院・入院外医療費	50

10.	精神及び行動の障害に対する入院・入院外医療費.....	52
11.	COVID-19 に対する入院・入院外医療費.....	54
第 7 章 特定健康診査の状況.....		55
1.	特定健康診査の受診状況.....	55
2.	特定保健指導レベルの状況.....	55
3.	メタボリックシンドローム（以下，メタボ）の状況	57
4.	測定項目の状況	58
第 8 章 まとめ		91

第1章 事業の概要

1. 事業の目的

志木市国民健康保険被保険者のレセプトデータ及び特定健康診査の結果を分析し、医療費の動向、市民の疾病の構造、受療行動について調査する。本データに基づき、本市の疾病の課題に対する具体的な方策等を検討することを目的とする。

2. 実施方法

令和4年4月～令和5年3月診療分の国民健康保険医科のレセプトデータを集計した。レセプトデータはICD10の傷病名コードに記載される5,515傷病名を対象とし、本データに基づき、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、悪性新生物、腫瘍、精神および行動の障害、睡眠障害・不眠症、変形性膝関節症、心疾患、脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、骨粗しょう症、腎不全、アルツハイマー病、急性上気道感染症、肺炎等について解析を行った。さらに、ICD10の大分類に基づき解析を行った。

3. 集計・分析の対象

3.1. レセプトデータ

令和4年度的全レセプトデータ件数は116,867件であった。

第2章 医療費の状況

1. 国民健康保険被保険者数の構成

志木市国民健康保険の令和4年度の被保険者数を図2-1に示す。表2-1にはその構成比を性別に示した。年齢区分は5歳とした。構成比について20歳未満は9.6%、20～59歳は50.2%、60～74歳は40.2%であった。65歳以上は33.2%であった。

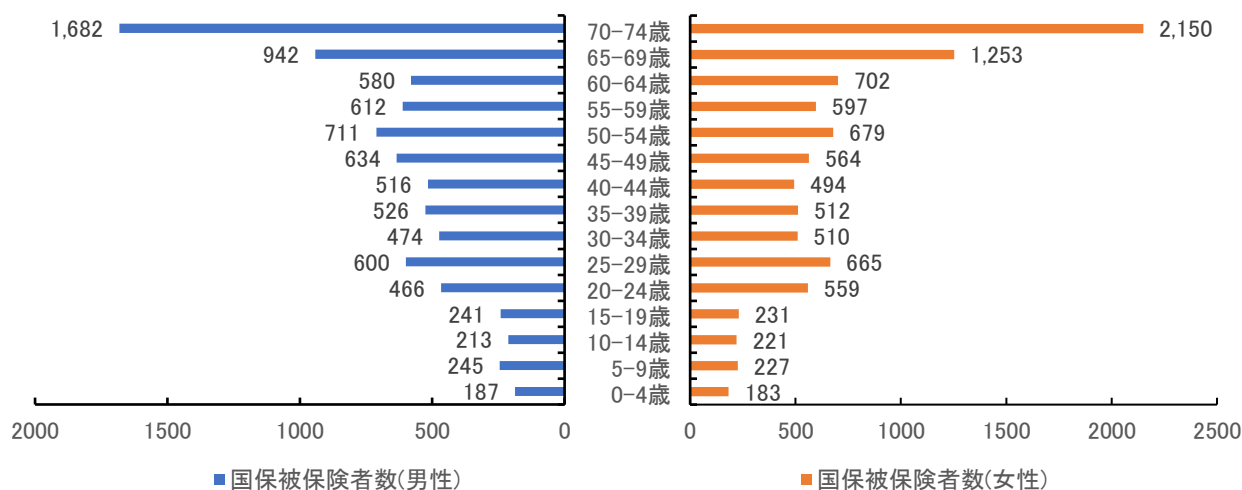


図2-1 志木市の年齢区分別の国民健康保険被保険者数

表2-1 志木市の年齢階級別の国民健康保険被保険者の構成比

男性		年齢区分 [歳]	女性	
人数[名]	構成比[%]		人数[名]	構成比[%]
187	2.2	0-4	183	1.9
245	2.8	5-9	227	2.4
213	2.5	10-14	221	2.3
241	2.8	15-19	231	2.4
466	5.4	20-24	559	5.9
600	7	25-29	665	7
474	5.5	30-34	510	5.3
526	6.1	35-39	512	5.4
516	6	40-44	494	5.2
634	7.3	45-49	564	5.9
711	8.2	50-54	679	7.1
612	7.1	55-59	597	6.3
580	6.7	60-64	702	7.4
942	10.9	65-69	1,253	13.1
1,682	19.5	70-74	2,150	22.5
8,629	47.5	計	9,547	52.5
2,624	30.4	65歳以上	3,403	35.6

第3章 医療費の構造分析

1. 令和4年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合

医療費の分析において、74歳は誕生日を迎えることで75歳の後期高齢者医療制度に移行するため、医療費解析は令和5年3月31日時点において74歳までの人を対象に行った。表3-1に性別、年齢階級別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合を示した。すべてのデータは医療機関にかかっていない0点（医療費）、0日（診療日数）、0件（レセプト件数）の人を含めずに解析した。医療費、レセプト件数の合計を受療人数（医療機関を受療した人数）で除した値である平均値を示した。受療割合は、入院、入院外の受診者を当該年齢階級の人数で除し、100を乗じたものである。

図3-1に男性、図3-2に女性の年齢階級別の一人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図3-1、3-2より、男女ともに総医療費、入院外医療費は子どもと高齢者が高く、一般的なカーブであった。男性は30-34歳、60-64歳、女性は20-24歳、40-44歳のタイミングで総医療費が増加することがわかった。

図3-3に性別、年齢階級別の一人当たりのレセプト件数を示した。図3-3より、レセプト件数は子どもと高齢者が多く、男女ともに20-24歳が少ない傾向にあった。男女ともに70-74歳はレセプト件数が約11件に達し、1ヶ月に約1回は医療機関に受診していることが推定できる。

表 3-1 性別、年齢階級別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合

		総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外		
				診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]
男性	0-4歳	98,216	7.9	2.6	30,320	2.7	10.0	97,149	75.9
	5-9歳	70,309	7.2	0	0	0	9.2	70,309	73.9
	10-14歳	57,298	5.6	0	0	0	6.8	57,298	70.9
	15-19歳	50,220	4.8	10.0	351,080	0.4	5.9	48,026	66.4
	20-24歳	47,140	3.7	13	465,980	0	4.8	45,087	48.7
	25-29歳	61,312	3.9	55.0	2,219,845	0.3	5.1	44,746	44.7
	30-34歳	119,562	4.7	9.7	474,703	0.6	6.1	113,450	49.2
	35-39歳	136,321	5.7	136.2	2,259,765	1.1	8.2	84,894	49.6
	40-44歳	161,830	6.2	85.1	1,848,518	1.9	8.8	98,373	53.5
	45-49歳	189,650	6.9	137.1	3,119,607	1.6	10.5	99,570	53.6
	50-54歳	222,673	7.7	142.1	2,633,932	2.0	12.0	138,597	60.2
	55-59歳	189,768	8.2	76.4	1,822,116	2.3	13.0	120,729	59.5
	60-64歳	386,169	9.4	78.7	2,339,001	3.8	16.7	262,278	70.0
	65-69歳	267,885	10.0	29.3	1,129,452	3.7	15.5	216,318	79.7
	70-74歳	357,843	11.9	57.8	1,709,888	5.1	18.3	256,955	84.1
女性	0-4歳	97,850	7.5	2.5	102,255	2.2	10.1	94,886	75.4
	5-9歳	71,325	6.6	0	0	0	7.9	71,325	71.4
	10-14歳	60,949	6.4	7	82,443	1	7.8	56,099	76.9
	15-19歳	56,928	5.1	31.0	1,332,200	0.9	6.1	40,780	71.4
	20-24歳	86,561	4.4	28.3	443,930	0.5	5.4	82,292	55.8
	25-29歳	75,584	5.2	25.4	687,064	1.5	7.1	55,345	49.9
	30-34歳	84,333	5.9	10.6	299,026	2.7	8.2	70,628	56.3
	35-39歳	107,336	6.5	6.4	326,573	1.8	8.9	97,439	58.0
	40-44歳	186,359	7.7	62.7	1,629,649	2.8	11.2	114,886	63.6
	45-49歳	127,721	7.7	35.0	1,979,288	1.1	10.9	95,080	63.1
	50-54歳	124,071	8.1	110.8	1,771,771	1.2	11.6	92,564	65.1
	55-59歳	152,066	8.3	63.6	1,204,569	1.3	11.2	129,591	70.7
	60-64歳	181,201	10.0	61.8	1,389,344	1.7	15.5	150,269	76.8
	65-69歳	197,718	11.0	45.0	1,324,445	2.6	16.3	157,690	83.3
	70-74歳	230,978	12.2	60.0	1,607,436	2.8	18.5	179,764	87.6

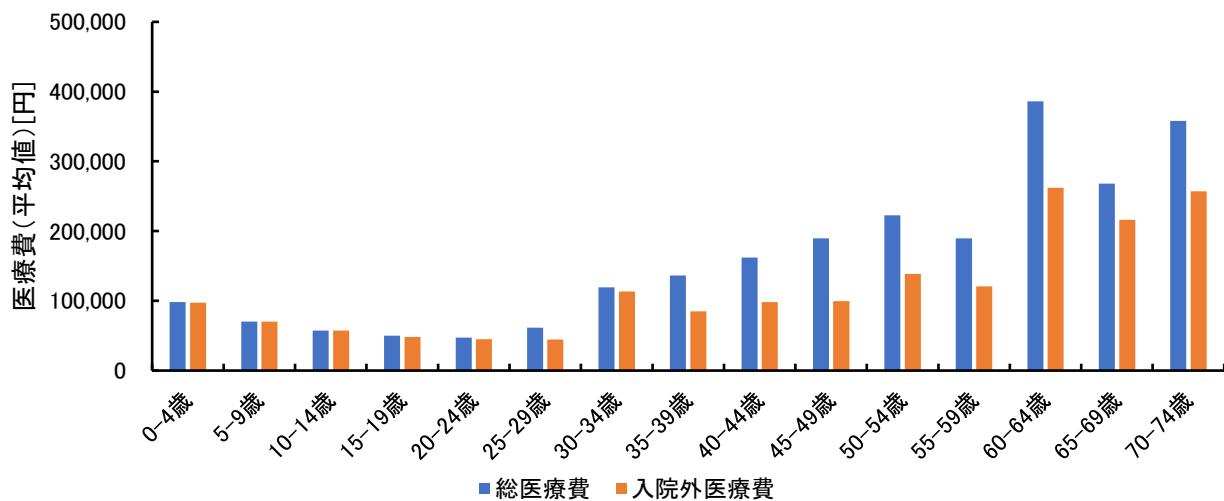


図 3-1 男性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

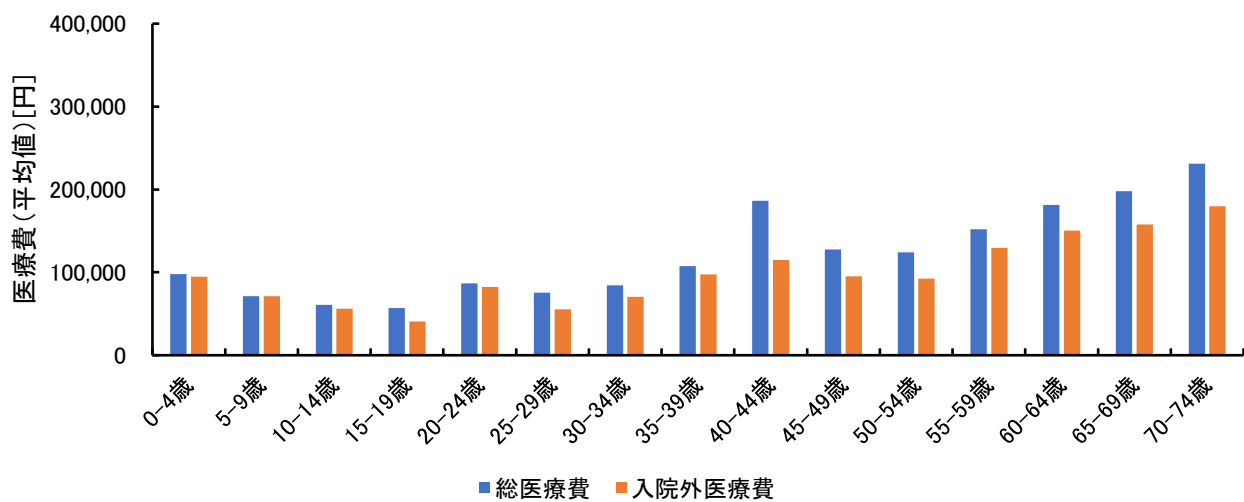


図 3-2 女性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

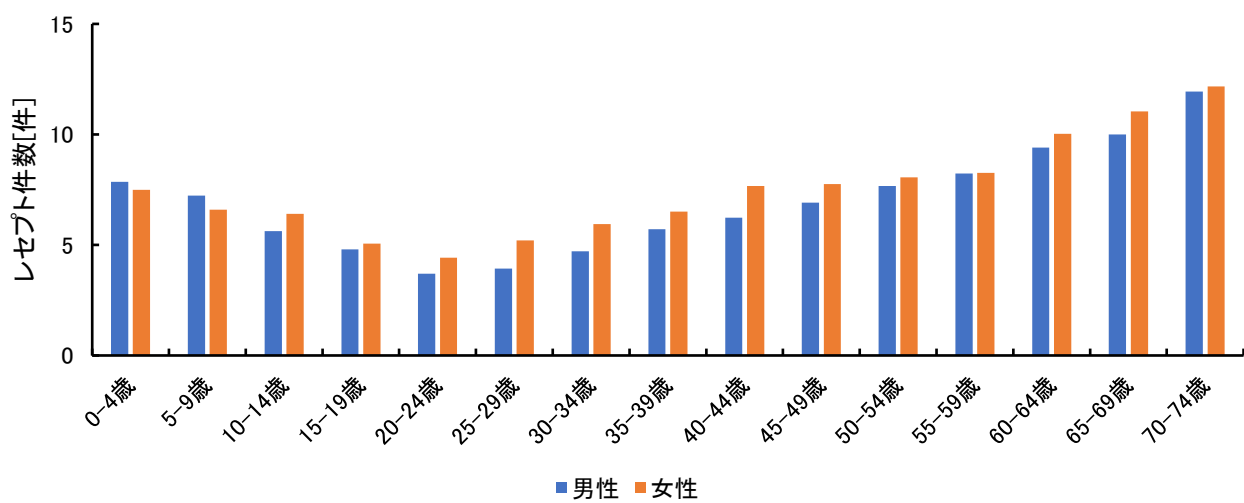


図 3-3 一人当たりの性別, 年齢階級別レセプト件数

2. 令和4年度の医療費、レセプト件数の状況

表3-2に全体の医療費、レセプト件数について平均値、中央値、最大値等を示した。医療費やレセプト件数は値が極端に大きい人が含まれると、平均値が大きくなる傾向がある。そのため、ここでは中央値も示すこととした。

令和4年度の受療者全体の平均年齢は51.4歳、中央値は56.0歳であった。入院と入院外の医療費を合計した総医療費の平均値は192,508円、中央値は62,410円であった。令和3年度からは平均値は1,966円、中央値は8,820円増加していた。入院外診療日数に着目すると最大値に262日、該当対象者は1年間のレセプト件数が54件であり、複数の医療機関に頻回に受診していることからこの値が導出された。レセプト件数の最大値は71件(入院外診療日数:100日)であった。

表3-2 全体の医療費、レセプト件数

	年齢 [歳]	総医療費 [円]	入院診療日数 [日]	入院点数 [円]	入院外診療日数 [日]	入院外点数 [円]	レセプト件数 [件]
平均値	51.4	192,508	57.5	1,538,053	13.0	143,656	8.8
標準偏差	21.1	686,755	100.6	2,110,454	17.9	486,737	7.2
中央値	56.0	62,410	12.0	591,280	8.0	61,090	7.0
最大値	77.0	15,748,360	365.0	13,315,520	262.0	15,390,400	71.0
25パーセントタイル	35.0	25,060	4.0	246,223	4.0	24,645	3.0
75パーセントタイル	71.0	131,155	52.0	1,915,293	16.0	125,010	12.0

3. レセプト件数が 36 件以上(平均 3 件/月)の人数

表 3-3 に令和 4 年度のレセプト件数が 36 件以上, 表 3-4 に 25-35 件の年齢階級別の人数を示した。レセプト件数は医療機関を受診することにより月に 1 件提出される。つまり, 月に 2 ヶ所の医療機関を受診すると 2 件提出される。1 ヶ月に多くの医療機関を受診する, あるいは特定の医療機関を複数日受診することは様々な問題が考えられる。

一般的に重複受診は同一月内に同一診療科を 3 ヶ所以上受診することをいう。頻回受診は同一月内に医療機関へ 15 日以上通院することをいう。同じ疾患で複数の医療機関を受診することは, 治療効率の低下, 検査の重複, 調剤(投薬)の重複が考えられ, 医療費の高騰を誘発するだけでなく, 副作用のリスクも高まることが推察される。そのため, 対策が求められる。

表 3-3 より, 重複受診は男性は 45-49 歳, 女性は 30-34 歳から発生し, 男女ともに 70-74 歳から増加していた。表 3-4 より, レセプト件数が 25-35 件の該当者は男女ともに 50-54 歳から増加し, 70-74 歳では男性は 82 名, 女性は 109 名であった。

表 3-3 年齢階級別のレセプト件数 36 件/年以上の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	0	0	0
5-9歳	0	0	0
10-14歳	0	0	0
15-19歳	0	0	0
20-24歳	0	0	0
25-29歳	0	0	0
30-34歳	0	2	2
35-39歳	0	1	1
40-44歳	0	2	2
45-49歳	1	1	2
50-54歳	1	2	3
55-59歳	2	4	6
60-64歳	1	6	7
65-69歳	4	14	18
70-74歳	22	22	44

表 3-4 年齢階級別のレセプト件数 25-35 件/年の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	2	2	4
5-9歳	1	3	4
10-14歳	0	1	1
15-19歳	1	1	2
20-24歳	1	0	1
25-29歳	0	2	2
30-34歳	0	1	1
35-39歳	4	2	6
40-44歳	6	6	12
45-49歳	4	8	12
50-54歳	11	13	24
55-59歳	12	12	24
60-64歳	14	19	33
65-69歳	26	53	79
70-74歳	82	109	191

4. 頻回受診者の疾病構造

頻回受診者(予備群を含む)は、入院外診療日数が年間 120 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 83 名(平均年齢 65.0 歳)であった。男性 56 名(平均年齢 63.9 歳)、女性 27 名(平均年齢 67.4 歳)であった。総医療費は 249,052,270 円、レセプト件数は 1,937 件であった。

表 3-5 に頻回受診者の ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表 3-5 より、該当人数では第 11 章の消化器系の疾患(74 人)、第 13 章の筋骨格系及び結合組織の疾患(74 人)、第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患(70 人)、第 9 章の循環器系の疾患(69 人)が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 14 章の腎尿路性器系の疾患では 400 万円を超えていた。

以上より、頻回受診者の特性として、腎不全や慢性疾患に加えて消化器系の疾患の受診者が多いことがわかった。

表 3-5 頻回受診者の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	32	3,562,245
第2章 新生物	11	3,305,225
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	46	4,808,335
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	70	3,412,790
第5章 精神及び行動の障害	20	2,062,903
第6章 神経系の疾患	48	3,225,855
第7章 眼及び付属器の疾患	46	2,980,203
第8章 耳及び乳様突起の疾患	9	2,450,589
第9章 循環器系の疾患	69	3,536,591
第10章 呼吸器系の疾患	47	2,953,396
第11章 消化器系の疾患	74	3,234,114
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	57	3,563,838
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	74	3,119,626
第14章 腎尿路性器系の疾患	54	4,296,483
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	3	2,390,817
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	55	3,730,303
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	27	2,085,152

5. 長期入院患者の疾病構造

長期入院患者は、入院期間が 250 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 36 名（平均年齢 58.6 歳）であった。男性 23 名（平均年齢 56.6 歳）、女性 13 名（平均年齢 62.2 歳）であった。総医療費は 222,114,890 円、レセプト件数は 448 件であった。

表 3-6 に ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表 3-6 より、該当人数では第 11 章の消化器系の疾患（33 名）、第 6 章の神経系の疾患（32 名）、第 5 章の精神及び行動の障害（31 名）が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第 1 章の感染症及び寄生虫症、第 10 章の呼吸器系の疾患、第 14 章の腎尿路性器系の疾患、第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 2 章の新生物では 700 万円を超えていた（第 8 章、第 17 章、第 19 章を除く）。

表 3-6 長期入院者の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	8	8,439,069
第2章 新生物	3	7,155,510
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8	7,512,824
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	20	6,996,256
第5章 精神及び行動の障害	31	5,755,293
第6章 神経系の疾患	32	6,205,902
第7章 眼及び付属器の疾患	6	6,987,318
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3	10,260,867
第9章 循環器系の疾患	17	6,914,206
第10章 呼吸器系の疾患	13	7,620,122
第11章 消化器系の疾患	33	6,233,712
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	23	6,852,104
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	24	6,847,281
第14章 腎尿路性器系の疾患	9	7,554,481
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	2	7,550,440
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	25	6,755,900
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	4	7,776,900

第4章 国保医療費の疾病構造

1. 疾病分類別の総医療費と受療割合（入院，入院外を含む全体の医療費）

表 4-1 に疾病分類別の総医療費合計，総医療費合計を患者数で除した一人当たりの総医療費（平均医療費），患者数を示した。疾病分類別の医療費全体のインパクトを示すために，総医療費合計を記載した。1 年間にそれぞれの分類に対し，1 回でも病名が記載された場合に，患者としてカウントした。そのため，患者数は頭数であり，繰り返し受診したことによる延べ人数ではない。総医療費合計（入院と入院外）はそれぞれの患者の医療費の合計である。（例として，糖尿病と胃炎の診断を受けると，第 4 章と第 11 章にそれぞれ患者数としてカウントされる。）

図 4-1 に疾病分類別の総医療費合計，図 4-2 に疾病分類別の一人当たりの総医療費，図 4-3 に疾病分類別の患者数を示した。図 4-3 より，患者数に着目すると，第 10 章の呼吸器系の疾患が多く，次いで第 11 章の消化器系の疾患，第 4 章の内分泌，栄養及び代謝疾患，第 7 章の眼及び付属器の疾患のボリュームが大きいことがわかった。ボリュームが大きい分，総医療費合計も大きい傾向であった。図 4-2 より，一人当たりの医療費に着目すると，第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害（鉄欠乏性貧血などの貧血が含まれる），第 2 章の新生物（がんが含まれる）の医療費が大きいことがわかった。

表 4-1 疾病分類別の総医療費合計，一人当たりの総医療費，患者数

疾病分類名	総医療費合計 [円]	一人当たり医療費 [円]	患者数[人]
第1章 感染症及び寄生虫症	866,473,790	414,779	2,089
第2章 新生物	606,221,850	608,046	997
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	881,595,360	737,120	1,196
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,590,260,450	354,573	4,485
第5章 精神及び行動の障害	759,254,930	403,644	1,881
第6章 神経系の疾患	1,310,349,920	416,116	3,149
第7章 眼及び付属器の疾患	1,009,824,330	235,007	4,297
第8章 耳及び乳様突起の疾患	259,836,870	226,932	1,145
第9章 循環器系の疾患	1,561,518,840	373,927	4,176
第10章 呼吸器系の疾患	1,333,704,730	243,733	5,472
第11章 消化器系の疾患	1,860,637,780	365,979	5,084
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	1,350,562,450	361,210	3,739
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,455,970,000	353,048	4,124
第14章 腎尿路性器系の疾患	944,623,240	458,110	2,062
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	18,393,380	270,491	68
第16章 周産期に発生した病態	2,839,230	283,923	10
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	75,613,330	455,502	166
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,469,324,990	414,478	3,545
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	406,611,490	365,658	1,112

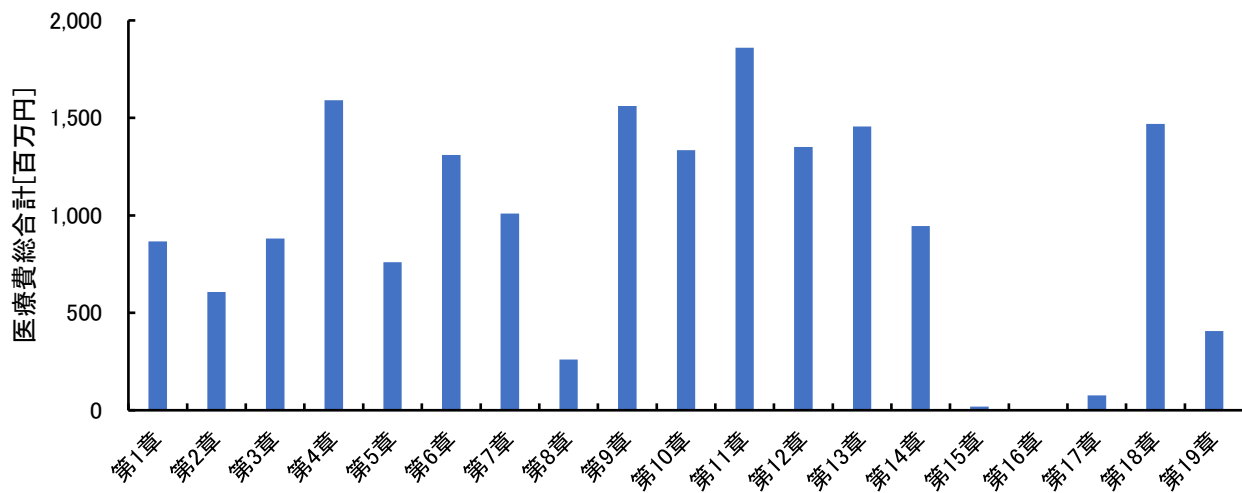


図 4-1 疾病分類別の総医療費合計

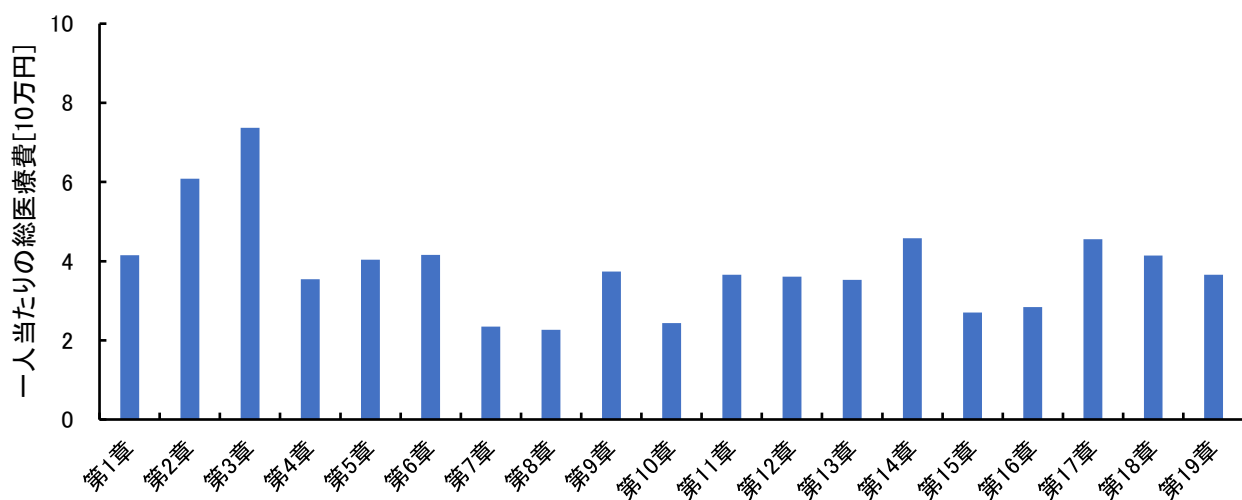


図 4-2 疾病分類別の一人当たりの総医療費

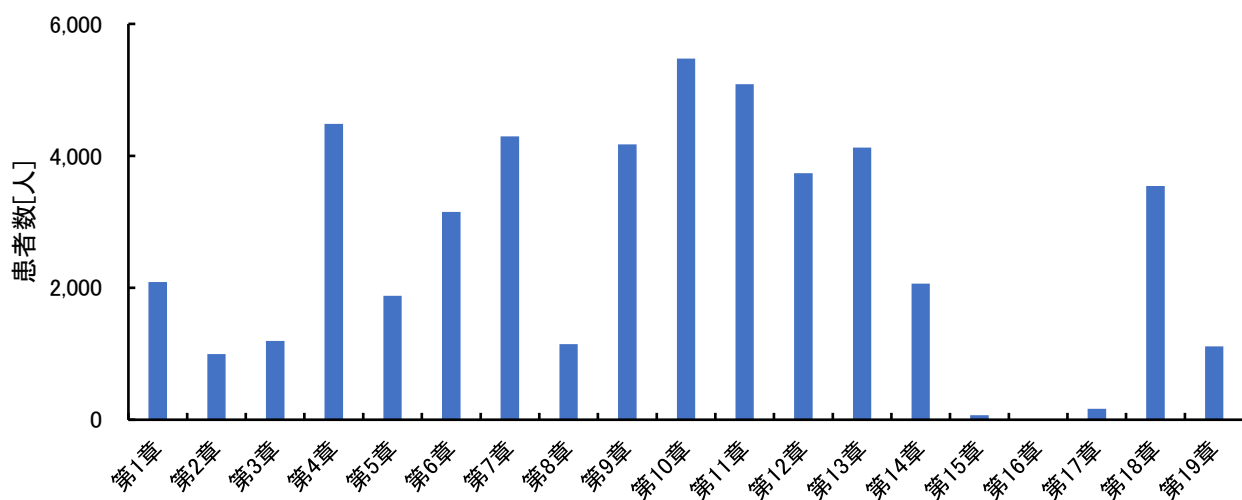


図 4-3 疾病分類別の患者数

表 4-2, 図 4-4 に疾病分類別の年齢階級別総医療費合計, 表 4-3 に受療割合を示した。表 4-3 より, 幼児, 若年期にウエイトが大きいものとして下記の章が挙げられる。

- ・ 第 1 章 感染症及び寄生虫症(ウイルス性胃腸炎等)
- ・ 第 7 章 眼及び付属器の疾患(結膜炎, 近視, 遠視, 乱視等)
- ・ 第 8 章 耳及び乳様突起の疾患(外耳炎, 中耳炎等)
- ・ 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- ・ 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)

一方で, 高齢期に増加する疾患として, 下記の章が挙げられる。

- ・ 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- ・ 第 3 章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血等)
- ・ 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- ・ 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症, アルツハイマー病, うつ病等)
- ・ 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- ・ 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- ・ 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍, 便秘, 胃炎等)
- ・ 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- ・ 第 14 章 腎尿路性器系の疾患(腎不全等)
- ・ 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)
- ・ 第 19 章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響

表 4-2, 図 4-4 より, 年齢階級別医療費は, 60-64 歳以降の医療費が高いことがわかった。70-74 歳に着目すると, 総医療費合計で 5 億円以上の疾患として, 下記の章が挙げられる。

- ・ 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- ・ 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- ・ 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- ・ 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- ・ 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍, 便秘, 胃炎等)
- ・ 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- ・ 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- ・ 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)

表 4-2 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

単位[円]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	14,789,560	8,433,810	3,675,880	3,845,880	19,065,640	5,763,770	8,824,900	12,281,480
第2章 新生物	782,380	466,770	432,960	231,260	13,213,950	1,860,030	14,488,010	17,035,590
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1,876,110	772,120	822,540	609,170	14,555,820	8,643,710	4,430,480	12,650,320
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	2,140,440	790,560	1,240,970	1,689,330	16,019,240	5,361,610	7,437,800	28,415,870
第5章 精神及び行動の障害	372,440	1,925,630	2,682,670	3,029,740	19,172,370	15,775,320	10,485,070	23,911,950
第6章 神経系の疾患	0	730,710	2,221,510	4,098,370	5,832,450	16,054,990	21,354,270	36,048,160
第7章 眼及び付属器の疾患	5,474,240	10,126,190	9,658,900	5,030,410	5,776,930	12,286,280	9,272,890	9,276,470
第8章 耳及び乳様突起の疾患	9,977,850	12,420,900	7,964,550	1,229,820	3,174,030	1,742,640	2,597,860	5,188,140
第9章 循環器系の疾患	1,433,250	1,315,240	2,216,000	783,570	666,010	2,547,180	13,977,930	14,978,720
第10章 呼吸器系の疾患	26,394,290	22,343,010	15,736,380	9,434,920	26,181,930	22,897,020	19,148,470	29,136,210
第11章 消化器系の疾患	3,834,570	3,603,830	4,021,690	5,225,610	20,519,950	17,519,950	32,395,340	40,577,330
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	19,632,390	14,047,540	9,850,110	6,806,930	22,476,010	17,362,500	22,885,360	23,046,280
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,143,170	1,947,630	3,678,070	2,959,970	3,892,520	6,526,740	12,520,640	10,911,780
第14章 腎尿路性器系の疾患	850,780	1,159,200	1,129,640	2,981,910	17,512,200	6,754,330	11,354,850	11,497,250
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	569,640	1,132,590	3,726,910	4,071,030
第16章 周産期に発生した病態	2,033,250	398,110	0	0	208,340	0	90,600	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1,906,790	831,640	674,740	82,320	70,810	735,730	1,295,550	1,678,330
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12,850,040	8,408,450	5,392,980	5,339,350	19,839,680	19,416,240	12,650,360	38,834,210
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,525,040	2,696,590	4,098,700	3,886,720	2,777,970	6,279,170	1,742,480	3,930,550

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	34,040,130	39,592,460	55,974,430	35,018,080	97,779,990	177,921,850	349,465,930
第2章 新生物	11,415,830	8,079,540	28,417,060	25,311,060	37,192,200	111,457,140	335,838,070
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	33,330,750	27,179,550	46,058,350	42,889,430	119,146,280	168,315,880	400,314,850
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	58,173,340	71,732,410	89,769,200	84,986,300	195,739,300	289,823,520	736,940,560
第5章 精神及び行動の障害	59,876,590	47,862,570	65,459,250	54,479,130	100,851,260	106,404,470	246,966,470
第6章 神経系の疾患	61,268,910	70,989,970	95,471,520	84,561,210	158,691,580	195,851,200	557,175,070
第7章 眼及び付属器の疾患	30,593,400	28,654,640	40,986,040	41,455,380	119,599,270	208,957,800	472,675,490
第8章 耳及び乳様突起の疾患	7,382,750	15,483,690	16,373,770	8,590,470	25,795,020	65,724,550	76,190,830
第9章 循環器系の疾患	42,797,090	49,232,540	83,944,360	86,905,240	196,466,280	305,264,950	758,990,480
第10章 呼吸器系の疾患	57,547,560	58,103,040	76,423,800	74,181,240	135,416,800	226,581,940	534,178,120
第11章 消化器系の疾患	76,750,000	81,759,540	118,370,170	105,630,320	219,110,720	340,599,130	790,719,630
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	56,611,190	59,759,750	90,117,490	75,009,680	155,327,280	225,088,010	552,541,930
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	56,206,850	65,530,060	105,775,610	84,613,200	161,084,490	270,246,420	668,932,850
第14章 腎尿路性器系の疾患	40,208,260	20,666,390	71,384,940	47,261,110	124,495,360	155,220,050	432,146,970
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	8,727,160	166,050	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	108,930	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	9,702,400	1,422,890	706,340	1,017,880	11,442,910	4,844,740	39,200,260
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	62,706,430	64,673,600	94,104,550	83,143,600	153,077,280	268,197,570	620,690,650
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,875,870	19,152,190	25,454,540	17,851,100	58,951,890	52,610,310	201,778,370

表 4-3 疾病分類別の年齢階級別受療割合

単位[%]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	22.7	12.9	7.6	7.2	8.1	4.9	8.0	7.2
第2章 新生物	0.5	0.6	0.9	0.4	0.9	1.4	2.4	2.2
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	0.5	0.8	1.4	1.3	1.6	1.6	2.5	3.5
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.9	1.1	2.1	3.2	2.8	3.0	5.8	8.8
第5章 精神及び行動の障害	1.1	2.5	5.8	3.4	6.0	9.2	9.6	9.7
第6章 神経系の疾患	0	1.7	5.1	5.3	4.2	7.9	9.3	10.1
第7章 眼及び付属器の疾患	10.5	22.9	30.2	19.5	9.9	6.2	8.1	9.7
第8章 耳及び乳様突起の疾患	16.5	22.9	16.4	5.3	2.8	2.5	2.4	3.5
第9章 循環器系の疾患	1.1	1.1	3.5	1.9	1.0	1.3	2.5	3.4
第10章 呼吸器系の疾患	60.8	59.5	47.9	33.1	21.4	20.1	22.5	21.6
第11章 消化器系の疾患	8.4	5.5	6.9	7.2	7.0	8.3	11.2	13.1
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	46.2	30.3	27.6	20.8	13.6	10.5	14.2	12.9
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	2.2	2.3	6.7	6.8	2.9	5.5	7.8	8.4
第14章 腎尿路性器系の疾患	1.6	1.9	2.3	2.8	7.0	6.5	9.0	9.0
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	0.4	1.1	2.3	1.4
第16章 周産期に発生した病態	1.4	0.4	0	0	0.1	0	0.1	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	2.7	1.1	1.2	0.6	0.1	0.6	0.8	0.7
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	21.4	16.1	13.1	11.2	7.4	8.1	7.9	11.1
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3.0	6.1	10.4	8.5	1.8	1.9	1.9	2.9

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	9.4	7.6	8.3	8.6	12.5	14.6	18.0
第2章 新生物	4.4	3.1	5.1	5.2	6.6	8.8	10.9
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	4.6	5.6	5.3	5.0	9.4	10.4	12.7
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	11.1	15.9	19.4	24.3	33.9	44.2	51.2
第5章 精神及び行動の障害	11.8	12.3	13.4	13.2	11.4	10.2	12.2
第6章 神経系の疾患	13.6	16.3	17.0	19.8	23.2	23.6	29.5
第7章 眼及び付属器の疾患	14.8	15.4	17.8	18.2	29.1	36.6	41.4
第8章 耳及び乳様突起の疾患	4.5	3.7	3.8	4.4	5.6	8.3	8.1
第9章 循環器系の疾患	6.4	12.0	16.8	23.2	33.2	42.0	51.8
第10章 呼吸器系の疾患	26.1	24.8	22.5	23.4	31.0	34.8	35.7
第11章 消化器系の疾患	19.0	22.2	24.5	28.0	36.5	44.7	51.0
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	15.8	15.8	16.4	15.4	23.6	24.6	27.5
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	14.2	14.7	19.3	23.5	30.4	37.2	44.4
第14章 腎尿路性器系の疾患	11.1	8.6	11.2	9.3	13.3	13.9	19.1
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1.1	0.1	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0.1	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	0.8	0.4	0.5	1.6	1.0	1.1
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	15.0	14.2	17.6	17.1	23.0	27.3	32.4
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.8	4.1	3.7	4.6	8.5	8.1	11.1

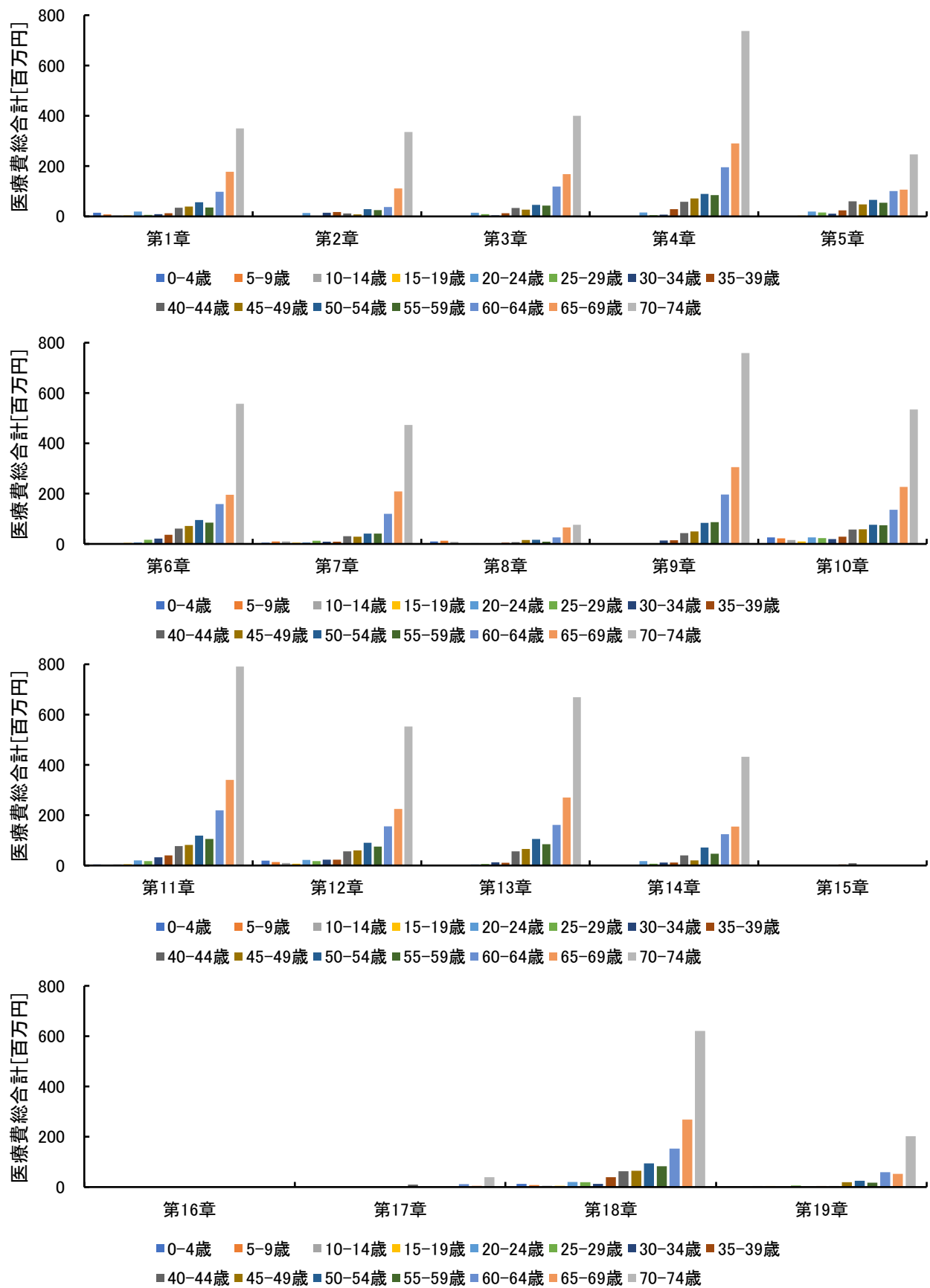


図 4-4 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合

表 4-4、図 4-5 に疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値を示した。20 歳未満は人数が少ないため、20-24 歳より記載する。高額な医療費の影響を受けにくくするため、中央値を示した。さらに、該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。表 4-4、図 4-5 より、45-49 歳のタイミングで各章の入院医療費が大きく増加していることがわかった。

表 4-5、図 4-6 に疾病分類別の年齢階級別入院受療割合を示した。表 4-5、図 4-6 より、40-44 歳以降から大きく増加し、受療割合が 1.0%を超えている疾患として、下記の章が挙げられる(第 18 章を除く)。

- 第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病、脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症、アルツハイマー病、うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害、多発性ニューロパチー、末梢神経障害性疼痛等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪)、急性気管支炎、ぜんそく、慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕、食道炎、胃潰瘍等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎、アトピー、乾皮症(皮膚乾燥症)等)

70-74 歳で受療割合が 2.0%を超えている疾患として、下記の章が挙げられる(第 18 章を除く)。

- 第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病、脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害、多発性ニューロパチー、末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患、心房細動、不整脈、心不全等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪)、急性気管支炎、ぜんそく、慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍、便秘、胃炎等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎、アトピー、乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風、関節炎、股関節症、膝関節症、脊柱管狭窄症、坐骨神経痛などの廃部疾患、肩の障害、骨粗しょう症等)

表 4-4 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

											単位[円]
疾病分類名	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0	0	150,590	617,770	1,403,690	3,193,970	805,680	1,161,115	3,000,260	1,092,540	1,041,760
第2章 新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	132,180	398,075	1,184,765
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	17,660	257,000	330,980	427,090	2,306,950	500,420	1,609,300	775,250	969,190	927,560
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	0	0	617,770	952,465	3,562,960	1,141,605	590,630	669,110	918,415	802,945
第5章 精神及び行動の障害	0	0	329,590	729,420	1,226,180	2,306,950	2,025,475	2,253,580	4,303,460	1,131,215	1,296,085
第6章 神経系の疾患	0	0	270,960	725,290	1,173,350	2,934,955	1,501,240	1,919,320	2,578,375	828,760	1,016,460
第7章 眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	258,785	412,830	265,780	402,910	914,630	438,905	513,175
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	79,340	0	0	0	336,510	1,460,365	484,625
第9章 循環器系の疾患	0	0	0	0	952,465	3,821,975	1,110,940	569,810	669,110	1,008,070	794,515
第10章 呼吸器系の疾患	0	338,280	256,150	524,120	494,180	2,934,955	553,390	1,261,610	343,580	828,760	800,640
第11章 消化器系の疾患	465,980	2,090	255,300	581,300	669,060	2,306,950	1,110,940	624,175	620,190	549,010	818,245
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0	338,280	0	406,580	1,077,430	3,193,970	2,629,820	1,609,300	875,465	828,760	838,660
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	0	202,945	386,000	1,278,725	1,791,745	1,954,670	1,688,330	497,490	741,940	831,240
第14章 腎尿路性器系の疾患	0	0	21,920	386,000	982,885	0	1,525,065	3,056,920	720,405	492,350	1,041,760
第15章 妊娠、分娩及び産後	0	58,640	21,920	386,000	341,960	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,332,605
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	2,202,625	783,765	599,535	795,390	2,306,950	1,359,630	624,175	405,170	549,010	1,048,435
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0	0	0	0	0	1,730,765	2,825,710	597,265	343,580	281,830	796,820

表 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

疾病分類名	単位[%]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0.2	0.1	0.7	0.5	0.5	0.3	0.6	0.5	0.7	1.0	1.3
第2章 新生物	0	0.1	0.2	0	0.1	0	0.1	0.2	0.5	0.6	1.1
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.2	0.2	0.7	0.4	0.9	0.3	0.2	0.4	0.9	0.9	1.4
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.1	0	0.2	0.7	1.0	0.9	0.9	1.2	1.6	2.2	2.8
第5章 精神及び行動の障害	0.2	0.2	0.5	0.5	1.3	0.6	1.0	0.7	1.0	1.1	1.5
第6章 神経系の疾患	0.2	0.2	0.5	0.6	1.4	0.8	1.2	1.1	1.6	1.7	2.5
第7章 眼及び付属器の疾患	0.1	0.1	0.2	0.2	0.4	0.3	0.4	0.4	1.1	1.3	1.7
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.4	0.3	0.3
第9章 循環器系の疾患	0	0	0.1	0.1	0.8	0.5	0.8	1.3	2.0	2.0	3.0
第10章 呼吸器系の疾患	0.1	0.2	1.0	0.4	1.3	0.5	0.8	1.0	1.2	1.5	2.2
第11章 消化器系の疾患	0.3	0.2	0.9	1.1	2.0	0.9	1.4	1.7	2.3	2.6	3.3
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0.2	0.2	0.2	0.7	1.2	0.7	0.9	1.1	1.2	1.1	2.0
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.2	0	0.6	0.5	0.8	0.8	1.0	0.9	1.4	1.9	2.6
第14章 腎尿路性器系の疾患	0.2	0.2	0.9	0.5	0.6	0.1	0.6	0.3	1.1	1.0	1.7
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.2	0.4	0.7	0.7	0.5	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0.1	0.0	0.2	0	0	0	0.1	0	0.2
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.1	0.3	0.4	1.0	1.1	0.8	0.9	1.2	1.5	1.9	2.6
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.5	0.3	0.3	0.8	0.6	0.9

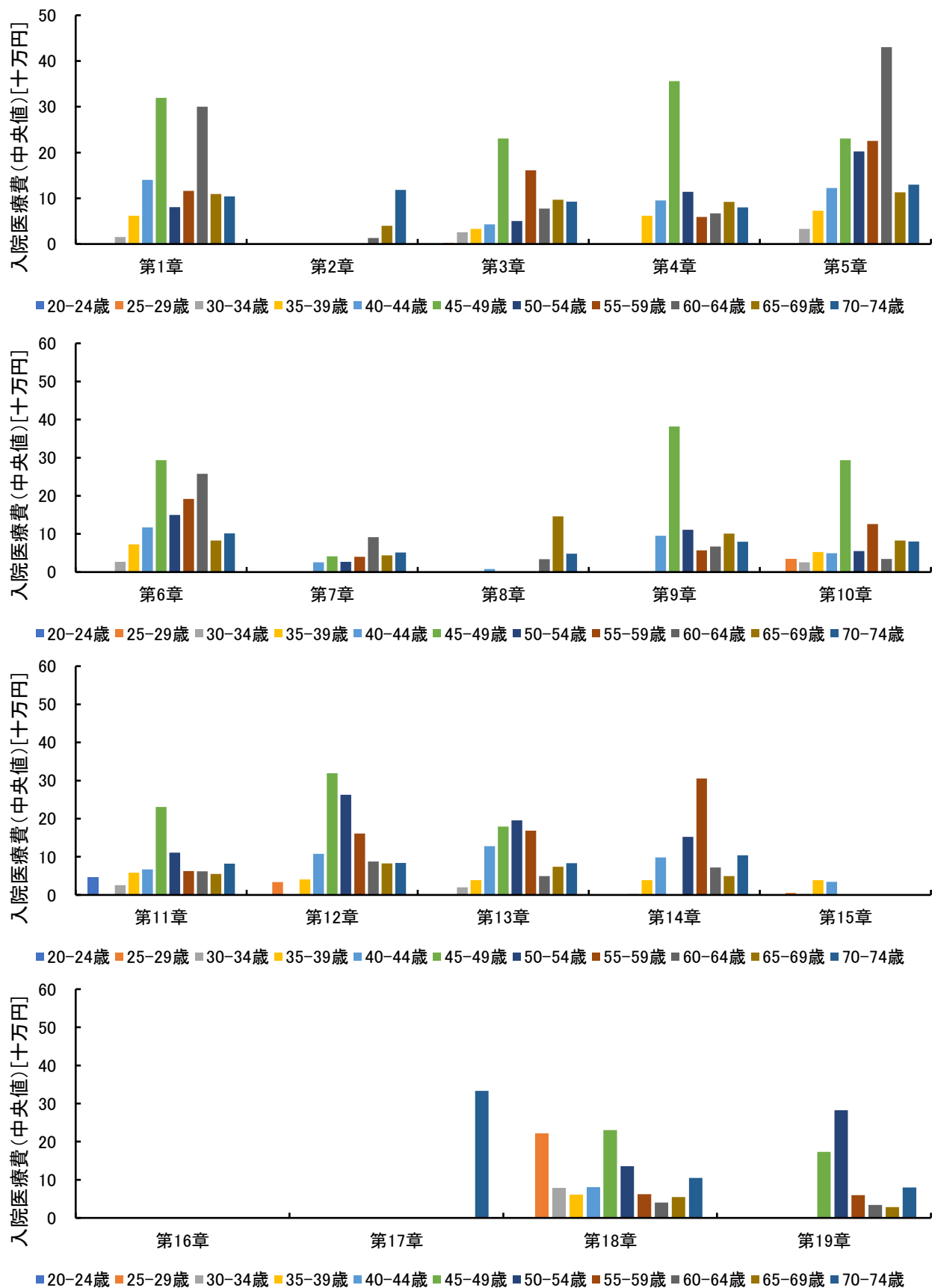


図 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

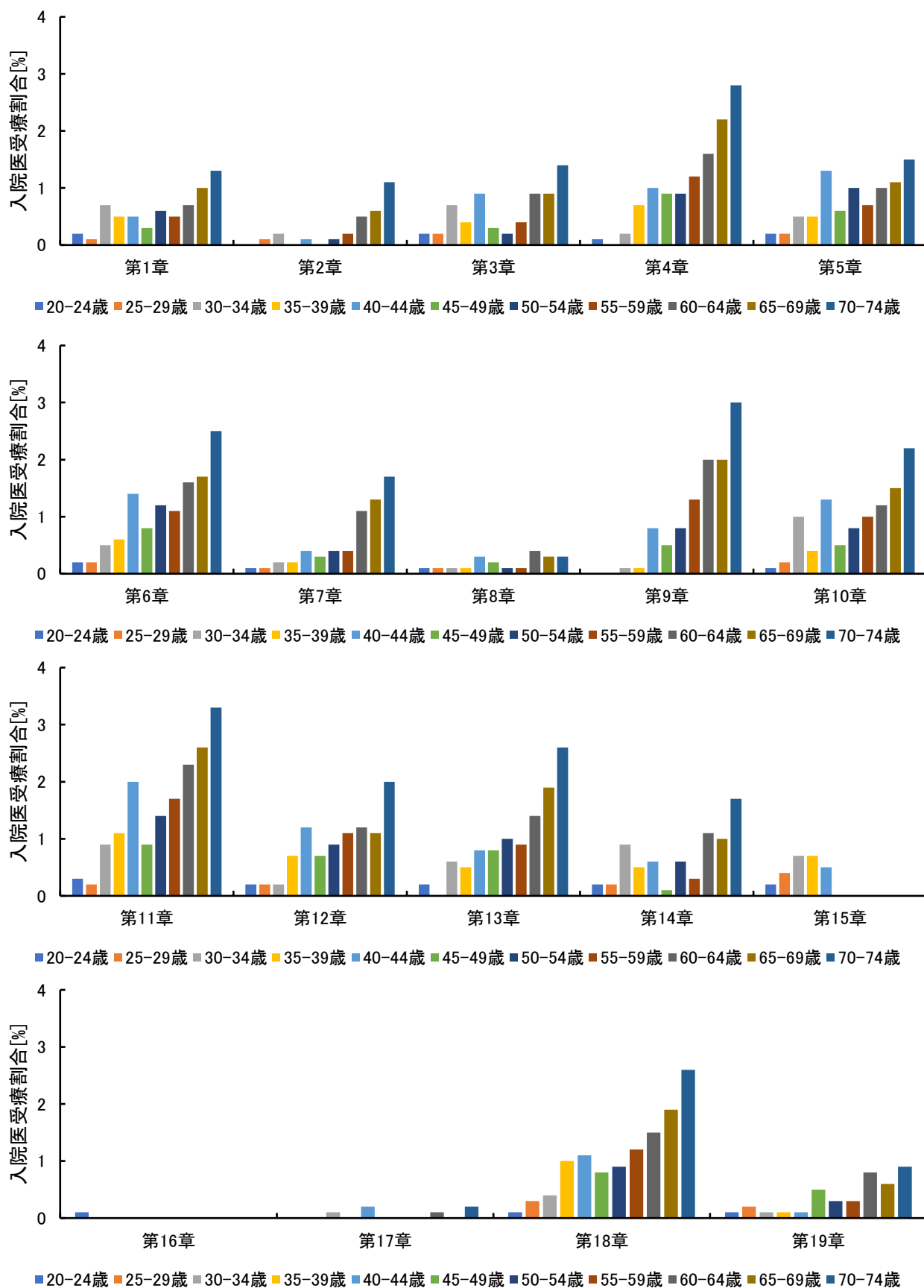


図 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合

表 4-6, 図 4-7 に疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値を示した。高額な医療費の影響を受けにくくするため, 中央値を示した。さらに, 該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。

表 4-6, 図 4-7 より, 鉄欠乏性貧血が含まれる第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害, 糖尿病, 脂質異常症が含まれる第 4 章の内分泌, 栄養及び代謝疾患, 統合失調症が含まれる第 5 章の精神及び行動の障害, 高血圧性疾患が含まれる第 9 章の循環器系の疾患は 40-44 歳から増加傾向にあり, 100 万円以上使用していた。

ウイルス性胃腸炎が含まれる第 1 章の感染症及び寄生虫症, 胃がんが含まれる第 2 章の新生物, 鉄欠乏性貧血が含まれる第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害, 統合失調症が含まれる第 5 章の精神及び行動の障害, 睡眠障害が含まれる第 6 章の神経系の疾患, 外耳炎が含まれる第 8 章の耳及び乳様突起の疾患, 感染性皮膚炎が含まれる第 12 章の皮膚及び皮下組織の疾患, 腎不全が含まれる第 14 章の腎尿路性器系の疾患は 70-74 歳で 140 万円以上使用していた(第 17~19 章を除く)。

表 4-7, 図 4-8 に疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合を示した。表 4-7, 図 4-8 より, ウイルス性胃腸炎が含まれる第 1 章の感染症及び寄生虫症, 結膜炎が含まれる第 7 章の眼及び付属器の疾患, 外耳炎が含まれる第 8 章の耳及び乳様突起の疾患, 急性上気道感染症が含まれる第 10 章の呼吸器系の疾患, 感染性皮膚炎が含まれる第 12 章の皮膚及び皮下組織の疾患は幼児期と高齢期に高い割合であることがわかった(第 18, 19 章を除く)。

年齢とともに受療割合が増加している疾病として, 下記の章が挙げられる。

- 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- 第 3 章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血等)
- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症, アルツハイマー病, うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路性器系の疾患(腎不全等)

表 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	138,865	105,540	83,930	39,690	45,170	51,400	71,050	86,180
第2章 新生物	0	97,700	116,115	0	61,800	92,485	80,565	119,430
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	210,405	127,640	92,055	108,760	83,560	82,080	102,045
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	302,160	127,870	117,490	117,890	68,780	88,070	74,870	89,740
第5章 精神及び行動の障害	72,680	111,595	86,010	71,830	56,535	57,325	58,055	87,825
第6章 神経系の疾患	0	61,800	117,925	89,460	81,760	66,915	65,210	112,045
第7章 眼及び付属器の疾患	122,290	68,605	56,390	31,290	33,370	31,760	40,360	53,990
第8章 耳及び乳様突起の疾患	136,430	90,485	87,840	33,510	70,370	46,470	47,310	72,250
第9章 循環器系の疾患	372,175	326,830	127,340	82,210	62,875	90,470	100,720	91,380
第10章 呼吸器系の疾患	93,020	61,160	56,725	39,105	39,060	43,495	47,900	55,610
第11章 消化器系の疾患	95,670	129,350	92,515	61,500	63,120	65,335	70,640	76,460
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	81,990	72,600	68,040	35,290	32,120	40,470	50,275	58,110
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	121,085	139,530	75,390	76,995	75,785	66,700	63,700	65,180
第14章 泌尿路性器系の疾患	95,115	82,760	91,725	65,630	48,300	59,090	74,220	73,230
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	59,085	43,590	82,080	58,380
第16章 周産期に発生した病態	179,030	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	131,305	155,250	75,390	28,620	0	104,520	90,040	126,830
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	133,710	81,610	74,760	89,460	70,590	69,760	84,275	88,820
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	122,920	72,960	66,170	66,545	115,550	68,055	57,450	59,005

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	93,950	90,195	110,350	117,970	139,260	138,340	162,620
第2章 新生物	94,540	99,620	125,930	112,120	163,085	156,260	217,155
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	116,940	104,595	121,190	139,955	190,030	161,310	182,185
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	106,980	89,870	93,100	97,235	114,820	103,210	130,140
第5章 精神及び行動の障害	105,380	101,720	89,910	103,865	130,830	150,830	145,870
第6章 神経系の疾患	89,225	100,790	93,130	106,510	123,520	132,360	153,065
第7章 眼及び付属器の疾患	63,620	76,080	72,970	73,265	90,120	110,240	128,075
第8章 耳及び乳様突起の疾患	69,490	90,860	86,800	107,220	92,960	125,860	146,990
第9章 循環器系の疾患	144,630	87,730	90,530	87,340	109,105	105,550	126,445
第10章 呼吸器系の疾患	66,390	70,010	74,120	81,800	102,020	110,670	137,410
第11章 消化器系の疾患	90,730	81,160	94,290	91,515	115,080	113,430	138,440
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	81,180	72,890	86,650	93,090	110,340	124,785	145,030
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	91,120	77,500	92,065	88,520	113,980	116,580	138,960
第14章 泌尿路性器系の疾患	87,710	87,730	99,600	106,025	142,485	144,080	165,425
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	108,270	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	163,740	83,605	102,130	173,820	187,250	134,710	143,750
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	102,780	89,870	95,845	108,675	134,670	128,110	152,920
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	67,975	94,840	111,945	112,835	156,485	149,290	175,420

表 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合

単位[%]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	22.7	12.9	7.6	7.2	8.1	4.9	8.0	7.2
第2章 新生物	0.5	0.6	0.9	0.4	0.9	1.4	2.4	2.2
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	0.5	0.8	1.4	1.3	1.6	1.6	2.5	3.5
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.9	1.1	2.1	3.2	2.8	3.0	5.8	8.8
第5章 精神及び行動の障害	1.1	2.5	5.8	3.4	6.0	9.2	9.3	9.6
第6章 神経系の疾患	0	1.7	5.1	5.3	4.2	7.9	9.2	10.0
第7章 眼及び付属器の疾患	10.5	22.9	30.2	19.5	9.9	6.2	8.1	9.7
第8章 耳及び乳様突起の疾患	16.5	22.9	16.4	5.3	2.8	2.5	2.4	3.5
第9章 循環器系の疾患	1.1	1.1	3.5	1.9	1.0	1.3	2.5	3.3
第10章 呼吸器系の疾患	60.8	59.5	47.9	33.1	21.4	20.1	22.4	21.6
第11章 消化器系の疾患	8.4	5.5	6.9	7.2	7.0	8.2	11.2	13.1
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	46.2	30.3	27.6	20.8	13.6	10.5	14.2	12.9
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	2.2	2.3	6.7	6.8	2.9	5.5	7.8	8.4
第14章 泌尿路性器系の疾患	1.6	1.9	2.3	2.8	7.0	6.5	9.0	9.0
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	0.4	1.1	2.3	1.4
第16章 周産期に発生した病態	1.4	0.4	0	0	0.1	0	0.1	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	2.7	1.1	1.2	0.6	0.1	0.6	0.8	0.7
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	21.4	16.1	13.1	11.2	7.4	8.1	7.9	11.1
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3.0	6.1	10.4	8.5	1.8	1.9	1.9	2.9

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	9.3	7.5	8.3	8.6	12.4	14.6	18.0
第2章 新生物	4.4	3.1	5.1	5.2	6.6	8.8	10.9
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	4.3	5.5	5.3	5.0	9.3	10.4	12.6
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	10.8	15.6	19.2	24.3	33.8	44.1	50.9
第5章 精神及び行動の障害	11.3	12.1	13.0	13.1	11.2	10.1	11.8
第6章 神経系の疾患	13.1	16.0	16.6	19.6	23.0	23.4	29.2
第7章 眼及び付属器の疾患	14.8	15.4	17.7	18.2	28.9	36.6	41.4
第8章 耳及び乳様突起の疾患	4.5	3.6	3.7	4.4	5.5	8.3	8.1
第9章 循環器系の疾患	6.3	11.9	16.8	23.1	33.1	41.8	51.5
第10章 呼吸器系の疾患	25.8	24.6	22.4	23.2	30.8	34.7	35.5
第11章 消化器系の疾患	18.3	22.0	24.2	27.8	36.3	44.4	50.5
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	15.5	15.6	16.2	15.4	23.5	24.5	27.3
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	14.0	14.5	19.0	23.4	30.3	37.0	44.2
第14章 泌尿路性器系の疾患	11.0	8.6	11.0	9.3	13.3	13.8	18.9
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1.1	0.1	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0.1	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	0.8	0.4	0.5	1.6	1.0	1.1
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	14.8	13.9	17.3	16.9	22.9	27.2	32.0
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.8	4.0	3.6	4.6	8.4	8.1	11.1

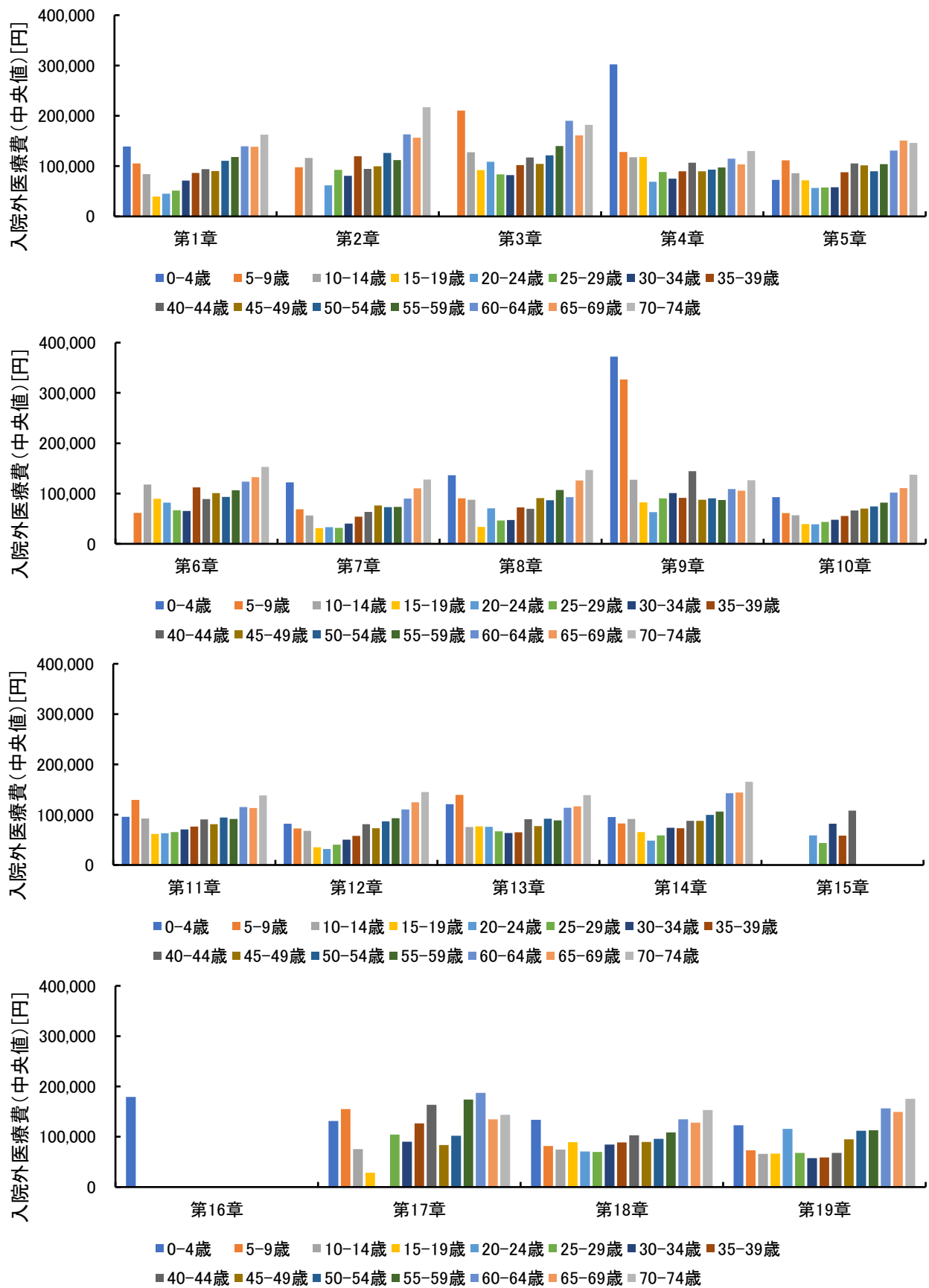


図 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

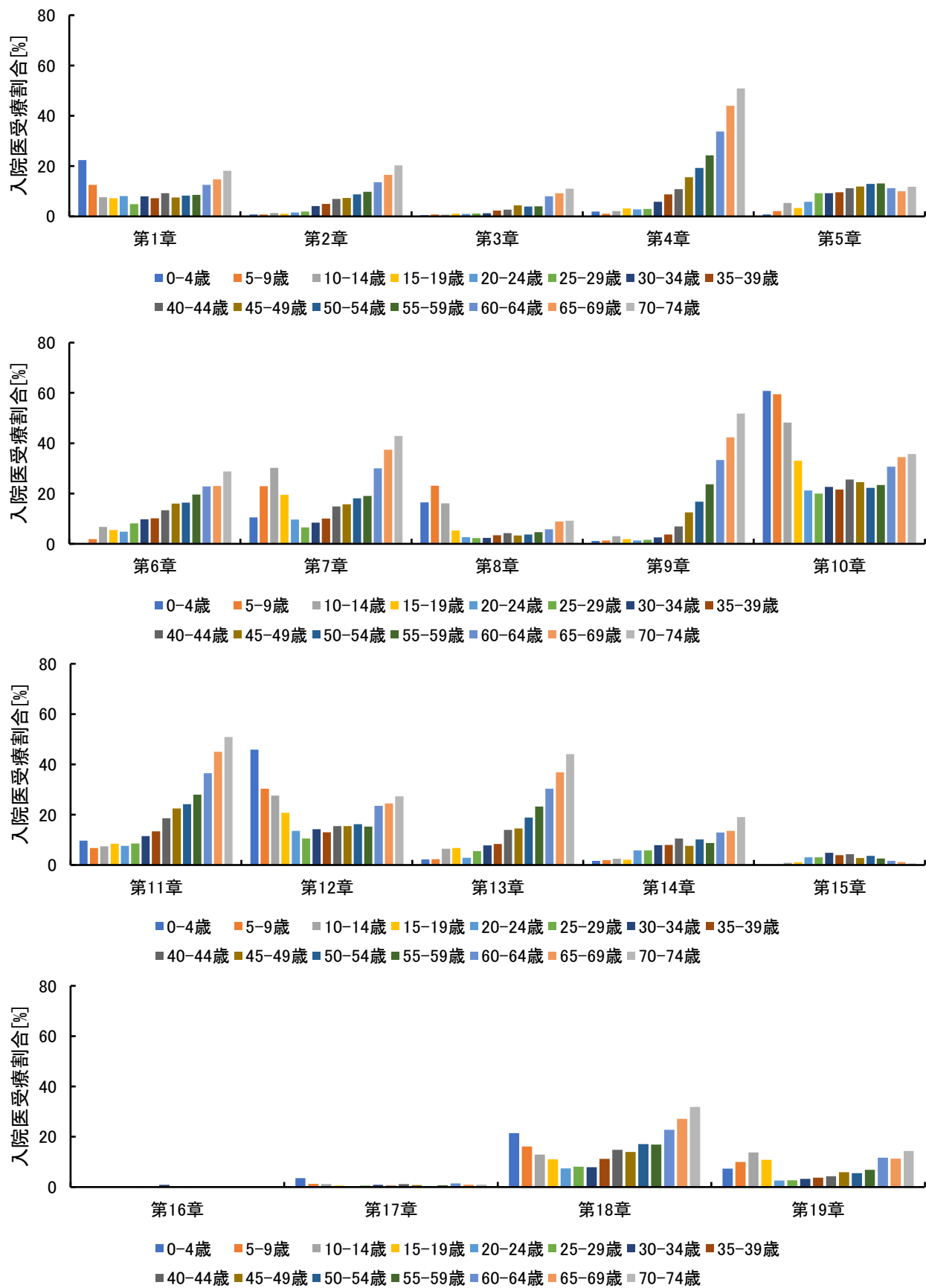


図 4-8 疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合

第 5 章 国保医療費の上位疾患の構造

1. 総医療費の上位疾患

表 5-1 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位 30 位までの傷病名と患者数、受療割合を示した。第 15 位には高脂血症(傷病名コード: 2724007)、第 16 位には脂質異常症(8844446)がある。分析には ICD10 の傷病名コードを利用しているため、この 2 つの類似の傷病名が分かれている。

表 5-1 より、患者数は 2 位に高血圧症(3,305 人(18.2%)、令和 3 年度:1 位(20.5%))、16 位に脂質異常症(1,152 人(6.3%)、令和 3 年度:18 位(7.0%))、21 位に糖尿病(1,118 人(6.2%)、令和 3 年度:20 位(6.8%))が位置していることから、慢性疾患患者の人数が多いことがわかった。また、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、近視性乱視、湿疹、白内障、脂質欠乏症など呼吸器系、眼科系、皮膚に関する疾患の患者数も多いことがわかった。

表 5-1 総医療費の患者数に関わる上位疾患

患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	3,720	20.5	16位	脂質異常症	1,152	6.3
2位	高血圧症	3,305	18.2	17位	急性副鼻腔炎	1,145	6.3
3位	アレルギー性結膜炎	2,418	13.3	18位	白内障	1,131	6.2
4位	急性気管支炎	2,252	12.4	19位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	1,123	6.2
5位	近視性乱視	2,106	11.6	20位	COVID-19	1,121	6.2
6位	急性上気道炎	1,993	11.0	21位	糖尿病	1,118	6.2
7位	不眠症	1,871	10.3	22位	胃潰瘍	1,113	6.1
8位	便秘症	1,735	9.5	23位	鉄欠乏性貧血	1,101	6.1
9位	気管支喘息	1,513	8.3	24位	脂質欠乏症	1,098	6.0
10位	湿疹	1,443	7.9	25位	骨粗鬆症	1,060	5.8
11位	高コレステロール血症	1,410	7.8	26位	逆流性食道炎	1,059	5.8
12位	急性咽喉頭炎	1,400	7.7	27位	2型糖尿病	1,055	5.8
13位	腰痛症	1,358	7.5	28位	急性咽喉炎	1,042	5.7
14位	慢性胃炎	1,349	7.4	29位	胃炎	1,027	5.7
15位	高脂血症	1,227	6.8	30位	ドライアイ	919	5.1

表 5-2 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位 30 位までの傷病名と患者数、受療割合を性別に示した。表 5-2 より、慢性疾患の高血圧症は男性は 1 位(令和 3 年度:1 位)、女性は 3 位(令和 3 年度:2 位)、脂質異常症は男性は 21 位(令和 3 年度:20 位)、女性は 23 位(令和 3 年度:19 位)、糖尿病は男性は 14 位(令和 3 年度:13 位)、女性は 30 位(令和 3 年度:29 位)であった。その他に、不眠症は男性 7 位、女性 6 位、便秘症は男性 8 位、女性 8 位であった。また、女性の変形性膝関節症は 26 位に位置していた。

表 5-2 総医療費の患者数に関わる性別の上位疾患

男性				女性			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	1,776	20.6	1位	アレルギー性鼻炎	2,255	23.6
2位	アレルギー性鼻炎	1,465	17.0	2位	アレルギー性結膜炎	1,657	17.4
3位	急性気管支炎	916	10.6	3位	高血圧症	1,529	16.0
4位	急性上気道炎	898	10.4	4位	急性気管支炎	1,336	14.0
5位	近視性乱視	853	9.9	5位	近視性乱視	1,253	13.1
6位	アレルギー性結膜炎	761	8.8	6位	不眠症	1,132	11.9
7位	不眠症	739	8.6	7位	急性上気道炎	1,095	11.5
8位	便秘症	714	8.3	8位	便秘症	1,021	10.7
9位	高尿酸血症	698	8.1	9位	気管支喘息	897	9.4
10位	高コレステロール血症	644	7.5	10位	骨粗鬆症	893	9.4
11位	2型糖尿病	631	7.3	11位	湿疹	891	9.3
12位	気管支喘息	616	7.1	12位	急性咽頭喉頭炎	879	9.2
13位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	609	7.1	13位	慢性胃炎	804	8.4
14位	糖尿病	582	6.7	14位	腰痛症	786	8.2
15位	高脂血症	582	6.7	15位	高コレステロール血症	766	8.0
16位	腰痛症	572	6.6	16位	白内障	738	7.7
17位	COVID-19	554	6.4	17位	急性副鼻腔炎	718	7.5
18位	湿疹	552	6.4	18位	ドライアイ	667	7.0
19位	胃潰瘍	551	6.4	19位	鉄欠乏性貧血	663	6.9
20位	慢性胃炎	545	6.3	20位	高脂血症	645	6.8
21位	脂質異常症	526	6.1	21位	皮脂欠乏症	637	6.7
22位	急性咽頭喉頭炎	521	6.0	22位	胃炎	631	6.6
23位	逆流性食道炎	506	5.9	23位	脂質異常症	626	6.6
24位	皮脂欠乏症	461	5.3	24位	遠視性乱視	605	6.3
25位	急性咽頭炎	447	5.2	25位	急性咽頭炎	595	6.2
26位	鉄欠乏性貧血	438	5.1	26位	変形性膝関節症	568	5.9
27位	急性副鼻腔炎	427	4.9	27位	COVID-19	567	5.9
28位	発熱	413	4.8	28位	胃潰瘍	562	5.9
29位	前立腺肥大症	400	4.6	29位	逆流性食道炎	553	5.8
30位	胃炎	396	4.6	30位	糖尿病	536	5.6

表 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位 15 位までの傷病名と患者数、受療割合を年齢階級別に示した。表 5-3 より、10-14 歳から 50-54 歳までの 1 位はアレルギー性鼻炎であり、アレルギー性結膜炎も高い順位を位置していることがわかった。うつ病は 25-29 歳(7 位)、統合失調症は 40-44 歳(15 位)、不眠症は 25-29 歳(5 位)で患者数が多いことがわかった。また、高血圧症は 45-49 歳(3 位)、糖尿病、脂質異常症は 55-59 歳(糖尿病 12 位、脂質異常症 14 位)から患者数が多いことがわかった。

表 5-3(a) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(0-19 歳)

0-4歳				5-9歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	急性上気道炎	204	55.1	1位	急性上気道炎	220	46.6
2位	急性気管支炎	186	50.3	2位	アレルギー性鼻炎	220	46.6
3位	アレルギー性鼻炎	169	45.7	3位	急性気管支炎	189	40.0
4位	気管支喘息	111	30.0	4位	気管支喘息	146	30.9
5位	湿疹	110	29.7	5位	耳垢栓塞	124	26.3
6位	発熱	98	26.5	6位	アレルギー性結膜炎	113	23.9
7位	急性咽頭炎	90	24.3	7位	急性咽頭喉頭炎	109	23.1
8位	急性胃腸炎	82	22.2	8位	急性咽頭炎	93	19.7
9位	皮脂欠乏症	80	21.6	9位	発熱	92	19.5
10位	皮脂欠乏性湿疹	74	20.0	10位	急性副鼻腔炎	83	17.6
11位	耳垢栓塞	73	19.7	11位	湿疹	76	16.1
12位	急性咽頭喉頭炎	69	18.6	12位	皮脂欠乏症	76	16.1
13位	急性副鼻腔炎	61	16.5	13位	急性胃腸炎	56	11.9
14位	急性湿疹	45	12.2	14位	COVID-19	49	10.4
15位	COVID-19	38	10.3	15位	じんま疹	42	8.9

10-14歳				15-19歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	173	39.9	1位	アレルギー性鼻炎	99	21.0
2位	アレルギー性結膜炎	124	28.6	2位	急性上気道炎	91	19.3
3位	急性上気道炎	118	27.2	3位	近視性乱視	74	15.7
4位	急性気管支炎	108	24.9	4位	急性気管支炎	72	15.3
5位	気管支喘息	87	20.0	5位	COVID-19	72	15.3
6位	耳垢栓塞	83	19.1	6位	アレルギー性結膜炎	67	14.2
7位	急性咽頭喉頭炎	78	18.0	7位	急性咽頭炎	56	11.9
8位	急性咽頭炎	76	17.5	8位	皮脂欠乏症	45	9.5
9位	近視性乱視	73	16.8	9位	発熱	41	8.7
10位	皮脂欠乏症	64	14.7	10位	尋常性ざ瘡	41	8.7
11位	急性副鼻腔炎	63	14.5	11位	急性咽頭喉頭炎	35	7.4
12位	COVID-19	54	12.4	12位	急性副鼻腔炎	34	7.2
13位	発熱	46	10.6	13位	アトピー性皮膚炎	30	6.4
14位	湿疹	46	10.6	14位	耳垢栓塞	26	5.5
15位	じんま疹	35	8.1	15位	気管支喘息	25	5.3
	外耳湿疹	35	8.1		湿疹	25	5.3

表 5-3(b) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(20-39 歳)

20-24歳				25-29歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	130	12.7	1位	アレルギー性鼻炎	161	12.7
2位	急性上気道炎	111	10.8	2位	急性上気道炎	126	10.0
3位	近視性乱視	100	9.8	3位	急性気管支炎	114	9.0
4位	急性気管支炎	90	8.8	4位	COVID-19	90	7.1
5位	COVID-19	72	7.0	5位	不眠症	79	6.2
6位	急性咽頭炎	72	7.0	6位	急性咽頭喉頭炎	72	5.7
7位	アレルギー性結膜炎	64	6.2	7位	うつ病	72	5.7
8位	急性咽頭喉頭炎	58	5.7	8位	気管支喘息	68	5.4
9位	発熱	55	5.4	9位	近視性乱視	66	5.2
10位	皮脂欠乏症	48	4.7	10位	アレルギー性結膜炎	66	5.2
11位	急性副鼻腔炎	43	4.2	11位	急性咽頭炎	65	5.1
12位	気管支喘息	39	3.8	12位	急性副鼻腔炎	58	4.6
13位	顔面尋常性ざ瘡	39	3.8	13位	湿疹	56	4.4
14位	アトピー性皮膚炎	38	3.7	14位	発熱	48	3.8
15位	月経困難症	34	3.3	15位	神経症	47	3.7

30-34歳				35-39歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	179	18.2	1位	アレルギー性鼻炎	156	15.0
2位	急性気管支炎	104	10.6	2位	急性上気道炎	103	9.9
3位	急性上気道炎	94	9.6	3位	急性気管支炎	95	9.2
4位	急性咽頭喉頭炎	84	8.5	4位	アレルギー性結膜炎	90	8.7
5位	アレルギー性結膜炎	84	8.5	5位	近視性乱視	90	8.7
6位	COVID-19	75	7.6	6位	不眠症	76	7.3
7位	不眠症	67	6.8	7位	急性咽頭喉頭炎	75	7.2
8位	急性咽頭炎	62	6.3	8位	急性副鼻腔炎	65	6.3
9位	気管支喘息	61	6.2	9位	気管支喘息	63	6.1
10位	急性副鼻腔炎	59	6.0	10位	COVID-19	62	6.0
11位	近視性乱視	52	5.3	11位	急性咽頭炎	54	5.2
12位	湿疹	48	4.9	12位	頭痛	46	4.4
13位	皮脂欠乏症	46	4.7	13位	慢性胃炎	46	4.4
14位	頭痛	39	4.0	14位	湿疹	45	4.3
15位	胃炎	39	4.0	15位	鉄欠乏性貧血	44	4.2
	アトピー性皮膚炎	39	4.0				

表 5-3(c) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(40-59 歳)

40-44歳				45-49歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	198	19.6	1位	アレルギー性鼻炎	211	17.6
2位	急性上気道炎	108	10.7	2位	アレルギー性結膜炎	125	10.4
3位	急性気管支炎	106	10.5	3位	高血圧症	118	9.8
4位	アレルギー性結膜炎	99	9.8	4位	不眠症	116	9.7
5位	近視性乱視	95	9.4	5位	近視性乱視	107	8.9
6位	不眠症	92	9.1	6位	急性上気道炎	103	8.6
7位	急性咽頭喉頭炎	78	7.7	7位	急性気管支炎	99	8.3
8位	COVID-19	75	7.4	8位	便秘症	89	7.4
9位	気管支喘息	73	7.2	9位	急性咽頭喉頭炎	77	6.4
10位	便秘症	73	7.2	10位	気管支喘息	77	6.4
11位	腰痛症	64	6.3	11位	COVID-19	75	6.3
12位	慢性胃炎	62	6.1	12位	慢性胃炎	73	6.1
13位	胃炎	59	5.8	13位	腰痛症	72	6.0
14位	鉄欠乏性貧血	57	5.6	14位	湿疹	72	6.0
15位	湿疹	54	5.3	15位	鉄欠乏性貧血	71	5.9
	統合失調症	54	5.3				

50-54歳				55-59歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	209	15.0	1位	高血圧症	230	19.0
2位	高血圧症	186	13.4	2位	アレルギー性鼻炎	197	16.3
3位	不眠症	163	11.7	3位	不眠症	143	11.8
4位	アレルギー性結膜炎	140	10.1	4位	便秘症	122	10.1
5位	近視性乱視	137	9.9	5位	アレルギー性結膜炎	118	9.8
6位	急性上気道炎	118	8.5	6位	近視性乱視	115	9.5
7位	急性気管支炎	116	8.3	7位	急性気管支炎	92	7.6
8位	便秘症	112	8.1	8位	慢性胃炎	92	7.6
9位	慢性胃炎	101	7.3	9位	腰痛症	91	7.5
10位	腰痛症	87	6.3	10位	高コレステロール血症	86	7.1
11位	統合失調症	84	6.0	11位	急性上気道炎	83	6.9
12位	胃炎	82	5.9	12位	糖尿病	75	6.2
13位	COVID-19	81	5.8	13位	維持療法の必要な難治性逆流性食	74	6.1
14位	急性咽頭喉頭炎	79	5.7	14位	脂質異常症	74	6.1
15位	湿疹	79	5.7	15位	高脂血症	73	6.0

表 5-3(d) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(60-74 歳)

60-64歳				65-69歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	360	28.1	1位	高血圧症	743	33.8
2位	アレルギー性鼻炎	254	19.8	2位	アレルギー性鼻炎	508	23.1
3位	近視性乱視	199	15.5	3位	アレルギー性結膜炎	396	18.0
4位	アレルギー性結膜炎	197	15.4	4位	近視性乱視	353	16.1
5位	不眠症	178	13.9	5位	高コレステロール血症	346	15.8
6位	便秘症	159	12.4	6位	白内障	290	13.2
7位	高脂血症	147	11.5	7位	脂質異常症	285	13.0
8位	腰痛症	133	10.4	8位	便秘症	280	12.8
9位	高コレステロール血症	130	10.1	9位	不眠症	268	12.2
10位	慢性胃炎	129	10.1	10位	高脂血症	266	12.1
11位	糖尿病	126	9.8	11位	急性気管支炎	265	12.1
12位	急性気管支炎	124	9.7	12位	骨粗鬆症	255	11.6
13位	維持療法の必要な難治性逆流性食	115	9.0	13位	糖尿病	240	10.9
14位	胃潰瘍	115	9.0	14位	維持療法の必要な難治性逆流性食	240	10.9
15位	急性上気道炎	114	8.9	15位	慢性胃炎	238	10.8
	湿疹	114	8.9				

70-74歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	1,588	41.4
2位	アレルギー性鼻炎	856	22.3
3位	アレルギー性結膜炎	700	18.3
4位	高コレステロール血症	697	18.2
5位	便秘症	694	18.1
6位	白内障	670	17.5
7位	不眠症	632	16.5
8位	骨粗鬆症	628	16.4
9位	近視性乱視	610	15.9
10位	高脂血症	584	15.2
11位	脂質異常症	550	14.4
12位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	545	14.2
13位	腰痛症	545	14.2
14位	糖尿病	515	13.4
15位	2型糖尿病	512	13.4

2. 入院医療費の上位疾患

図 5-1 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に, 入院医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院医療費の中央値を示した. 患者数が 3 名以下の場合には採用しなかった. 図 5-1 より, ローズピンク色(第 6 章)の神経系の疾患が全体の入院医療費では上位に位置することがわかった.

下段は医療費(中央値)[円]										
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	摂食障害	嚥下障害	脳性麻痺	敗血症性ショック	副腎皮質機能低下症	パーキンソン病	亜鉛欠乏症	殿部褥瘡	高血圧性緊急症	誤嚥性肺炎
	7,227,485	6,817,520	6,265,700	5,881,465	5,726,315	5,347,525	5,230,110	5,060,790	4,754,890	4,754,890

図 5-1 入院医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(人数 3 名以下は採用しない)

図 5-2 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院医療費の中央値を年齢階級別に示した。患者数が 3 名以下の場合には採用しなかった。図 5-2 より、黄緑色(第 5 章の精神及び行動の障害)の統合失調症は 40 歳から 64 歳までの働き世代で上位に位置していることがわかった。ローズピンク色(第 6 章の神経系の疾患)も 40 歳から 64 歳までの働き世代で多く、特に不眠症が上位に位置していることがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]										
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位		
40-44歳	嚥下障害	てんかん	薬剤性パーキンソン症候群	統合失調症	腰痛症	不眠症	COVID-19	急性呼吸不全	-	-
	6,852,145	4,894,140	2,853,390	1,192,940	773,280	669,060	644,785	214,660		
45-49歳	1位	2位	3位							
	不眠症	統合失調症	てんかん	-	-	-	-	-	-	-
50-54歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	
	骨粗鬆症	薬剤性パーキンソン症候群	COVID-19	統合失調症	てんかん	不眠症	腰痛症	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	呼吸不全	-
55-59歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位		
	てんかん	統合失調症	不眠症	脱水症	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	腰痛症	急性呼吸不全	来院時心肺停止	-	-
60-64歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	
	播種性血管内凝固	統合失調症	肺炎	不眠症	逆流性食道炎	狭心症	COVID-19	廃用症候群	慢性腎不全	腎性貧血
65-69歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	高次脳機能障害	陳旧性心筋梗塞	関節リウマチ	呼吸不全	胸水貯留	経口摂取困難	てんかん	副甲状腺機能亢進症	慢性腎不全	狭心症
70-74歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	末期腎不全	消化管出血	嚥下障害	経口摂取困難	器質性精神障害	出血性貧血	発作性心房細動	高次脳機能障害	症候性てんかん	頭部打撲
	4,907,485	4,514,215	3,196,390	3,010,200	2,970,445	2,748,705	2,614,405	2,582,755	2,374,160	2,318,840

図 5-2 入院医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(人数 3 名以下は採用しない)

3. 入院外医療費の上位疾患

図 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院外医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を示した。患者数が 10 名以下の場合には採用しなかった。図 5-3 より、全体の入院外医療費では水色(第 4 章の内分泌, 栄養及び代謝疾患)が上位に位置していることがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	透析シャント狭窄	透析困難症	高リン血症	続発性副甲状腺機能亢進症	末期腎不全	副甲状腺機能亢進症	腎性貧血	骨髄異形成症候群	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	転移性骨腫瘍
	4,779,900	4,512,190	4,437,140	4,088,080	3,550,080	3,386,370	2,689,800	1,185,160	1,181,010	1,030,730

図 5-3 入院外医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(人数 10 名以下は採用しない)

図 5-4 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院外医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を年齢階級別に示した。患者数が 10 名以下の場合には採用しなかった。図 5-4 より、オレンジ色(第 10 章の呼吸器系の疾患)は 0 歳から 29 歳までは上位に位置していることがわかった。ピンク色(第 1 章の感染症及び寄生虫症)の下痢症、胃腸炎は 0 歳～24 歳までは上位に位置していることがわかった。20-24 歳からは黄緑色(第 5 章の精神及び行動の障害)が増加していた。35-39 歳からは水色(第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患)が増加し、60 歳以上では 1～3 位に位置している結果となった。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
0-4歳	細菌感染症	扁桃炎	頭痛	急性喉頭炎	下痢症	インフルエンザ A 型	ヘルパンギーナ	気管支喘息発作	外耳炎	急性鼻炎	-
	218,775	215,450	188,830	182,840	165,880	164,215	162,690	157,300	156,730	148,960	
5-9歳	皮膚炎	急性喉頭炎	スギ花粉症	細菌感染症	外耳湿疹	急性鼻炎	下痢症	感冒	扁桃炎	便秘症	-
	183,020	180,900	177,900	164,005	159,780	159,780	157,515	155,250	131,170	131,000	
10-14歳	スギ花粉症	急性鼻炎	外耳湿疹	皮膚炎	下痢症	じんま疹	外耳炎	便秘症	頭痛	咽頭喉頭炎	-
	158,710	141,235	137,890	130,325	121,390	106,320	99,420	93,660	93,010	92,430	
15-19歳	便秘症	急性胃腸炎	足関節捻挫	不眠症	頭痛	気管支喘息	発熱	急性扁桃炎	胃炎	急性咽頭喉頭炎	うつ血性鼻炎
	117,730	106,170	90,520	89,460	75,360	74,060	61,260	58,525	50,620	49,130	49,130
20-24歳	片頭痛	嘔吐症	下痢症	うつ病	適応障害	急性鼻炎	外耳炎	気管支喘息	耳垢栓塞	急性胃腸炎	-
	87,520	87,115	83,520	81,760	81,760	78,840	72,975	71,580	71,370	70,330	
25-29歳	末梢神経障害性疼痛	腹痛症	腰椎椎間板ヘルニア	胃潰瘍	逆流性食道炎	咽頭喉頭炎	末梢神経障害	腰痛症	扁桃炎	躁うつ病	自律神経発作
	116,140	115,565	104,520	85,790	85,670	85,440	80,220	78,450	74,670	74,000	74,000
30-34歳	過敏性腸症候群	細菌感染症	外陰部腫瘍カンジダ症	頸肩腕症候群	片頭痛	便秘症	鉄欠乏性貧血	痔核	肝機能障害	皮膚炎	-
	134,550	103,450	100,730	90,300	88,170	82,690	82,080	77,640	76,840	75,470	
35-39歳	外耳炎	高血圧症	てんかん	高コレステロール血症	外耳湿疹	耳垢栓塞	高脂血症	嘔吐症	肝機能障害	躁うつ病	-
	150,450	144,970	143,185	140,290	139,520	129,200	126,840	119,430	117,410	111,190	

図 5-4(a) 入院外医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(0-4 歳～35-39 歳)
(人数 10 名以下は採用しない)

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
40-44歳	2型糖尿病	不整脈	子宮不正出血	神経症	てんかん	腰椎椎間板ヘルニア	高血圧症	頭痛	高尿酸血症	便秘症
	186,510	167,880	148,360	136,355	131,460	127,475	125,960	125,960	121,240	116,550
45-49歳	慢性気管支炎	睡眠時無呼吸症候群	躁うつ病	糖尿病網膜症	乳癌	甲状腺機能低下症	統合失調症	肩関節周囲炎	嘔吐症	脱水症
	267,840	194,550	163,670	162,280	159,460	157,660	140,765	136,080	135,310	130,615
50-54歳	慢性腎不全	慢性心不全	糖尿病網膜症	うつ血性心不全	尋常性疣贅	変形性腰椎症	貧血	口内炎	骨粗鬆症	末梢神経障害性疼痛
	294,850	226,370	216,990	200,540	196,890	196,800	184,905	170,005	168,860	155,630
55-59歳	化学療法に伴う嘔吐症	睡眠時無呼吸症候群	糖尿病網膜症	甲状腺機能低下症	外耳湿疹	変形性関節症	脱水症	2型糖尿病	内頸動脈狭窄症	慢性湿疹
	685,840	234,130	221,660	204,640	194,295	193,180	190,440	178,640	178,220	176,430
60-64歳	高リン血症	腎性貧血	高カリウム血症	慢性腎不全	慢性便秘	呼吸不全	化学療法に伴う嘔吐症	うつ血性心不全	慢性腸炎	睡眠時無呼吸症候群
	4,514,950	4,203,270	4,145,675	2,957,445	532,120	488,870	443,310	346,780	321,810	314,595
65-69歳	高リン血症	続発性副甲状腺機能亢進症	高カリウム血症	腎性貧血	化学療法に伴う嘔吐症	ニューモシス肺炎	慢性便秘	血液凝固異常	慢性動脈閉塞症	鼻涙管狭窄症
	4,437,140	4,152,690	3,386,370	2,509,615	1,212,170	622,615	601,560	582,320	526,915	477,820
70-74歳	高リン血症	カルニチン欠乏症	続発性副甲状腺機能亢進症	副甲状腺機能亢進症	腎性貧血	腎性浮腫	好中球減少症	胸水貯留	化学療法に伴う嘔吐症	癌性疼痛
	4,341,060	4,132,485	3,530,645	2,910,840	1,872,595	823,640	696,040	618,110	576,665	539,720

図 5-4(b) 入院外医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(40-44 歳～70-74 歳)
(人数 10 名以下は採用しない)

第6章 注目疾患別に見た診療の状況

1. 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院医療費

表 6-1 に慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-1 より，入院医療費は糖尿病，高血圧，脂質異常症の慢性疾患に加え，40-44 歳から心疾患，55-59 歳から脳血管疾患，60-64 歳から腎不全，65-69 歳から脳出血・脳梗塞の医療費が発生していることがわかった。

表 6-2 に慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院受療割合を示した。表 6-2 より，糖尿病の入院受療割合は 35-59 歳のタイミングで増加し，60-64 歳からは受療割合が 1.0%を超えていた。高血圧は 40-44 歳，55-59 歳，60-64 歳のタイミングで大きく増加し，60-64 歳からは受療割合が 1.6%を超えていた。脂質異常症は年齢に伴い増加し，65-69 歳からは受療割合が 1.0%を超えていた。心疾患，脳血管疾患，腎不全の受療割合は 60-64 歳のタイミングで大きく増加していた。

表 6-1 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院医療費の中央値（人数 2 名以下は採用しない）

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0	0	0	617,770	562,080	3,193,970	553,390	1,006,105	979,230	1,183,190	818,245
高血圧	0	0	0	0	669,060	3,821,975	526,905	624,175	571,270	741,940	834,760
脂質異常症	0	0	0	0	0	4,380,610	923,580	495,365	1,586,145	805,420	455,680
心疾患	0	0	0	0	562,080	0	0	408,935	405,170	1,367,780	788,390
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	2,569,900	336,510	2,146,580	1,253,920
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,615,440	1,230,795
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	990,820	876,760	626,310
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0	1,153,900	1,098,270	670,360
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 6-2 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0.1	0.1	0	0.3	0.7	0.3	0.5	0.8	1.0	1.0	1.6
高血圧	0	0	0	0.1	0.6	0.5	0.4	1.0	1.6	1.7	2.6
脂質異常症	0	0	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.3	1.0	1.0
心疾患	0	0	0	0	0.3	0.1	0.1	0.3	0.5	0.6	0.8
脳血管疾患	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.3	0.7	0.5	1.1
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0.2	0.4
腎不全	0	0	0	0.1	0.2	0	0.1	0.1	0.4	0.3	0.6
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.2	0.1	0.2

2. 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外医療費

表 6-3 に慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-3 より，糖尿病の入院外医療費は 20-24 歳から発生していた（10-14 歳を除く）。高血圧の入院外医療費は 25-29 歳から発生していた。脂質異常症の入院外医療費は 25-29 歳から発生していた。慢性疾患の糖尿病，高血圧，脂質異常症の入院外医療費の発生年齢は同じ傾向にあった。腎不全の入院外医療費は 40-44 歳から発生し，60-64 歳では 38 万円以上の入院外医療費が発生していた。

表 6-4，図 6-1，6-2，6-3 に慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外受療割合を示した。表 6-4，図 6-1，6-2，6-3 より，糖尿病，高血圧，脂質異常症の慢性疾患，腎・糖尿病合併症の入院外受療割合は 45-49 歳から割合が増加していた。45-49 歳で糖尿病は 7.8%，高血圧は 9.9%，脂質異常症は 6.4%であり，70-74 歳では糖尿病 25.4%，高血圧 44.4%，脂質異常症 27.5%まで上昇していた。

表 6-3 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外医療費の中央値（人数 2 名以下は採用しない）

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	157,190	0	221,490	72,190	103,410	108,630
高血圧	0	0	0	0	0	127,650	54,855	147,750
脂質異常症	0	0	0	0	0	122,200	94,020	120,200
心疾患	0	0	0	0	0	88,070	0	0
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	0
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	134,225	101,645	102,750	103,050	125,375	110,030	148,095
高血圧	124,640	79,480	83,070	78,940	101,940	102,070	120,930
脂質異常症	79,230	87,780	75,270	88,655	107,380	104,060	131,440
心疾患	176,360	91,420	116,270	87,920	173,720	133,985	164,160
脳血管疾患	122,225	98,730	116,080	147,180	122,220	116,680	152,180
脳出血・脳梗塞	0	52,020	85,930	61,160	131,810	113,900	124,460
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	349,005	246,410	76,520	164,340	110,420	155,410
腎不全	186,510	121,980	110,710	169,955	389,390	257,680	194,450
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	251,815

表 6-4 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	0.7	0.4	0.6	0.5	1.5	2.2
高血圧	0	0	0.2	0.4	0.2	0.8	1.2	2.0
脂質異常症	0	0	0.2	0.4	0.2	1.0	0.9	2.0
心疾患	0	0	0.2	0.2	0.1	0.3	0.2	0.1
脳血管疾患	0	0	0	0	0.2	0	0.2	0.1
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
腎不全	0	0	0	0.2	0.1	0	0	0.2
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	3.8	7.8	8.8	11.7	16.7	20.9	25.4
高血圧	4.9	9.9	14.3	20.3	29.4	36.9	44.4
脂質異常症	2.9	6.4	8.8	11.6	18.6	23.6	27.5
心疾患	1.0	1.1	2.2	4.2	5.3	7.5	10.5
脳血管疾患	0.4	1.5	2.4	4.5	6.8	8.3	11.7
脳出血・脳梗塞	0	0.7	0.4	0.7	0.5	1.0	0.8
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0.2	0.3	0.7	1.2	2.4	3.7	5.5
腎不全	0.5	0.8	1.3	1.0	2.5	2.6	3.9
2型糖尿病性神経筋疾患	0.1	0	0	0.1	0.2	0	0.2

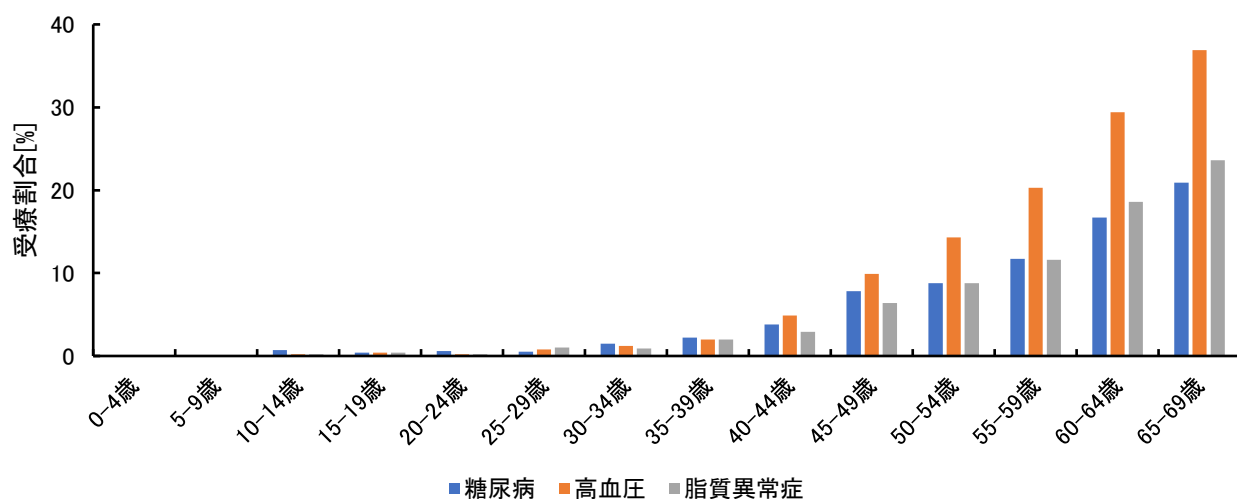


図 6-1 慢性疾患に対する入院外受療割合

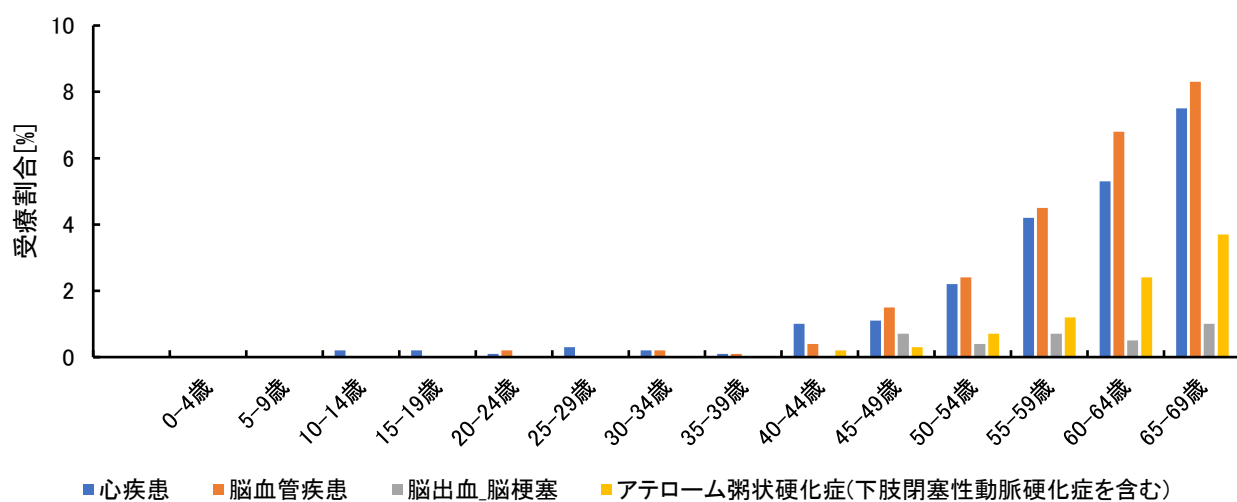


図 6-2 心・脳血管疾患に対する入院外受療割合

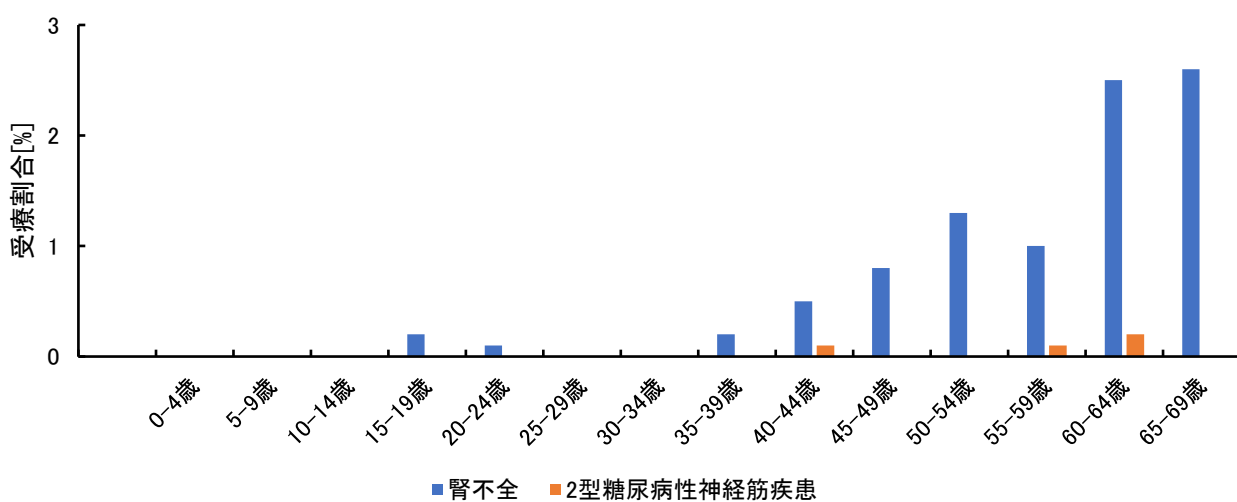


図 6-3 腎疾患に対する入院外受療割合

3. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費

表 6-5 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-5 より、入院医療費について睡眠障害は 30-34 歳から発生し、45-49 歳で大きく増加し、290 万円を超えていた。うつ病エピソード、躁病エピソードは 40-44 歳から発生していた（躁病エピソードの 30-34 歳を除く）。

表 6-6 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院受療割合を示した。表 6-6 より、うつ病エピソード、睡眠障害の入院受療割合は 20-24 歳から発生し、睡眠障害は 30-34 歳のタイミングから大きく増加し、年齢とともに増加傾向にあった。アルツハイマー病は 50-54 歳の受療割合は 0.1%であり、70-74 歳では 0.4%まで上昇していた。

表 6-5 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値（人数 2 名以下は採用しない）

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0	0	0	0	1,226,180	0	1,501,240	0	4,502,490	1,109,620	856,300
躁病エピソード	0	0	329,590	0	271,100	0	0	0	4,699,820	0	731,625
睡眠障害	0	0	300,275	629,715	1,192,940	2,934,955	1,501,240	1,764,310	2,604,275	828,760	1,438,055
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,296,315	924,070

表 6-6 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.4	0.1	0.4	0.4	0.4
躁病エピソード	0	0	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.3	0.1	0.1
睡眠障害	0.1	0.2	0.6	0.6	0.9	0.8	0.9	0.8	1.2	1.2	1.5
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4

4. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費

表 6-7 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-7 より、うつ病エピソードの入院外医療費は 15-19 歳から発生し、年齢とともに増加傾向にあり、40-44 歳では 10 万円を超えていた。睡眠障害の入院外医療費は 5-9 歳から発生し、年齢とともに増加傾向にあった。アルツハイマー病の入院外医療費は 65-69 歳から発生し、65-69 歳では 163,440 円、70-74 歳では 171,620 円であった。

表 6-8、図 6-4 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外受療割合を示した。表 6-8、図 6-4 より、うつ病エピソードの入院外受療割合は 15-19 歳から発生し、25-29 歳で 5%を超え、30 歳～59 歳までの働き世代では 4.7～5.6%を推移していた。睡眠障害は 25-29 歳から大きく増加し、50-54 歳では 12%を超え、70-74 歳の受療割合は 17.5%まで増加した。

表 6-7 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	84,825	60,230	58,445	58,055	89,420
躁病エピソード	0	0	0	0	139,375	73,165	54,135	114,620
睡眠障害	0	62,930	121,905	82,210	53,900	59,465	60,660	96,685
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0
	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	
うつ病エピソード	106,610	99,495	92,610	100,045	120,215	159,160	158,345	
躁病エピソード	110,415	143,480	96,235	113,680	193,040	162,495	201,315	
睡眠障害	106,610	107,500	93,130	112,430	122,295	134,120	159,290	
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	163,440	171,620	

表 6-8 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	1.3	3.2	6.2	4.7	5.2
躁病エピソード	0	0	0.2	0.4	0.4	2.1	2.4	3.0
睡眠障害	0	1.1	3.2	3.6	3.4	6.5	7.4	7.8
アルツハイマー病	0.3	0.2	0.2	0	0.3	0.4	0.6	0.7

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	5.4	5.3	5.5	5.6	5.0	3.9	4.1
躁病エピソード	2.8	2.0	2.3	1.7	1.3	0.7	0.6
睡眠障害	9.8	10.7	12.7	12.7	15.0	13.5	17.5
アルツハイマー病	1.5	1.5	2.3	4.5	5.9	8.2	11.6

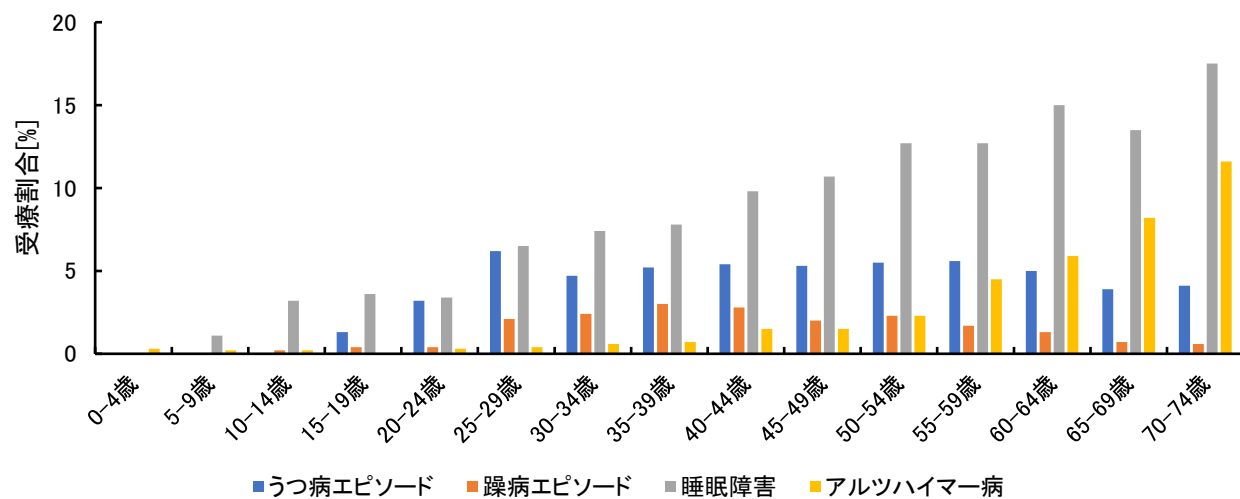


図 6-4 うつ病，躁病，睡眠障害，アルツハイマー病に対する入院外受療割合

5. 関節疾患に対する入院医療費

表 6-9 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-9 より, 膝関節症の入院医療費は 60-64 歳, 股関節症は 70-74 歳, 骨粗しょう症は 50-54 歳から発生していることがわかった。

表 6-10 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院受療割合を示した。表 6-10 より, 膝関節症の入院受療割合は, 50-54 歳では 0.1%, 70-74 歳では 0.4%と年齢に伴い増加していた。骨粗しょう症の入院受療割合は 20-24 歳から発生しているが, 大きく増加するのは 65-69 歳のタイミングであった。

表 6-9 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0	0	0	0	4,897,150	281,830	388,675
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,009,565
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	0	0	4,463,365	0	717,110	440,190	734,510
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	4,463,365	0	717,110	440,190	717,080

単位[円]

表 6-10 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院受療割合

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4
股関節症	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.2
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.1	0	0.1	0	0.2	0.2	0.3	0.1	0.3	0.7	0.9
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.3	0.1	0.3	0.7	0.9

単位[%]

6. 関節疾患に対する入院外医療費

表 6-11 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-11 より, 膝関節症の入院外医療費は 20-24 歳, 股関節症の入院外医療費は 45-49 歳から発生し, 膝関節症, 股関節症ともに年齢に伴い増加することがわかった。

表 6-12, 図 6-5 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外受療割合を示した。表 6-12, 図 6-5 より, 膝関節症, 股関節症の入院外受療割合が 1%を超えるのは膝関節症は 40-44 歳, 股関節症は 55-59 歳であった。

表 6-11 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0	0	150,720	115,150	50,360	70,630
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	67,300	0	71,655	230,230	39,060
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	71,655	164,985	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	96,670	100,500	103,090	136,550	110,340	147,410	159,745
股関節症	0	46,515	131,055	102,850	131,760	129,480	154,475
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	251,810	152,080	196,800	165,290	164,040	155,305	166,710
骨粗しょう症(骨折を伴う)	289,685	114,710	168,860	165,290	166,780	155,285	166,765

表 6-12 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0.3	0.2	0.2	0	0.3	0.4	0.6	0.7
股関節症	0.3	0	0.2	0.2	0	0.1	0	0
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.3	0	0.2	0.6	0.2	0.3	0.5	0.3
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.2

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	1.5	1.5	2.3	4.5	5.9	8.2	11.6
股関節症	0.1	0.5	0.6	1.1	1.2	1.8	2.7
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.7	1.0	1.5	2.8	7.6	12.2	16.8
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0.6	0.7	1.4	2.6	7.3	11.8	16.3

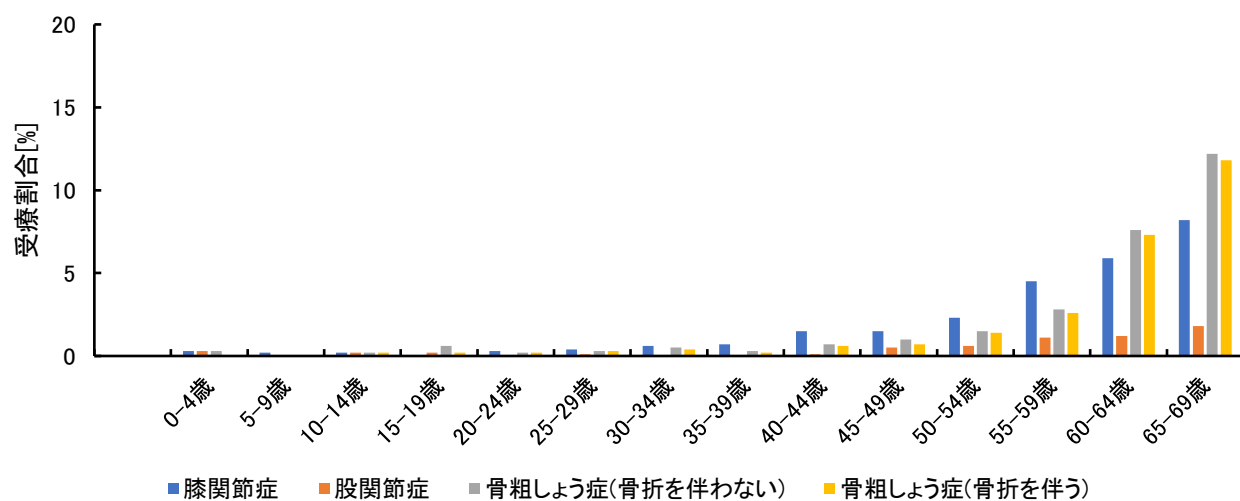


図 6-5 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外受療割合

7. かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院医療費

表 6-13 にかぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-13 より、急性上気道感染症は 30-34 歳から入院医療費が発生し年齢に伴い増加傾向にあった。誤嚥性肺炎は 65-69 歳、間質性肺炎は 70-74 歳で入院医療費が発生していた。

表 6-14 にかぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院受療割合を示した。表 6-14 より、肺炎の入院受療割合は 40-44 歳、50-54 歳、60-64 歳で 0.3%を超え、65-69 歳は 0.4%、70-74 歳では 0.6%であった。

表 6-13 かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する
入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	530,070
急性上気道感染症	0	58,640	257,000	406,580	795,390	0	394,035	227,240	350,650	1,060,510	541,250
肺炎	0	0	0	0	494,180	0	707,890	0	2,732,015	1,522,985	1,465,775
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,132,310	0
間質性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,016,460

表 6-14 かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院受療割合

	単位[%]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0.1	0	0.2	0	0	0	0	0.2	0	0.1
急性上気道感染症	0.1	0.2	0.7	0.5	0.7	0.2	0.3	0.2	1.0	1.0	1.0
肺炎	0	0	0	0	0.3	0	0.3	0.2	0.3	0.4	0.6
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0.1	0.1
間質性肺炎	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.1	0.1

8. かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院外医療費

表 6-15, 図 6-6 にかぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-15, 図 6-6 より、かぜ、肺炎の入院外医療費は乳幼児期と高齢期の入院外医療費が高い構造となっていることがわかった。肺炎の入院外医療費は 45-49 歳から 12 万円を超え(55-59 歳を除く)、入院医療費も高いことから肺炎予防に取り組む重要性が示された。

表 6-16, 図 6-7 にかぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院外受療割合を示した。図 6-7 より、急性上気道感染症は乳幼児期の 0-4 歳で 58.4%, 5-10 歳で 59.1%, 10-14 歳で 46.1%であり、非常に高い割合で受療していることが確認できた。

表 6-15 かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する
入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	143,130	139,530	128,260	46,020	65,390	51,155	68,060	80,300
急性上気道感染症	93,320	60,670	55,665	38,140	37,215	40,450	50,790	50,255
肺炎	133,130	123,680	0	0	52,205	106,185	95,775	38,070
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
間質性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	90,915	69,905	83,530	77,180	113,470	126,690	170,980
急性上気道感染症	57,120	62,975	68,290	78,720	91,650	115,695	138,960
肺炎	65,045	128,530	154,750	51,105	191,330	250,180	234,940
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	84,090	201,660
間質性肺炎	0	120,340	109,590	196,200	152,410	191,020	304,420

表 6-16 かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	12.2	10.0	8.5	3.2	2.4	3.3	3.6	4.2
急性上気道感染症	58.4	59.1	46.1	34.7	21.5	18.6	21.0	20.2
肺炎	1.4	0.6	0.5	0.2	0.6	0.3	0.6	0.7
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
間質性肺炎	0	0	0.2	0	0.1	0.1	0	0.2

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	3.2	2.7	2.8	2.9	3.4	4.6	4.1
急性上気道感染症	22.4	19.0	18.2	15.6	19.2	20.8	21.3
肺炎	0.6	0.9	1.1	1.0	1.7	1.2	1.8
誤嚥性肺炎	0	0.1	0	0.2	0	0.2	0.2
間質性肺炎	0.2	0.3	0.5	0.2	0.7	1.3	1.4

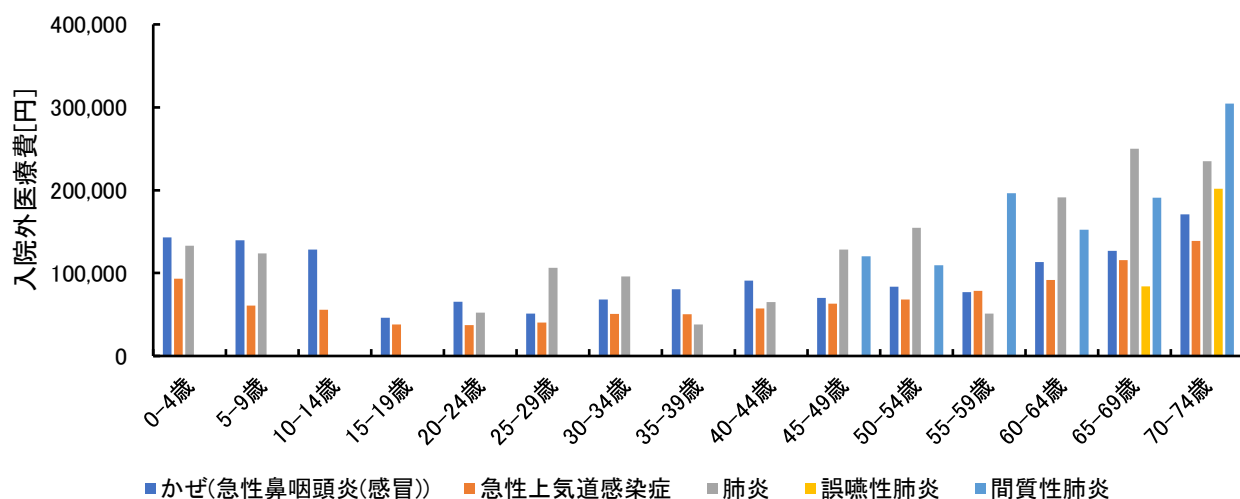


図 6-6 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外医療費の中央値
(人数 2 名以下は採用しない)

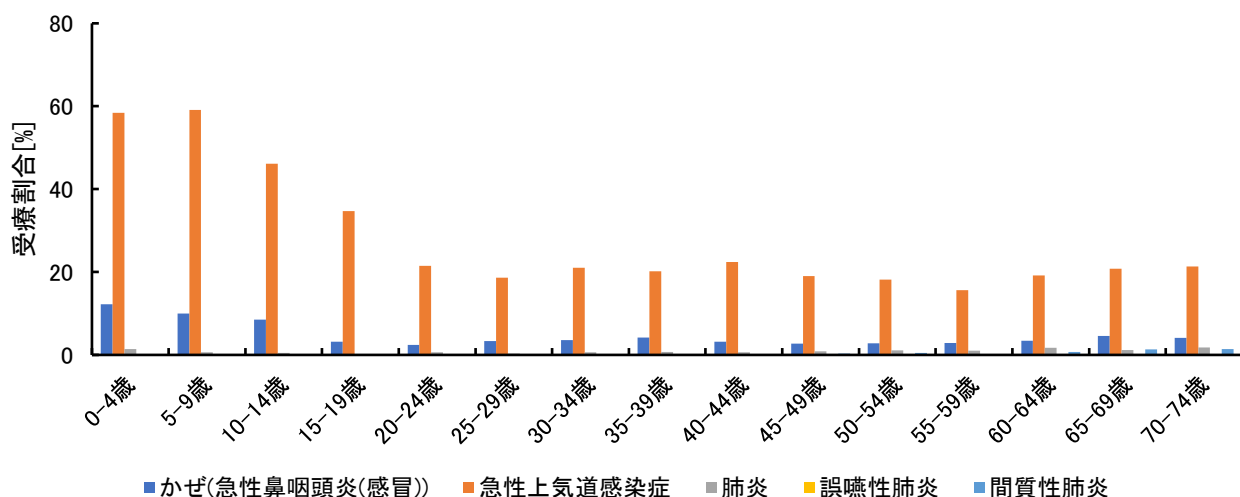


図 6-7 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外受療割合

9. 新生物に対する入院・入院外医療費

表 6-17 に新生物に対する入院医療費、表 6-18 に新生物に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-18 より、入院外医療費は乳房の悪性新生物は 30-34 歳、女性生殖器官の悪性新生物は 40-44 歳から発生しており、それ以外の悪性新生物は 50-54 歳、55-59 歳頃から発生していた。

表 6-19 に新生物に対する入院受療割合、表 6-20 に新生物に対する入院外受療割合を示した。表 6-20 より、少数ではあるが入院外受療割合は女性生殖器官の悪性新生物は 20-24 歳から発生していた。乳房の悪性新生物は 25-29 歳から発生し、35-39 歳で 0.5%、45-49 歳で 1%を超えていた。胃がんは 45-49 歳、結腸の悪性新生物は 30-34 歳から発生していた。70-74 歳では、胃がん(1.2%)、結腸の悪性新生物(2.1%)、乳房の悪性新生物(2.1%)の入院外受療割合が高い傾向にあった。

表 6-17 新生物に対する入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	426,410
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,529,850
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	501,550
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,010,230	643,260
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,131,060
女性生殖器官の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,055,110

表 6-18 新生物に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

	単位[円]							
	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	54,220	118,890
女性生殖器官の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	149,530	177,100	101,710	192,070
結腸の悪性新生物	0	0	172,220	232,015	138,180	158,515	254,520
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	212,725	105,605	261,590
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	152,450	321,810	188,930	309,330
乳房の悪性新生物	246,580	152,870	120,910	125,650	254,550	207,480	201,890
女性生殖器官の悪性新生物	137,640	211,290	415,280	194,600	227,615	223,475	197,910
骨髄性白血病	0	0	0	116,080	829,480	356,480	1,037,845
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	258,870	406,070

表 6-19 新生物に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0	0.1
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0.2
乳房の悪性新生物	0	0	0.1	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0.1
女性生殖器の悪性新生物	0	0.1	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0
骨髄性白血病	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1

表 6-20 新生物に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.1	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0.5
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.2
骨髄性白血病	0	0.2	0.2	0	0	0.1	0.1	0.1
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.1

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0.1	0.1	0.3	0.3	0.4	1.2
結腸の悪性新生物	0	0.2	0.4	0.5	0.4	1.0	2.1
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0.1	0	0.3	0.3	0.3
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0.1	0.2	0.9	1.0	1.5
乳房の悪性新生物	0.5	1.3	1.1	1.2	1.2	2.0	2.1
女性生殖器の悪性新生物	0.6	0.4	0.6	0.3	0.6	0.5	0.3
骨髄性白血病	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.2	0.2
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0.5	0.3

10. 精神及び行動の障害に対する入院・入院外医療費

表 6-21 に精神及び行動の障害に対する入院医療費、表 6-22 に精神及び行動の障害に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-21 より、入院医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 30-34 歳から発生し、30～59 万円であることがわかった。70-74 歳の入院医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 1,228,320 円、気分[感情]障害は 756,720 円、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 1,103,390 円であった。

表 6-22 より、入院外医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 10-14 歳、気分[感情]障害は 15-19 歳、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 5-9 歳から発生していた。

表 6-23 に精神及び行動の障害に対する入院受療割合、表 6-24、図 6-8 に精神及び行動の障害に対する入院外受療割合を示した。表 6-23 より、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 30-34 歳で 0.4%を超えていた。

表 6-24、図 6-8 より、入院外受療割合が 5%を超えたのは統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 40-44 歳(5.0%)、気分障害は 25-29 歳(7.0%)、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 25-29 歳(7.9%)であった。

表 6-21 精神及び行動の障害に対する入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0	594,460	617,770	1,192,940	2,934,955	2,790,825	1,970,955	4,303,460	754,085	1,228,320
気分[感情]障害	0	0	300,275	673,595	1,192,940	4,121,595	4,080,410	0	4,699,820	1,060,510	756,720
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	0	300,275	581,300	1,226,180	1,272,860	969,490	0	336,510	407,390	1,103,390
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	3,700,315	0	0	0	0	0	0

表 6-22 精神及び行動の障害に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0	118,490	152,830
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0	121,905	53,130	53,630	66,290	57,240	78,970
気分[感情]障害	0	0	0	61,925	60,980	57,170	59,385	83,180
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	73,880	83,640	89,460	53,630	55,320	53,190	97,345
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	0	114,890	80,130	77,150

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	162,140	155,820	80,860	96,480	324,755	148,340
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	110,415	136,680	90,720	110,345	175,900	158,325	200,220
気分[感情]障害	107,390	106,010	90,570	106,620	130,830	159,930	167,050
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	112,560	78,865	77,990	97,770	121,070	152,290	148,540
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	174,785	0	141,810	87,010	245,070	206,520	100,180

表 6-23 精神及び行動の障害に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0.1	0.1	0	0.1	0.2	0	0	0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0.1	0.1	0.4	0.3	0.9	0.3	0.7	0.7	0.9	0.5	0.7
気分[感情]障害	0.1	0.1	0.4	0.4	0.5	0.3	0.5	0.2	0.5	0.5	0.5
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	0.1	0.4	0.3	0.9	0.3	0.4	0.2	0.2	0.5	0.5
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0.1	0	0	0.4	0.1	0.1	0.2	0	0	0.1

表 6-24 精神及び行動の障害に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0.2	0.3	0.3
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0.2	1.4	1.3	1.5	3.4	3.6	4.1
気分[感情]障害	0	0	0.2	1.7	3.5	7.0	6.3	6.6
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	1.3	3.9	2.8	4.6	7.9	7.9	7.3
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0.2	0.2	0	0.1	0.2	0.3	0.4

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.2	0.4	0.8	0.5	0.2	0.2	0.2
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	5.0	5.3	6.0	4.8	3.5	2.0	2.1
気分[感情]障害	7.0	6.6	6.7	6.4	5.5	4.4	4.5
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	7.4	7.7	9.1	9.3	7.6	7.9	9.1
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.4	0.1	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3

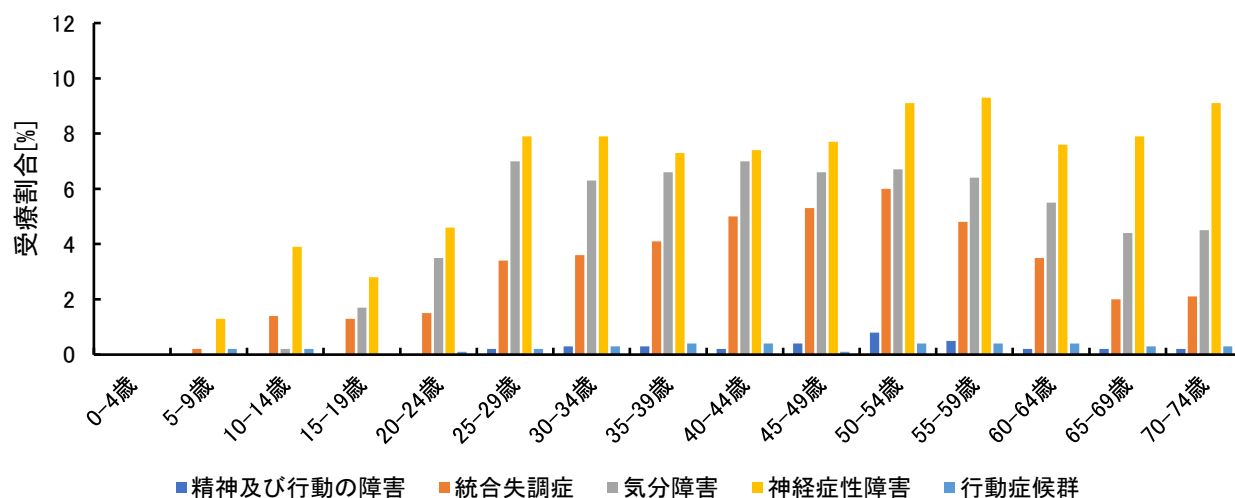


図 6-8 精神及び行動の障害に対する入院外受療割合

11. COVID-19 に対する入院・入院外医療費

表 6-25 に COVID-19 に対する入院医療費, 表 6-26 に COVID-19 に対する入院外医療費の中央値を示した。表 6-25 より, 入院医療費は 60-64 歳, 70-74 歳で発生していた。表 6-26 より, 入院外医療費はすべての年代で発生していた。

表 6-27 に COVID-19 に対する入院受療人数, 表 6-28 に COVID-19 に対する入院外受療人数を示した。表 6-28 より, 入院外受療人数は子どもと比べ大人の人数が多い傾向にあった。

表 6-25 COVID-19 に対する入院医療費の中央値

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	0	0	0	0	0	0	3,000,260	0	1,202,805

表 6-26 COVID-19 に対する入院外医療費の中央値

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	243,500	91,075	86,010	58,630	69,920	50,790	89,710	62,930

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	61,030	47,825	59,780	58,350	122,610	112,010	141,040

表 6-27 COVID-19 に対する入院受療人数

単位[人]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	1	2	0	1	1	2	1	3	1	10

表 6-28 COVID-19 に対する入院外受療人数

単位[人]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	5	10	7	15	17	24	18	15

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	17	10	17	13	13	18	31

第7章 特定健康診査の状況

1. 特定健康診査の受診状況

40～74歳の市民を対象に特定健康診査（以下、特定健診）を実施している。令和4年度の受診件数は4,167件であった。

2. 特定保健指導レベルの状況

図7-1に令和4年度の保健指導レベル判定結果の割合を性別に示した。なし（該当なし・情報提供含む）は男性は80.6%、女性は92.2%、動機付け支援は男性は13.4%、女性は6.2%、積極的支援は男性は6.0%、女性は1.7%であった。

図7-2に男性、図7-3に女性の令和4年度の保健指導レベル判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性のなしは65.7～86.6%、女性は86.0～93.9%で男女ともに年齢に伴い増加していた。男性の40～49歳、50～59歳の働き世代の積極的支援は17.8～22.3%であった。

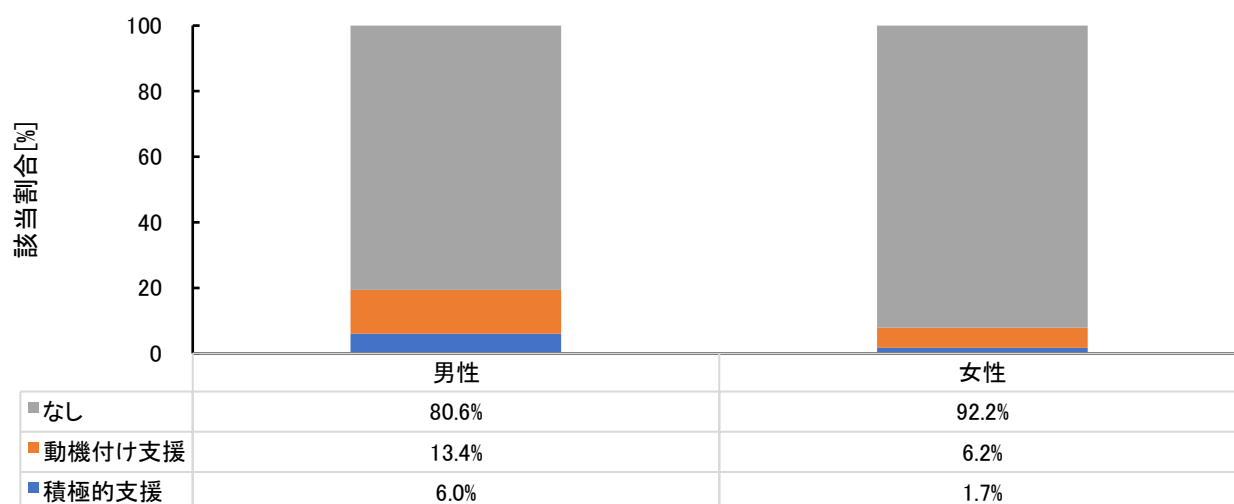


図7-1 保健指導レベル判定結果

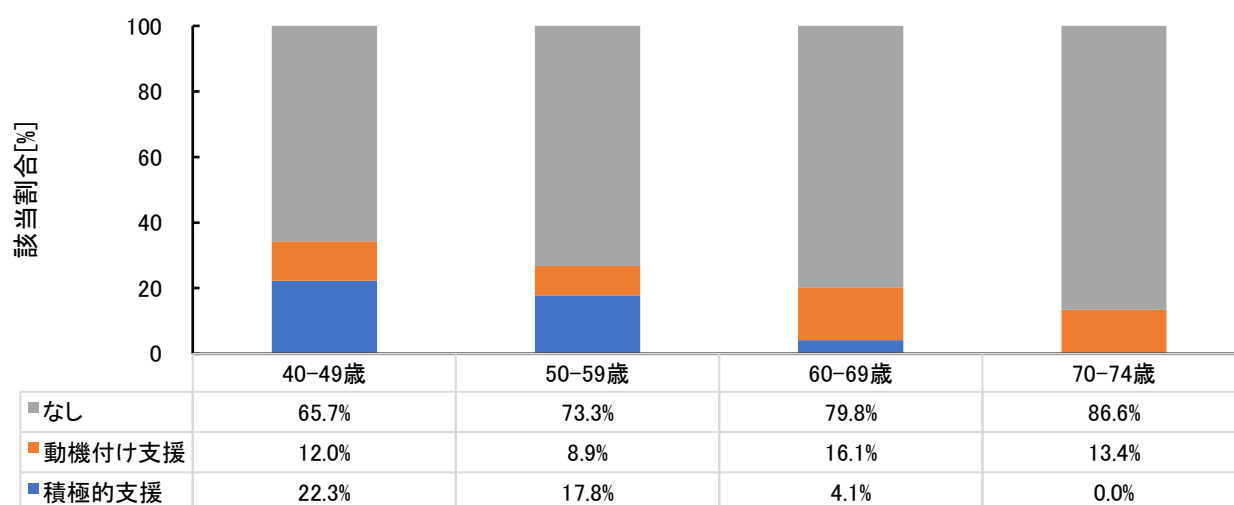


図7-2 男性の年齢階級別の保健指導レベル判定結果

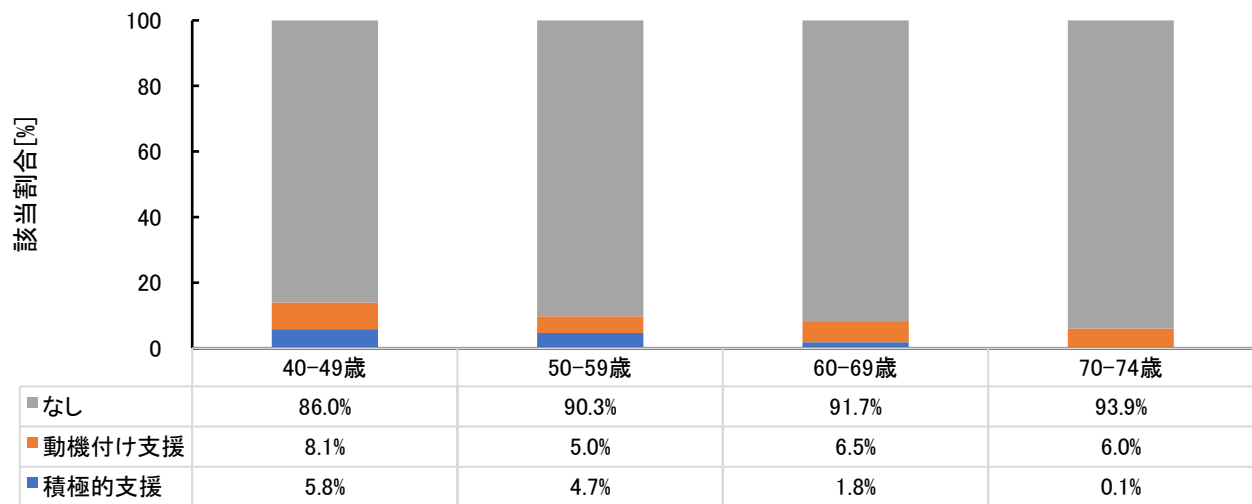


図 7-3 女性の年齢階級別の保健指導レベル判定結果

3. メタボリックシンドローム（以下、メタボ）の状況

表 7-1 に令和 4 年度のメタボ判定結果を示した。全体では 34.2%がメタボに該当し、男性は 56.0%, 女性は 18.2%であった。年齢階級別では男性は 52.6～59.6%, 女性は 14.0～20.3%が該当しており、男性は女性に比べて該当率が高いことがわかった。

表 7-1 メタボ判定結果
単位[%]

	メタボ該当率
全体	34.2(1427人)
男性	56.0(990人)
女性	18.2(437人)
40-49歳	52.6(92人)
50-59歳	54.7(141人)
60-69歳	59.6(304人)
70-74歳	55.0(453人)
40-49歳	14.0(24人)
50-59歳	16.4(52人)
60-69歳	20.3(157人)
70-74歳	18.0(204人)

3.1. メタボと HbA1c の関係

メタボ判定と HbA1c 判定の関係を表 7-2 に示した。メタボ該当はメタボ非該当と比べ要経過観察, 要医療の割合(要経過観察のメタボ該当 18.6%, 非該当 11.9%, 要医療メタボ該当 15.6%, 非該当 6.6%)が高いことがわかった。メタボ群と非メタボ群のアプローチをそれぞれ検討し, 改善方法を実施することが求められる。

(HbA1c 判定: 異常なし 5.5%以下, 軽度異常 5.6-5.9%, 要経過観察 6.0-6.4%, 要医療 6.5%以上)

表 7-2 メタボ判定と HbA1c 判定の関係

単位[人]

		令和4年度HbA1c判定			
		異常なし	軽度異常	要経過観察	要医療
令和4年度	非該当	1223(44.8%)	1002(36.7%)	326(11.9%)	180(6.6%)
メタボ判定	該当	484(34.0%)	452(31.8%)	265(18.6%)	222(15.6%)

4. 測定項目の状況

4.1. 身長状況

図 7-4 に身長の度数分布を性別に示した。男性は 170～174cm にピーク、女性は 155～159cm、160～164cm にピークがある分布であった。図 7-5 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの身長の変化を性別に示した。身長の変化には加齢に伴う変化に加え、骨粗鬆症の影響が挙げられる。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果、男性は 16.2%、女性は 14.7%が 0～0.4cm の低下があることがわかった。1cm 以上低下した割合は男性は 6.5%、女性は 7.0%であった。

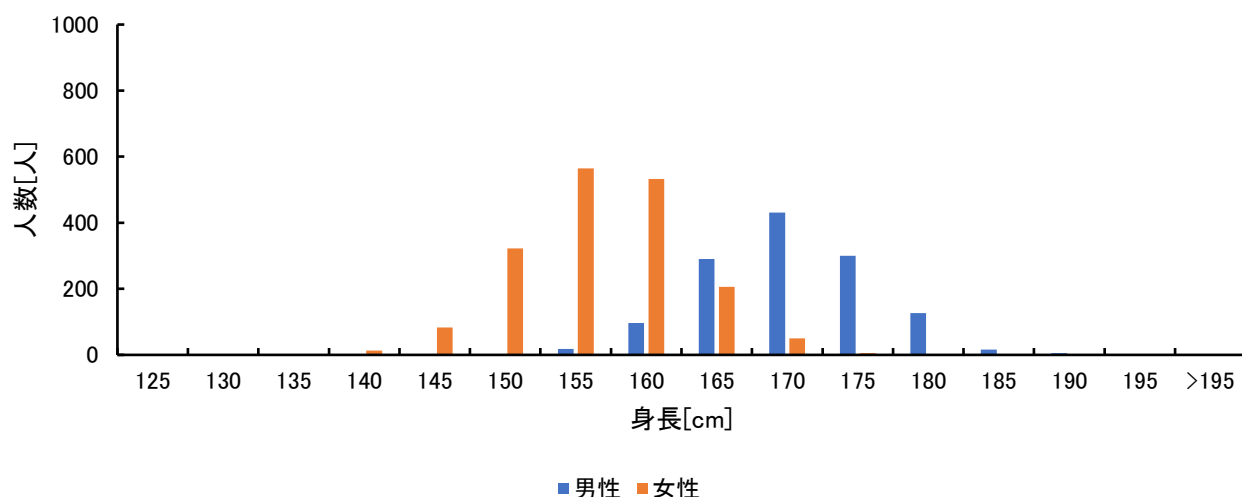


図 7-4 身長の度数分布

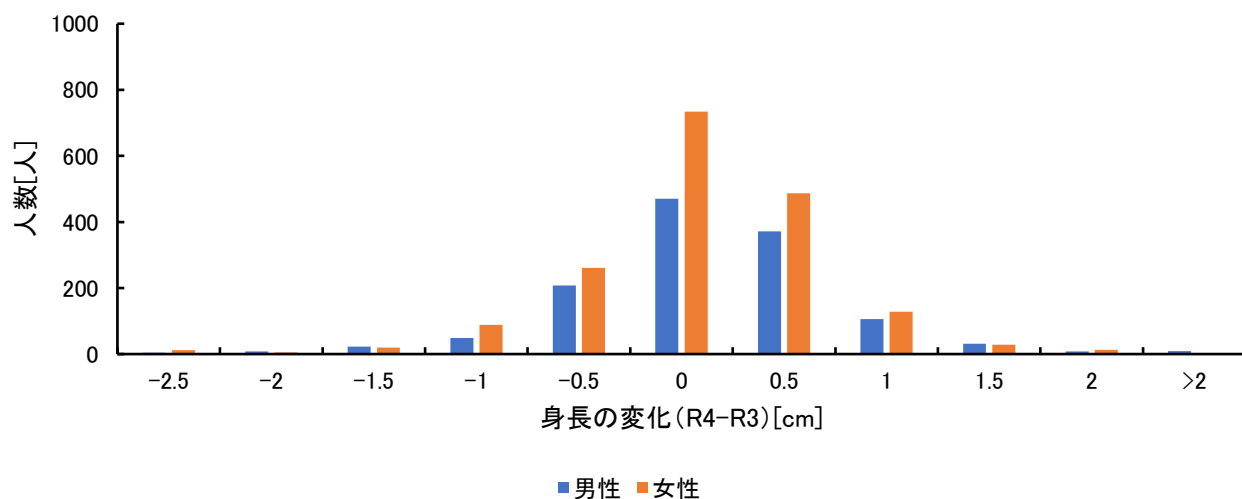


図 7-5 身長の変化

4.2. 体重の状況

図 7-6 に体重の度数分布を性別に示した。男性は 70～74kg にピーク、女性は 50～54kg, 55～59kg にピークがある分布であった。図 7-7 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの体重の変化を性別に示した。体重の減少にはフレイルやサルコペニアの指標も含まれる。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果、1kg までの減少がみられたのは男性で 15.5%, 女性で 18.0%, 1kg までの増加は男性で 19.2%, 女性で 21.6%であった。体重の変化が±2kg の範囲に男性は 54.3%, 女性は 59.0%, ±1kg の範囲に男性は 34.7%, 女性は 39.6%が該当していることがわかった。

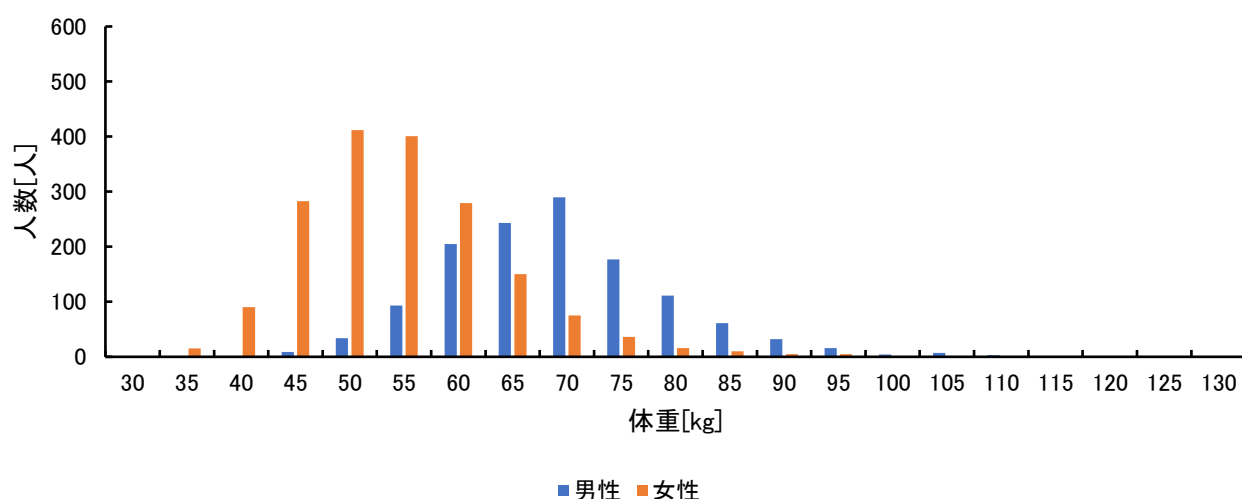


図 7-6 体重の度数分布

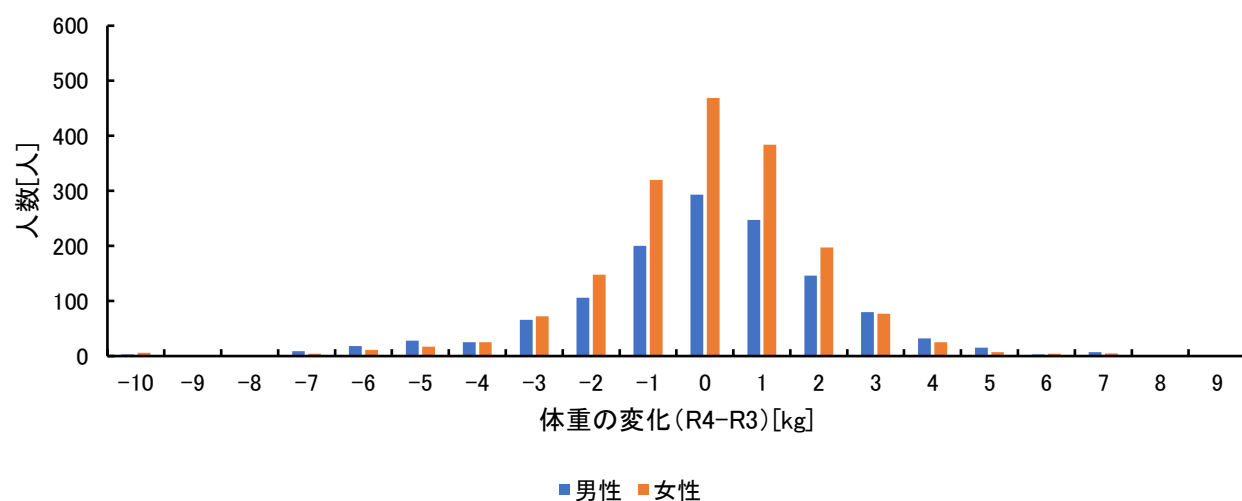


図 7-7 体重の変化

4.3. BMI の状況

BMI の判定は異常なし(18.5-24.9), 要経過観察(18.5 未満), 要経過観察(25 以上)と定義した。

図 7-8 に BMI の度数分布を性別に示した。男性は 24~25 にピーク, 女性は 20~21 にピークがある分布であった。BMI は体重と同じくフレイルやサルコペニアの指標であり, 高齢期は BMI が 20 以上がよいと考える。図 7-9 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの BMI の変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, 1 以上の減少がみられたのは男性は 12.3%, 女性は 11.8%であった。2 以上の減少は男性は 3.0%, 女性は 2.2%であった。1 以上の増加がみられたのは男性は 17.6%, 女性は 16.8%, 2 以上の増加は男性は 2.8%, 女性は 1.7%であった。

BMI 判定別では, 要経過観察(25 以上)の男性は 30.9%(546 名), 女性は 19.4%(465 名)であった。要経過観察(18.5 未満)の男性は 3.6%(63 名), 女性は 14.5%(348 名)であった。高齢期(65 歳以上)に着目すると, サルコペニアリスク群となる BMI20 未満該当割合は全体で 21.9%(626 名), 男性 11.7%(138 名), 女性 29.1%(488 名)であり, 女性が多いことがわかった。

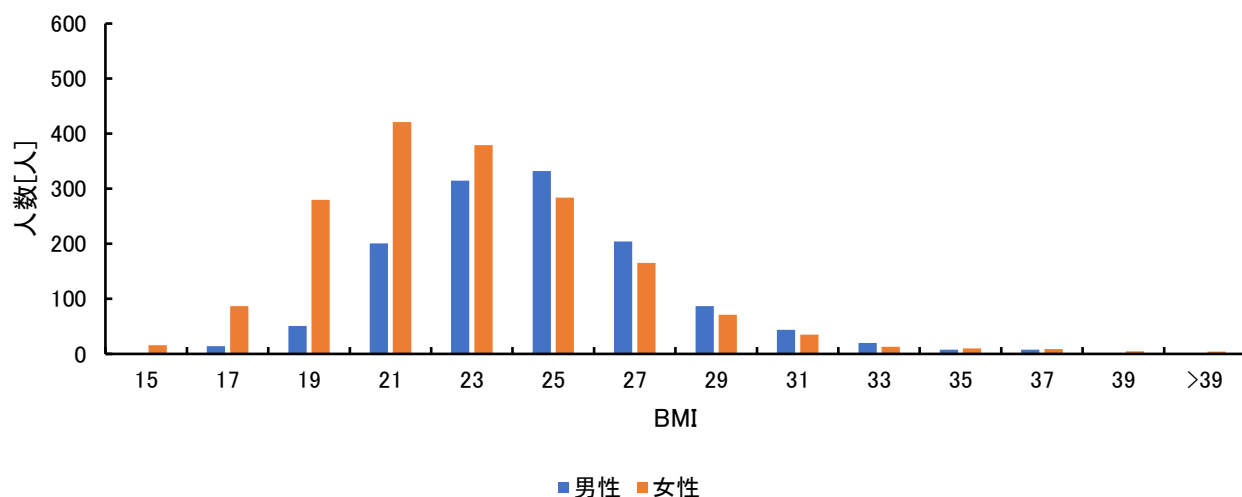


図 7-8 BMI の度数分布

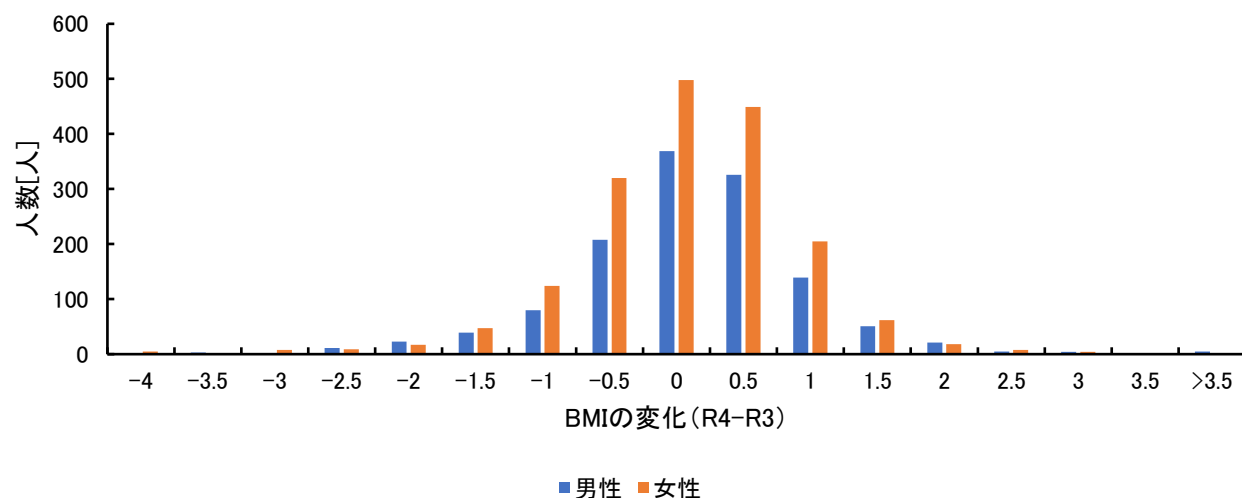


図 7-9 BMI の変化

令和4年度 BMI 判定と HbA1c 判定の関係を図 7-10 に全体、男性を図 7-11、女性を図 7-12 に示した。BMI 要経過観察(18.5 未満)で HbA1c 要医療(6.5%以上)と判定されたのは全体で 3.4%, 男性で 6.3%, 女性で 2.9%であった。BMI 要経過観察(18.5 未満)で HbA1c 要経過観察(6.0-6.4%), 要医療(6.5%以上)には全体で 13.0%(男性 14.3%, 女性 12.8%)であった。BMI 要経過観察(25 以上)では全体で 37.7%(男性 39.6%, 女性 35.6%)であった。BMI 異常なし(18.5-24.9)では全体で 20.5%(男性 24.6%, 女性 17.4%)であった。BMI の増加に伴い、男女ともに要経過観察(25 以上)では HbA1c 高値の割合が多い傾向にあった。

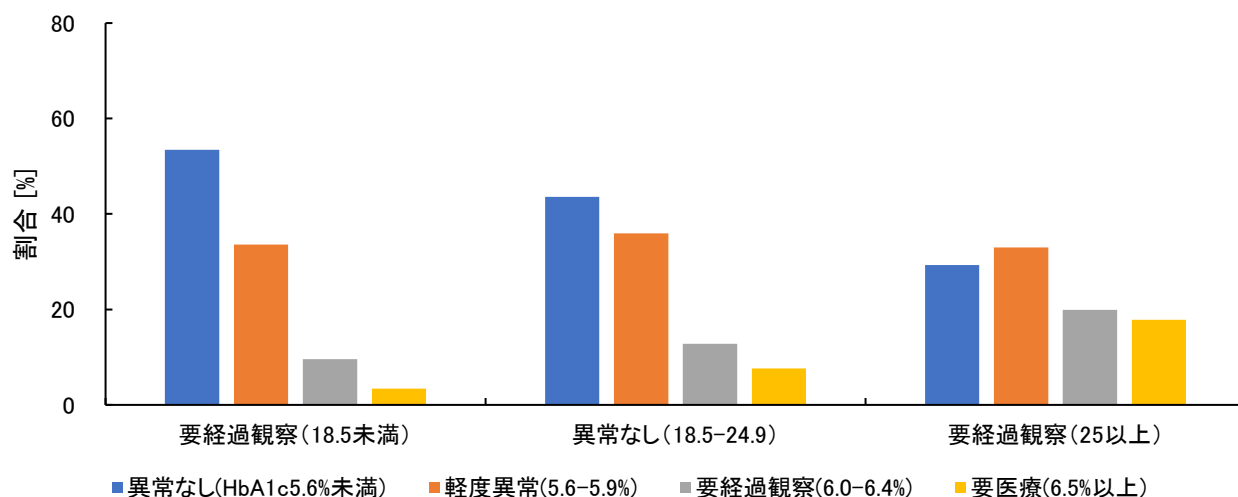


図 7-10 BMI 判定と HbA1c の関係

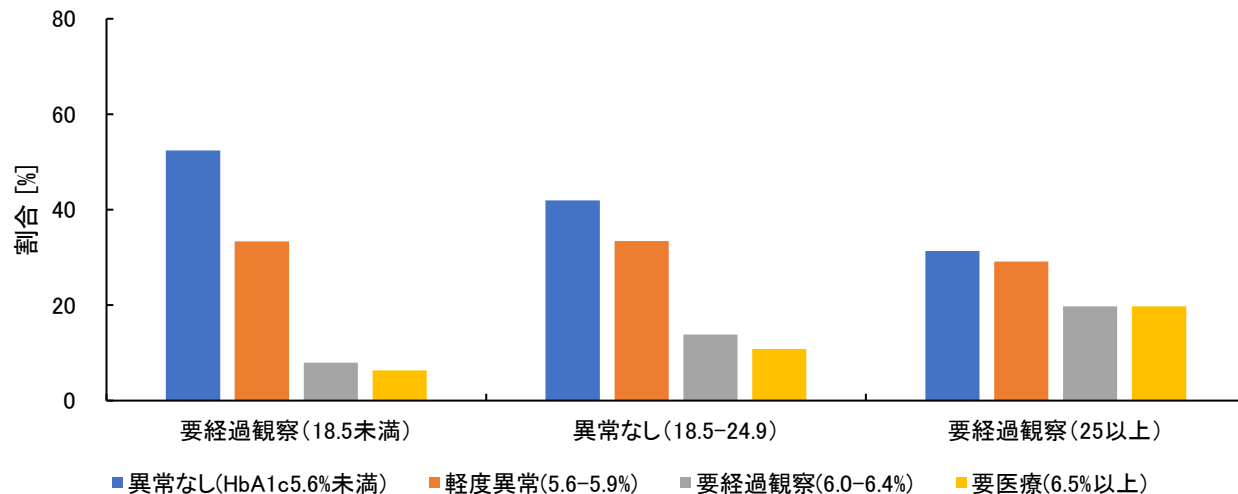


図 7-11 男性の BMI 判定と HbA1c の関係

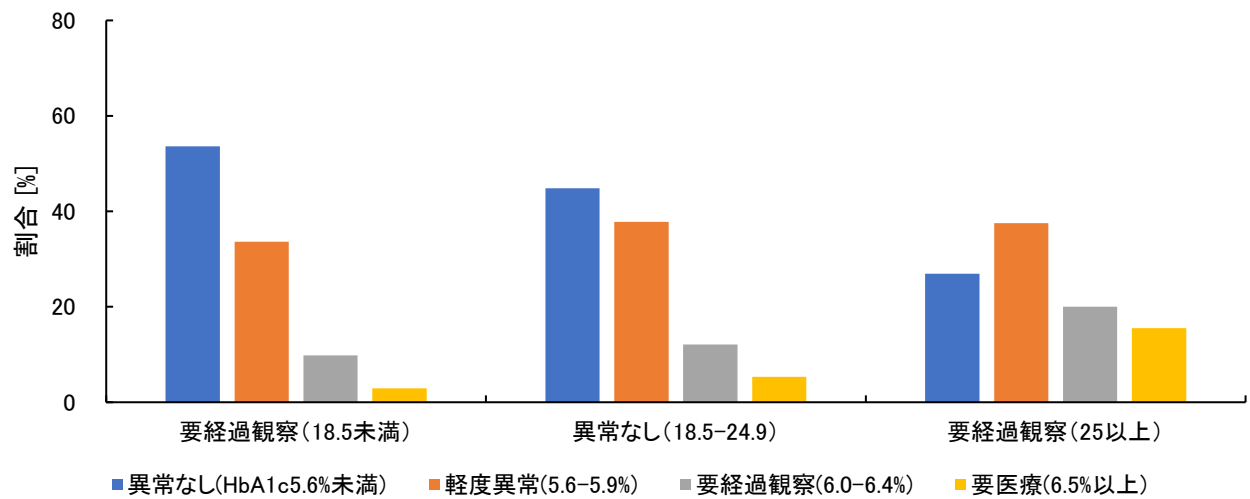


図 7-12 女性の BMI 判定と HbA1c の関係

4.4. 血圧の状況

血圧の判定は異常なし(収縮期血圧<130mmHg かつ拡張期血圧<85), 軽度異常(収縮期血圧 130-139mmHg または拡張期血圧 85-89mmHg), 要経過観察(収縮期血圧 140-159mmHg または拡張期血圧 90-99mmHg), 要医療(収縮期血圧 $\geq$ 160mmHg または拡張期血圧 $\geq$ 100mmHg)と定義した。

図 7-13 に収縮期血圧の度数分布を性別に示した。男女ともに 130~139mmHg にピークがある分布であった。図 7-14 に拡張期血圧の度数分布を性別に示した。男女ともに 80~89mmHg にピークがある分布であった。心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患のリスクを高める収縮期血圧が 180mmHg 以上に該当したのは男性は 1.2%(15 名), 女性は 0.6%(11 名), 拡張期血圧が 110mmHg 以上に該当したのは男性は 0.4%(5 名), 女性は 0.5%(9 名)であった。

図 7-15 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの収縮期血圧の変化, 図 7-16 に拡張期血圧の変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, 収縮期血圧が 10mmHg 以上低下したのは男性は 21.3%, 女性は 20.7%, 20mmHg 以上低下したのは男性は 7.6%, 女性は 7.8%であった。収縮期血圧が 30mmHg 以上増加したのは男性は 6.2%, 女性は 6.8%であった。

図 7-17 に男性, 図 7-18 に女性の令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの収縮期血圧の変化を散布図に示した。心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患のリスクを高める収縮期血圧 180mmHg のラインに引いている。男性は令 4 年度に収縮期血圧が 180mmHg 以上の該当者のほぼ全員が令和 3 年度から収縮期血圧が増加していた。

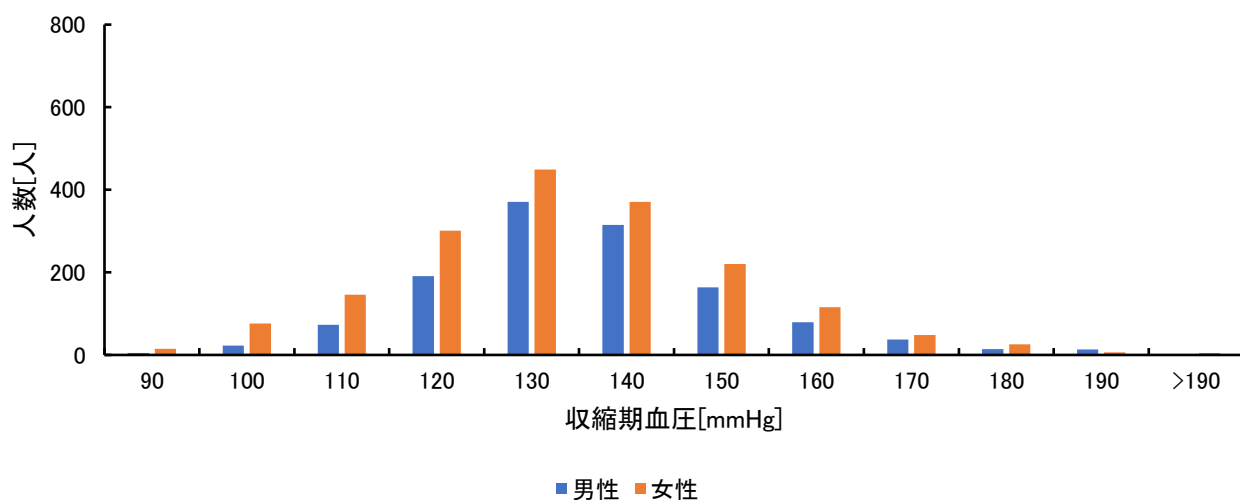


図 7-13 収縮期血圧の度数分布

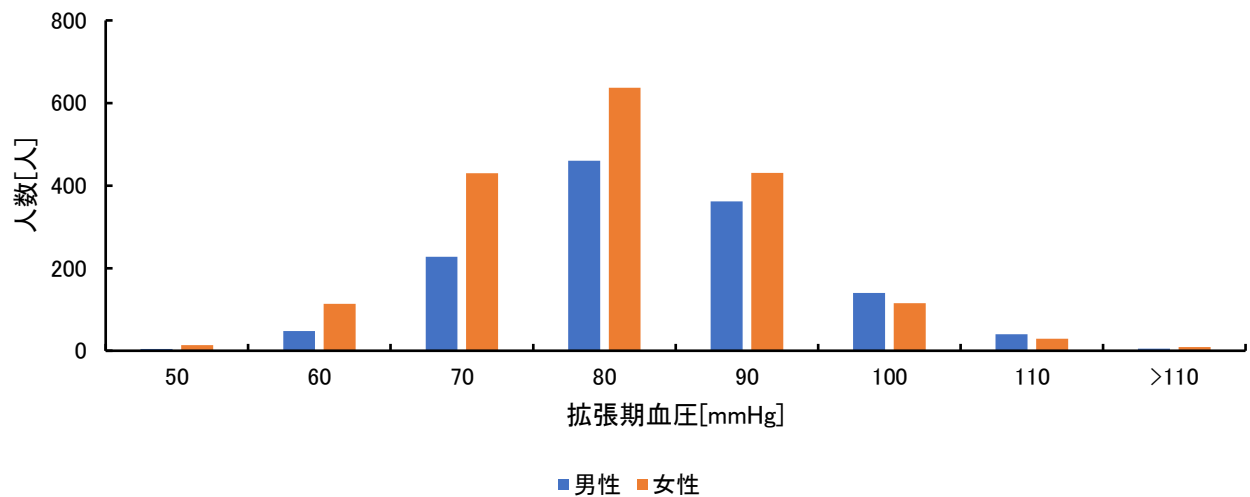


図 7-14 拡張期血圧の度数分布

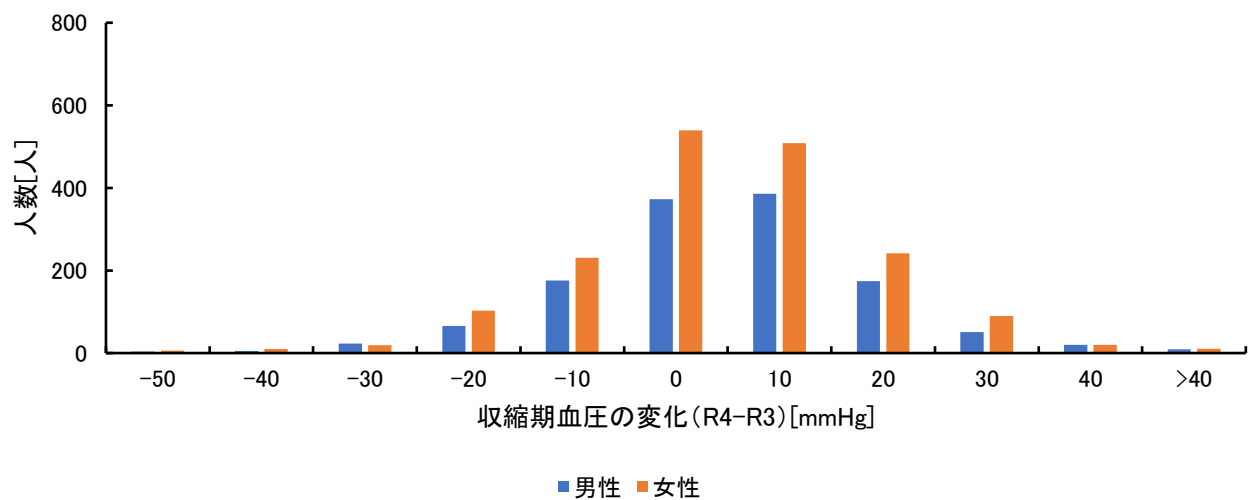


図 7-15 収縮期血圧の変化

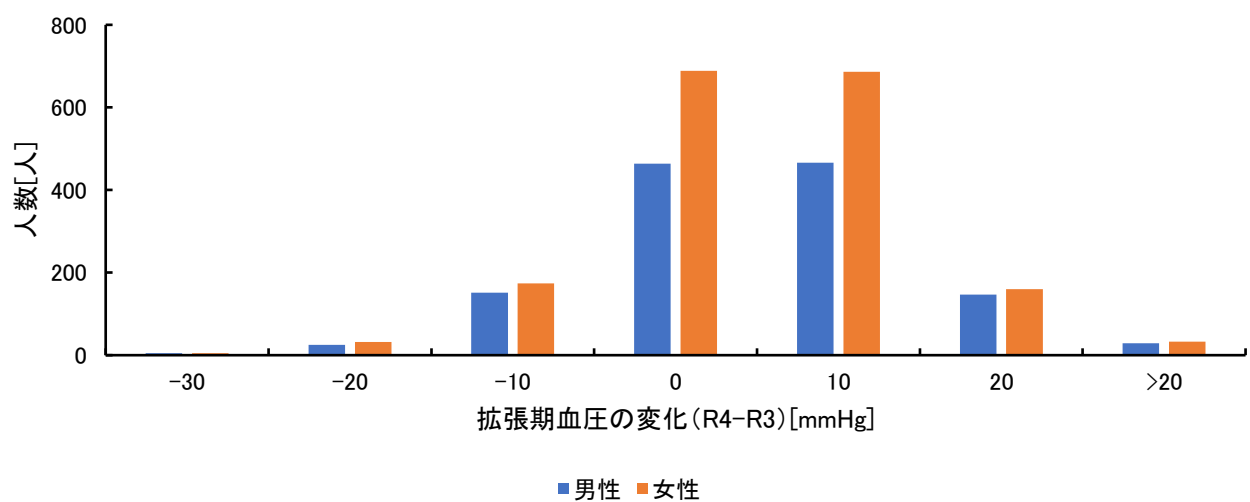


図 7-16 拡張期血圧の変化

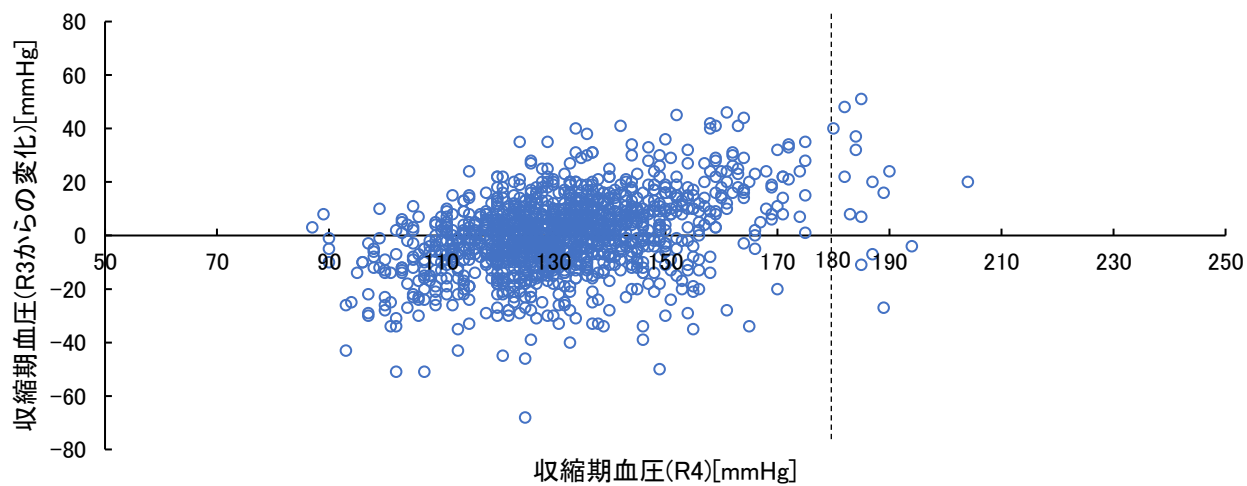


図 7-17 男性の収縮期血圧の変化

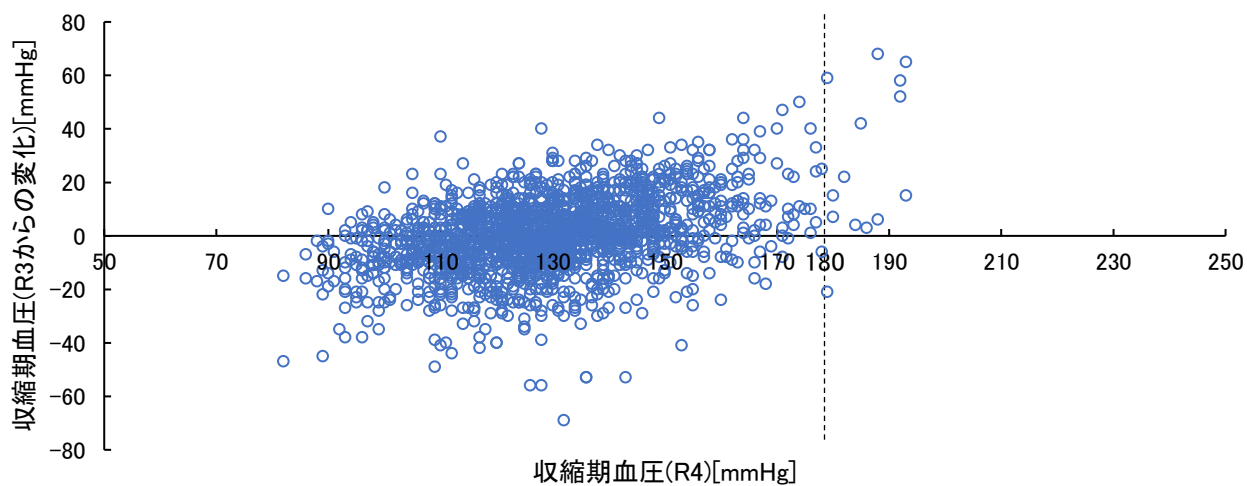


図 7-18 女性の収縮期血圧の変化

図 7-19 に令和 4 年度の血圧判定結果の割合を性別に示した。異常なしは男性は 43.2%, 女性は 49.7%, 要経過観察, 要医療は男性は 27.5%, 女性は 25.6%であった。

図 7-20 に男性, 図 7-21 に女性の令和 4 年度の血圧判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに 50-59 歳から要経過観察の割合が増加していた。そして, 男女ともに年齢に伴い異常なしの割合が減少し, 軽度異常, 要経過観察の割合の増加が確認できた。40-49 歳では男性は 5.1%, 女性は 2.9%, 50-59 歳では男性は 8.1%, 女性は 3.8%, 60-69 歳では男性は 8.6%, 女性は 6.2%, 70-74 歳では男性は 9.6%, 女性は 8.6%が要医療に該当していた。

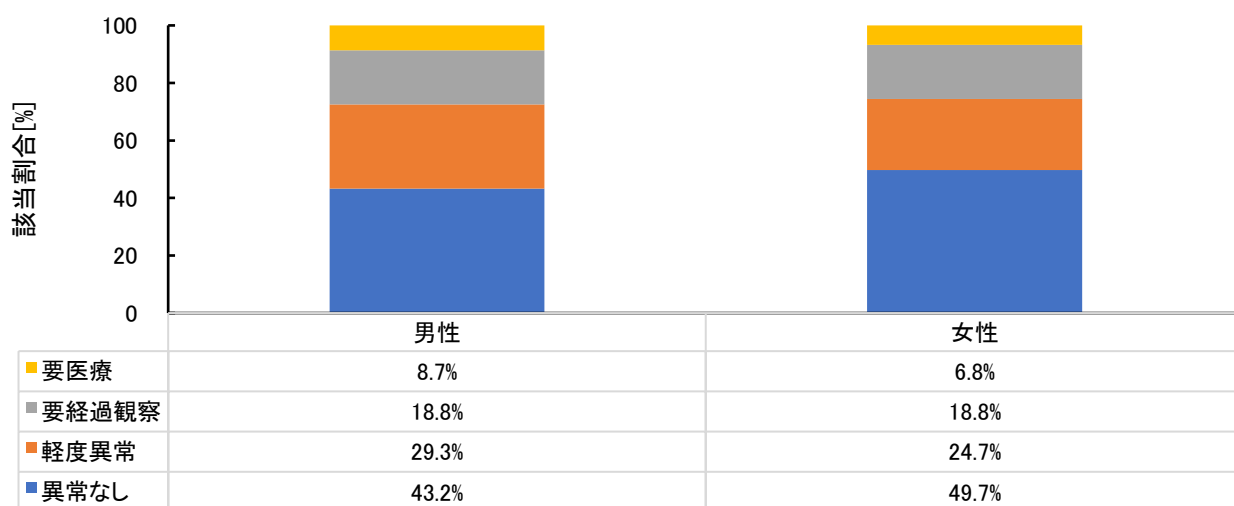


図 7-19 血圧判定結果の割合

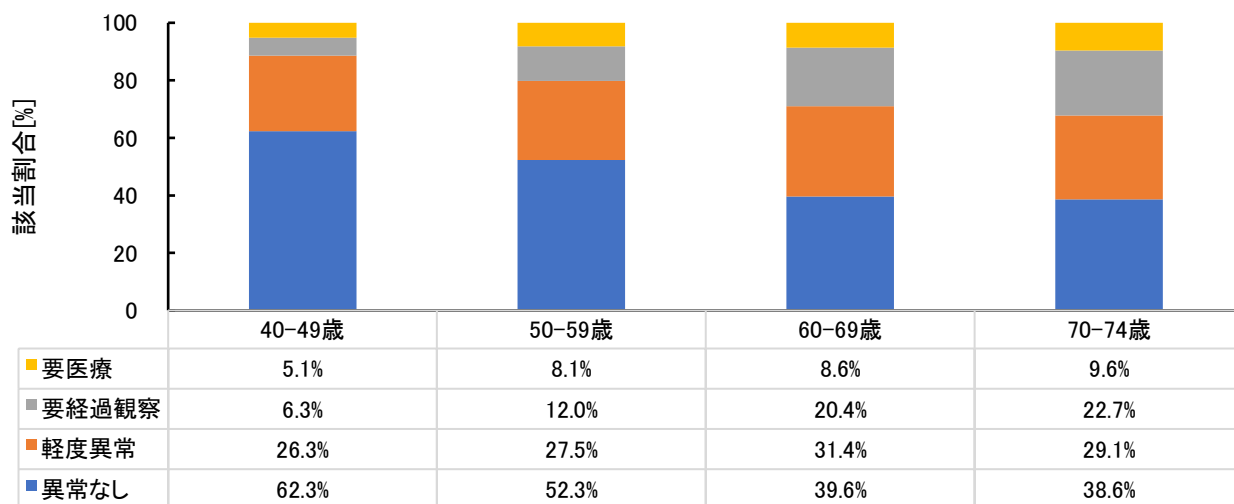


図 7-20 年齢階級別の血圧判定結果の割合(男性)

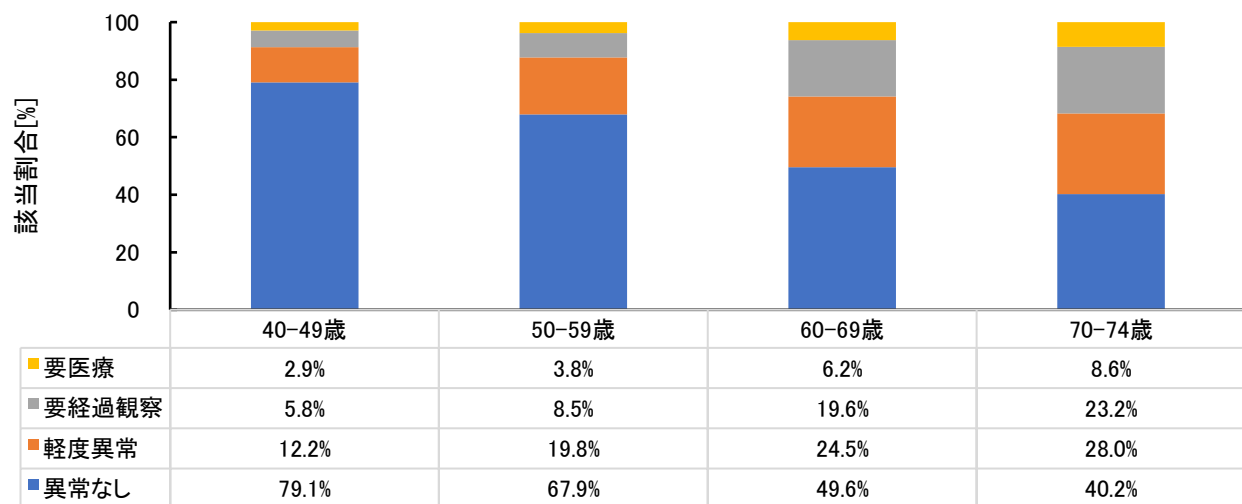


図 7-21 年齢階級別の血圧判定結果の割合(女性)

4.5. 腹囲の状況

図 7-22 に腹囲の度数分布を性別に示した。男性は 85～89cm, 90～94cm にピーク, 女性は 85～89cm にピークがある分布であった。メタボリックシンドロームの基準値である男性 85cm, 女性 90cm 以上は男性は 77.4% (995 人), 女性は 32.2% (572 人)であった。

図 7-23 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの腹囲の変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, 腹囲が 6cm 以上増加したのは男性は 9.8%, 女性は 17.9%, 10cm 以上増加したのは男性は 1.2%, 女性は 4.9%であった。腹囲が 6cm 以上減少したのは男性は 5.8%, 女性は 10.8%, 10cm 以上減少したのは男性は 1.1%, 女性は 2.6%であった。

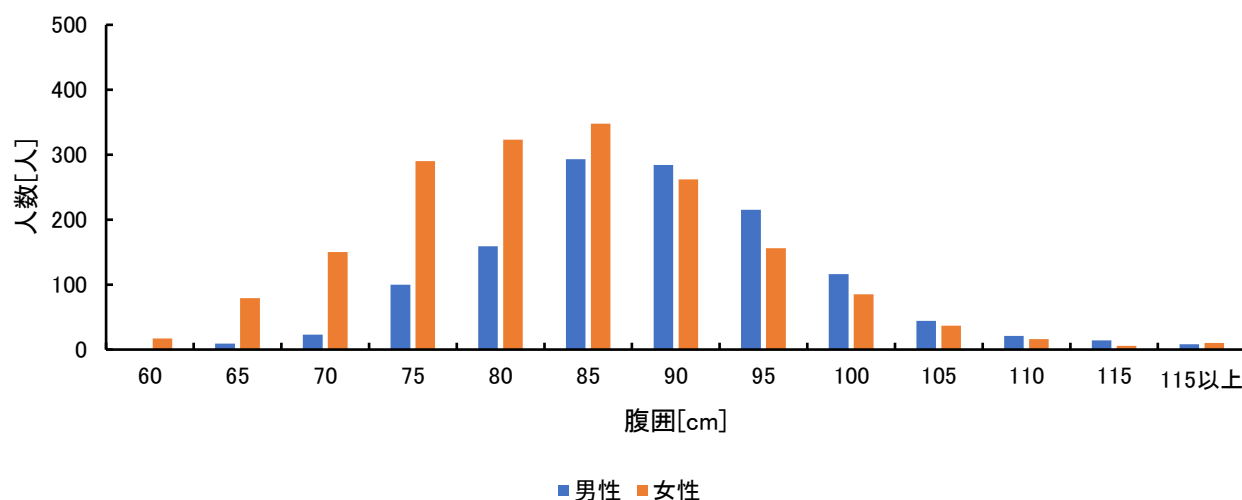


図 7-22 腹囲の度数分布

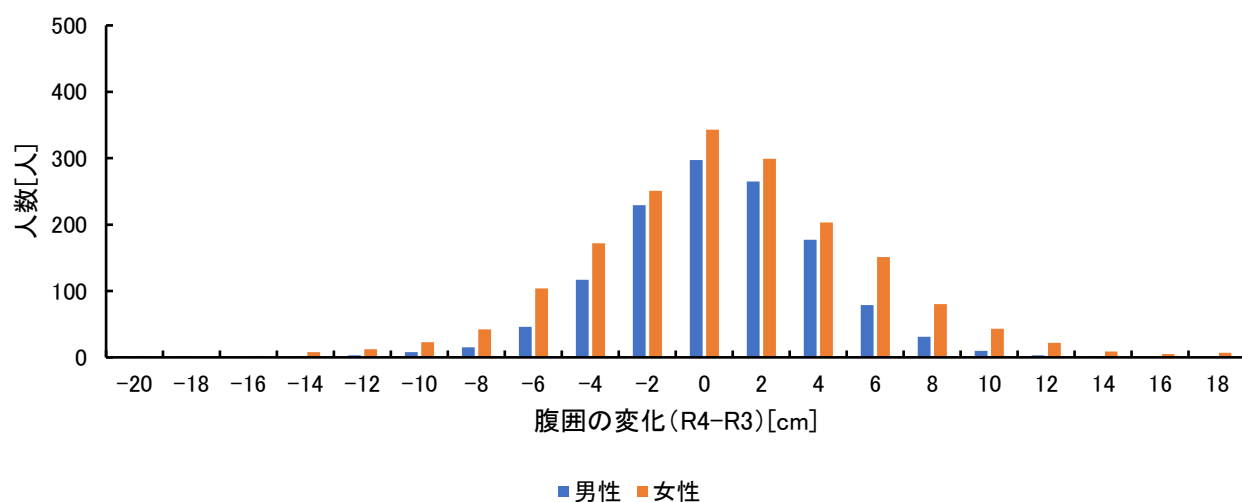


図 7-23 腹囲の変化

4.6. HbA1c の状況

HbA1c の判定は異常なし(5.6%未満), 軽度異常(5.6~5.9%), 要経過観察(6.0~6.4%), 要医療(6.5%以上)と定義した。

図 7-24 に HbA1c の度数分布を性別に示した。男女ともに 5.6~6.0%にピークがある分布であり, 4.5~12%までの幅広い分布であった。糖尿病の基準値である 6.5%以上は男性は 11.4%(146 人), 女性は 5.5%(98 人)であった。そして, 合併症リスクが高まる 8.5%以上は男性は 1.8%(23 人), 女性は 0.8%(14 人)であった。

図 7-25 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの HbA1c の変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, HbA1c が 0.2%以上減少したのは男性は 15.3%, 女性は 13.8%, 0.2%より増加したのは男性は 14.9%, 女性は 10.1%であった。

図 7-26 に男性, 図 7-27 に女性の令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの HbA1c の変化を散布図に示した。縦の破線は HbA1c 判定の異常群の HbA1c 6.5%のラインに引いている。令和 4 年度に 8.0%以上の該当者は令和 3 年度から増加傾向にあることがわかった。

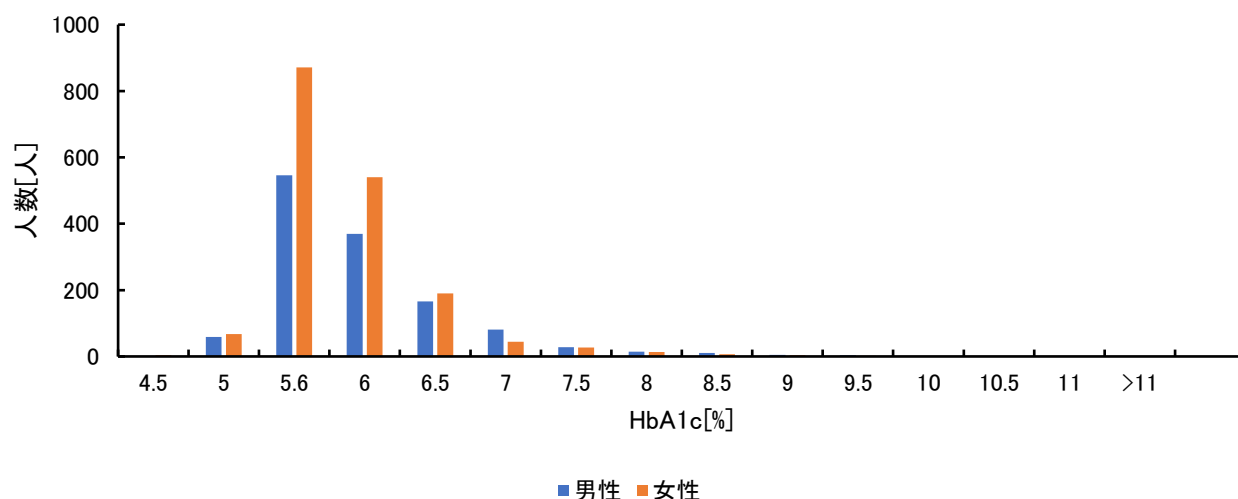


図 7-24 HbA1c の度数分布

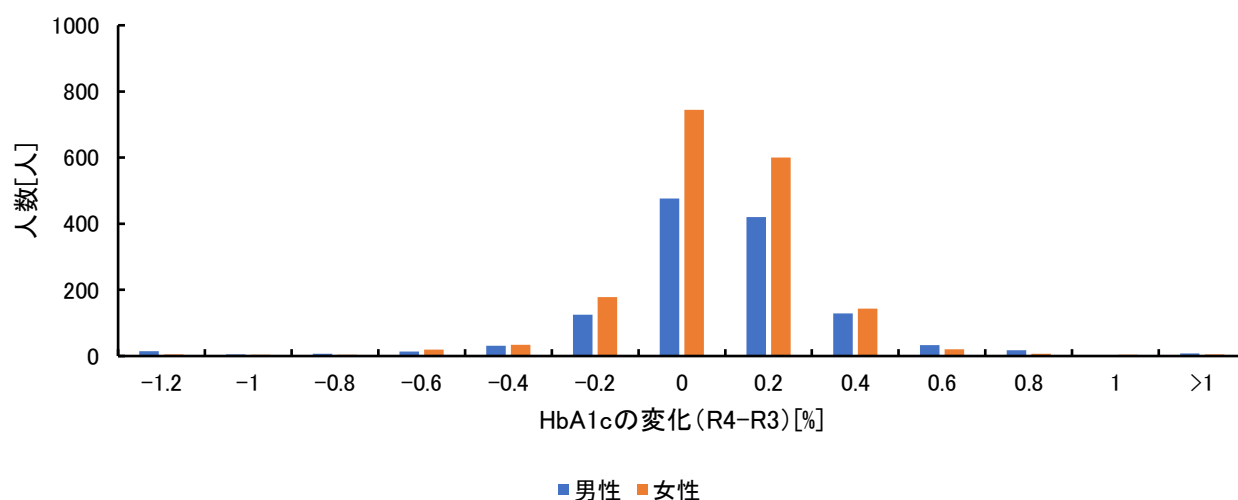


図 7-25 HbA1c の変化

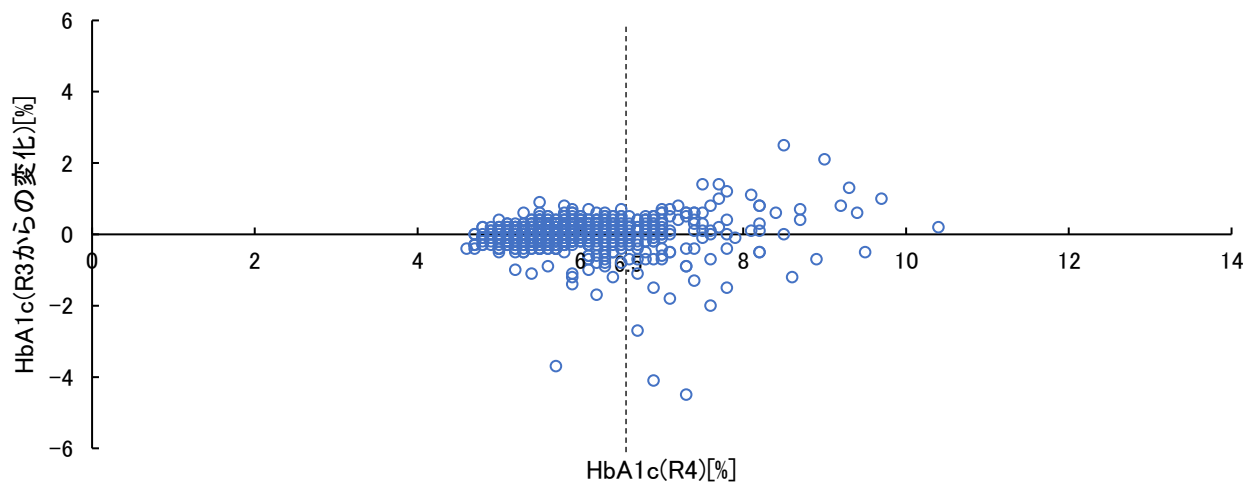


図 7-26 男性の HbA1c の変化

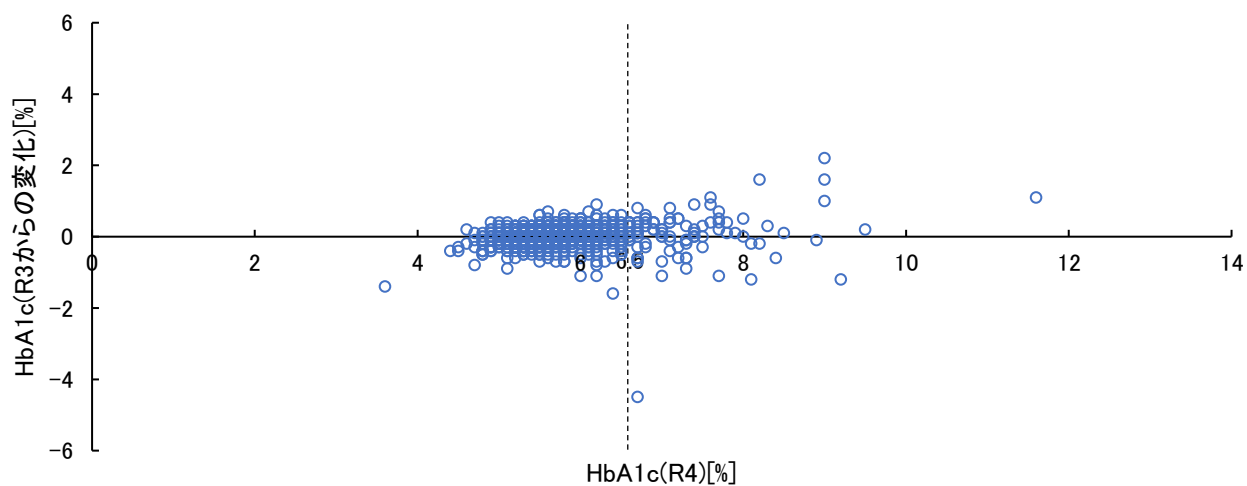


図 7-27 女性の HbA1c の変化

図 7-28 に令和 4 年度の HbA1c 判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 39.0%, 軽度異常は 32.1%, 要経過観察は 15.5%, 要医療は 13.4%であった。女性の異常なしは 42.6%, 軽度異常は 37.1%, 要経過観察は 13.3%, 要医療は 6.9%であった。

図 7-29 に男性, 図 7-30 に女性の令和 4 年度の HbA1c 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに異常なしの割合は年齢とともに減少し, 軽度異常, 要経過観察, 要医療の割合が増加していた。60-69 歳, 70-74 歳では男性は 14.3~19.2%, 女性は 6.5~17.1%が要経過観察, 要医療に該当していることがわかった。

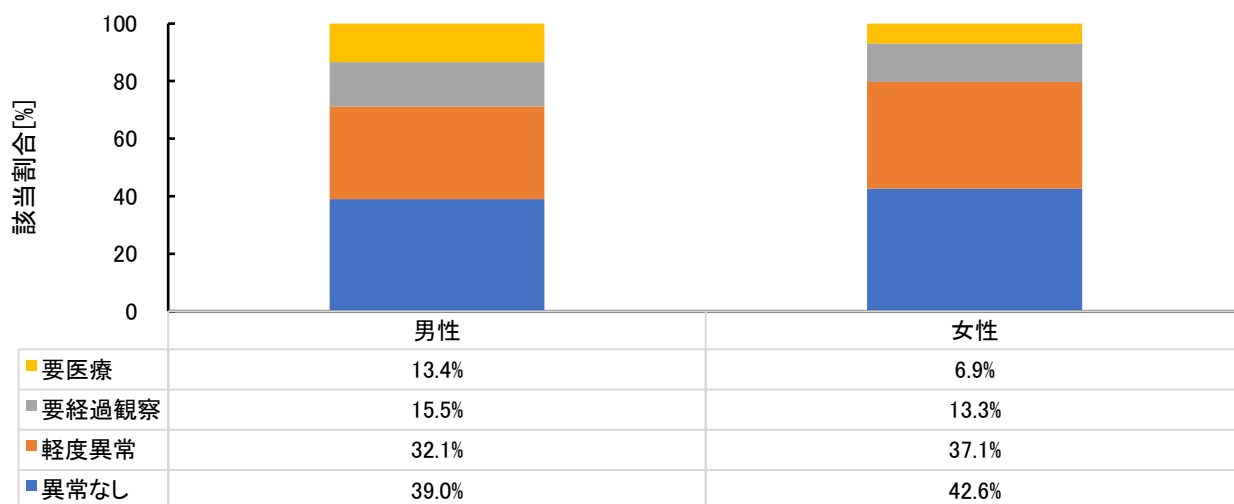


図 7-28 HbA1c 判定の結果

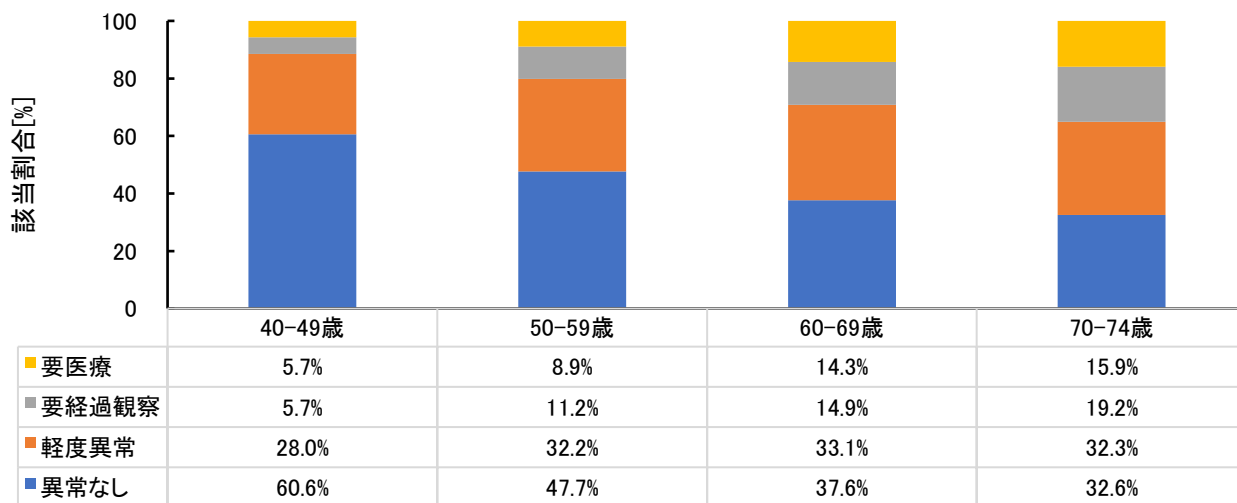


図 7-29 男性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

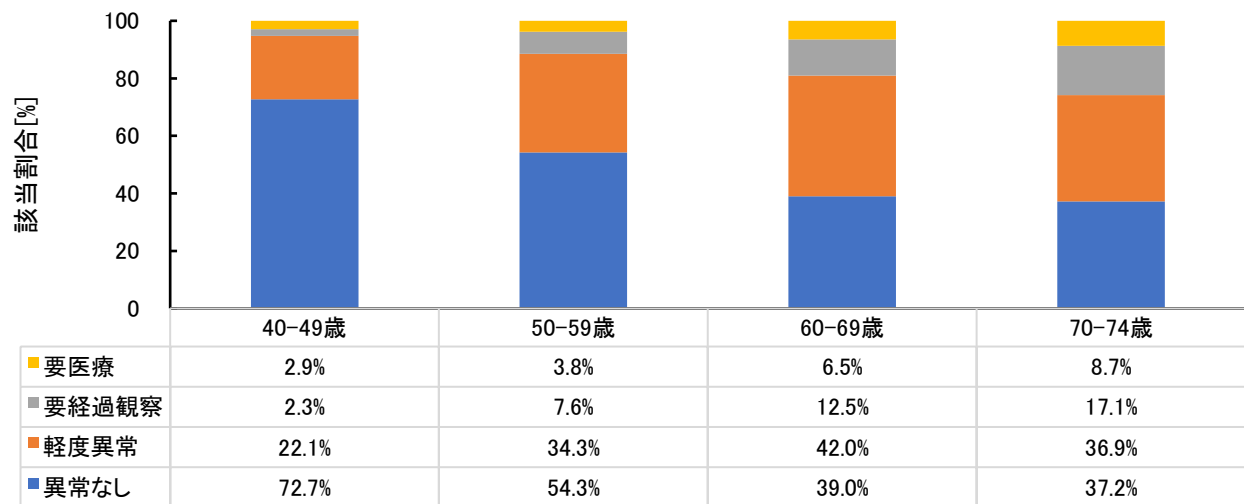


図 7-30 女性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

4.7. 中性脂肪(TG:トリグリセリド)の状況

TG の判定は異常なし(30-149mg/dl), 軽度異常(150-299mg/dl), 要経過観察(300-499mg/dl), 要医療(500mg/dl 以上または 500mg/dl 以上)と定義した。

図 7-31 に TG の度数分布を性別に示した。男性は 90~149mg/dl, 150~209mg/dl にピーク, 女性は 90~149mg/dl にピークがある分布であった。300mg/dl 以上は男性は 3.3%(42 人), 女性は 1.5%(27 人)であった。

図 7-32 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの TG の変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, 50mg/dl より増加した割合が男性は 11.0%, 女性は 7.4%であった。100mg/dl より増加したのは男性は 4.2%, 女性は 1.9%であった。100mg/dl 以上減少したのは男性は 5.5%, 女性は 2.3%であった。

図 7-33 に男性, 図 7-34 に女性の令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの TG の変化を散布図に示した。縦の破線は TG 判定の中等度高中性脂肪血症群の 300mg/dl のラインに引いている。男女ともに令和 4 年度に TG が 300mg/dl 以上の該当者は令和 3 年度から増加傾向にあった。

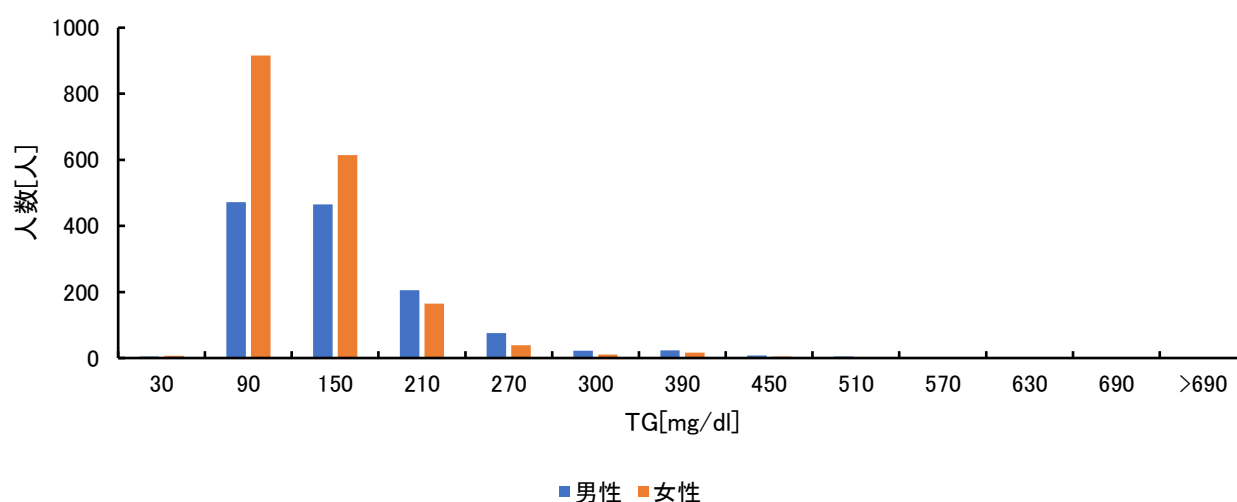


図 7-31 TG の度数分布

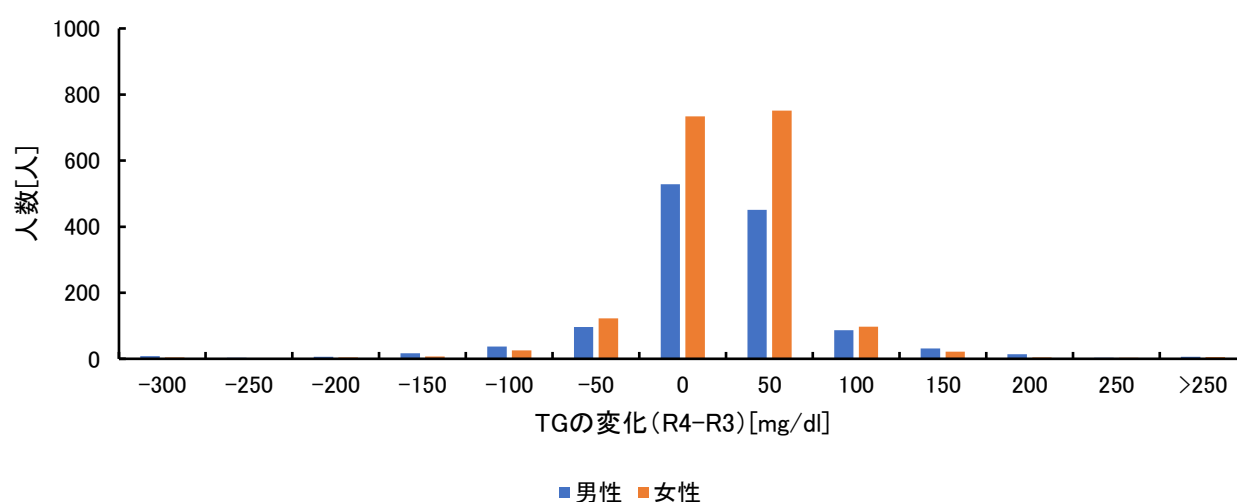


図 7-32 TG の変化

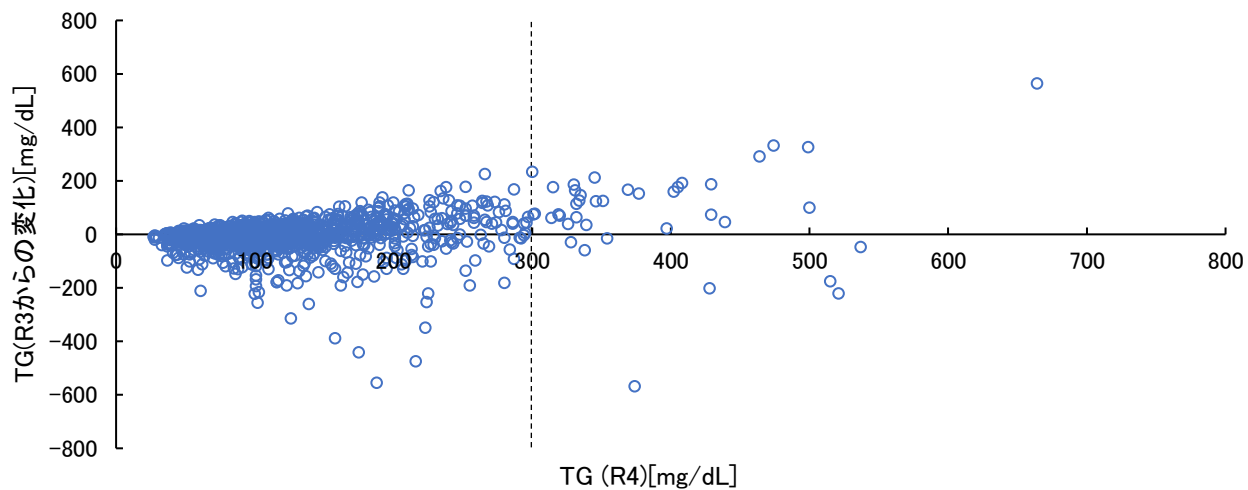


図 7-33 男性の TG の変化

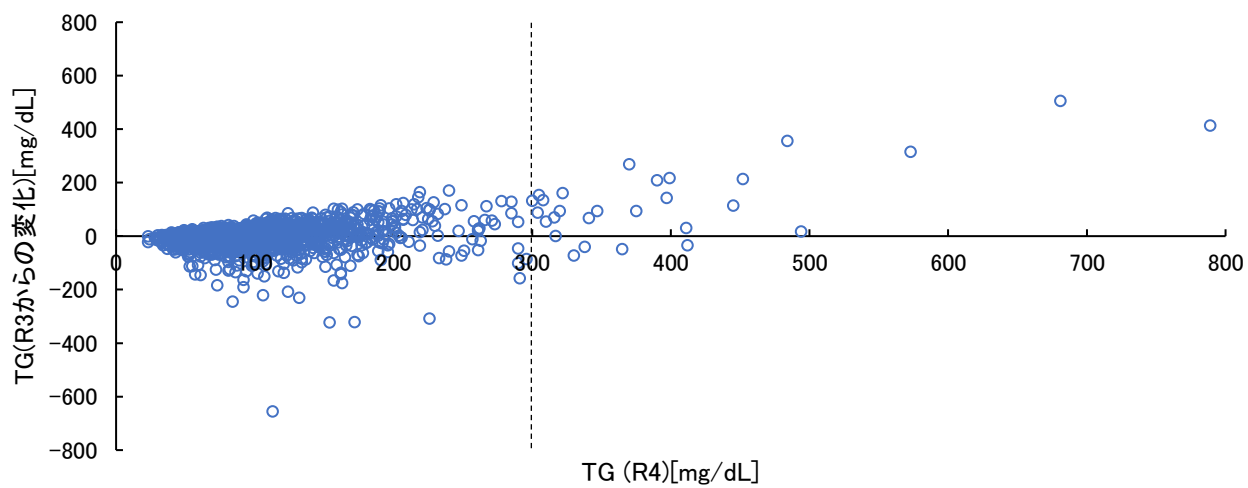


図 7-34 女性の TG の変化

図 7-35 に令和 4 年度のTG判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 71.9%, 軽度異常は 24.0%, 要経過観察は 3.1%, 要医療は 1.0%であった。女性の異常なしは 84.6%, 軽度異常は 13.3%, 要経過観察は 1.5%, 要医療は 0.5%であった。

図 7-36 に男性, 図 7-37 に女性の令和 4 年度のTG判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性の異常なしの割合は 67.8~75.2%, 女性は 83.9~86.8%であることがわかった。男性の要経過観察, 要医療の割合は 0.6~3.9%, 女性は 0.3~2.3%であり, 年齢に伴い低下傾向であることがわかった。

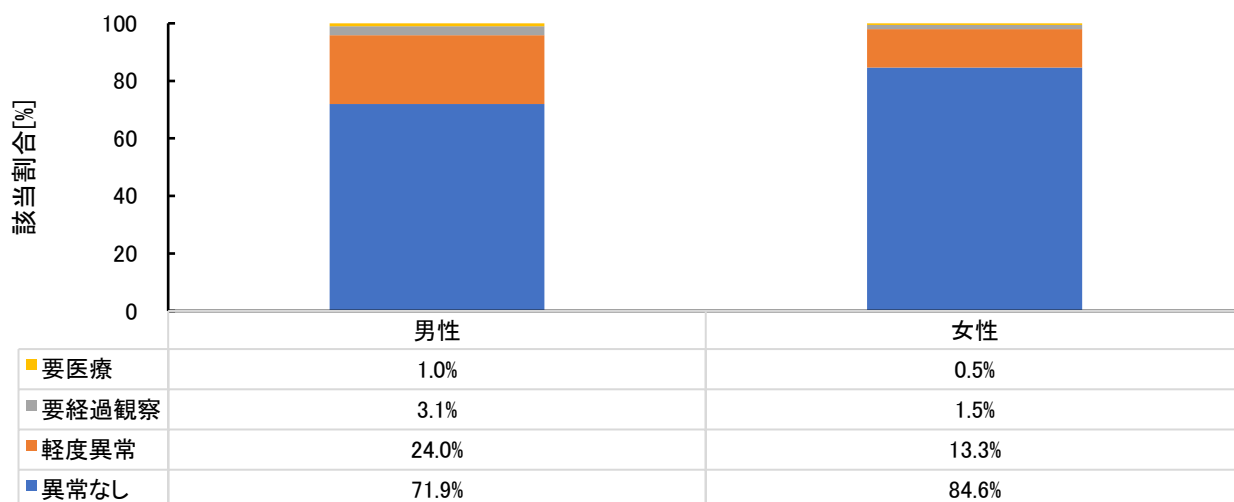


図 7-35 TG 判定の結果

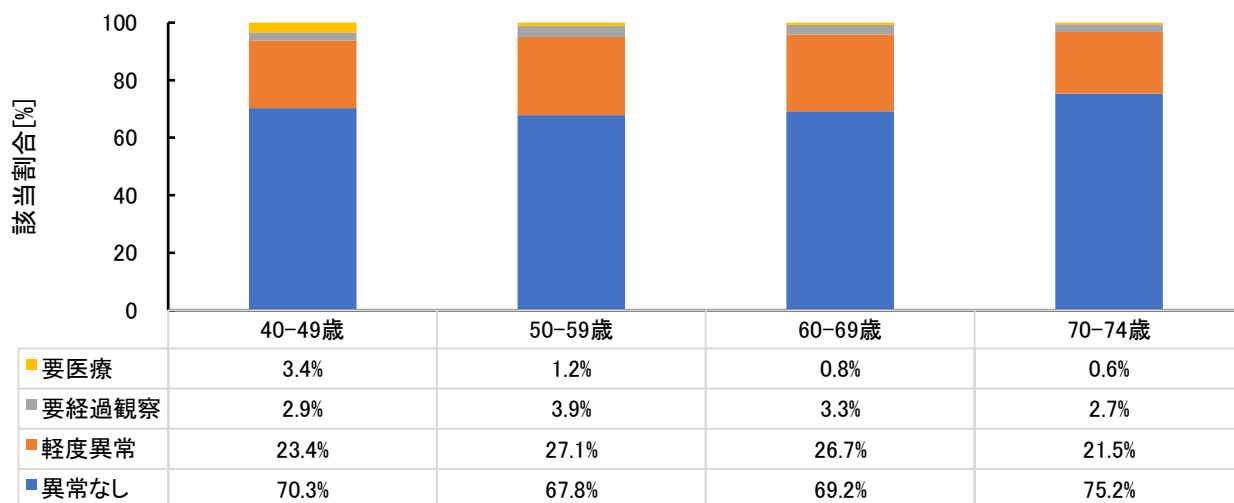


図 7-36 男性の年齢階級別の TG 判定の結果

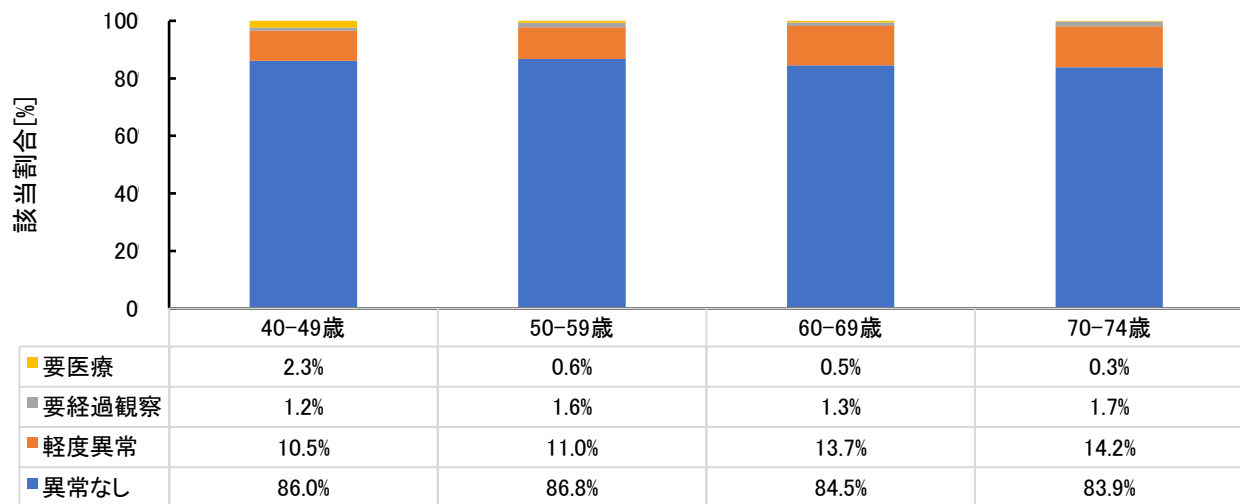


図 7-37 女性の年齢階級別の TG 判定の結果

4.8. HDL コレステロールの状況

HDL コレステロールの判定は異常なし(40mg/dl 以上), 要経過観察(35-39mg/dl), 要医療(34mg/dl 以下)と定義した。

図 7-38 に HDL コレステロールの度数分布を性別に示した。男性は 60~69mg/dl にピーク, 女性は 70~79mg/dl にピークがある分布であった。39mg/dl 以下は男性は 6.9%(89 名), 女性は 1.1%(19 名)であった。

図 7-39 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの HDL コレステロールの変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, ± 5 mg/dl の割合が男性は 69.9%, 女性は 67.1%であった。

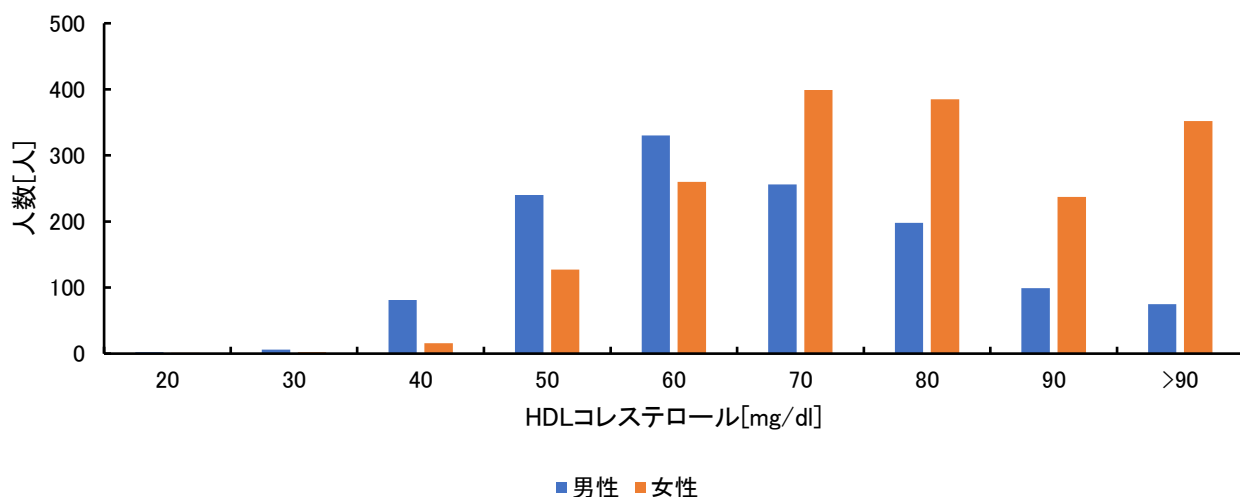


図 7-38 HDL コレステロールの度数分布

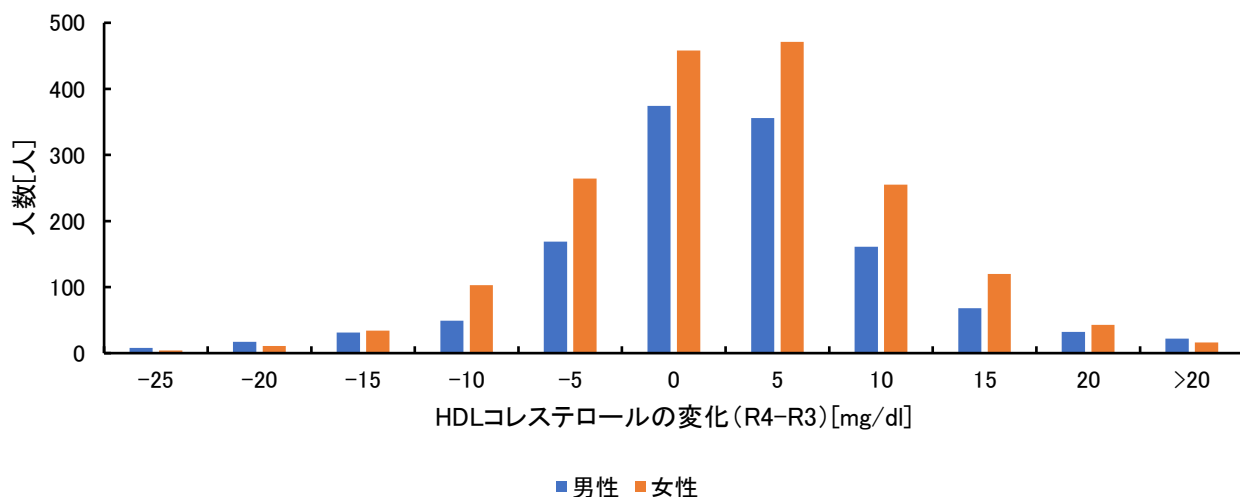


図 7-39 HDL コレステロールの変化

図 7-40 に令和 4 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 94.2%, 要経過観察は 4.6%, 要医療は 1.1%であった。女性の異常なしは 99.0%, 要経過観察は 0.8%, 要医療は 0.3%であった。

図 7-41 に男性, 図 7-42 に女性の令和 4 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともにすべての年齢階級で異常なしの割合は 90%以上であった。

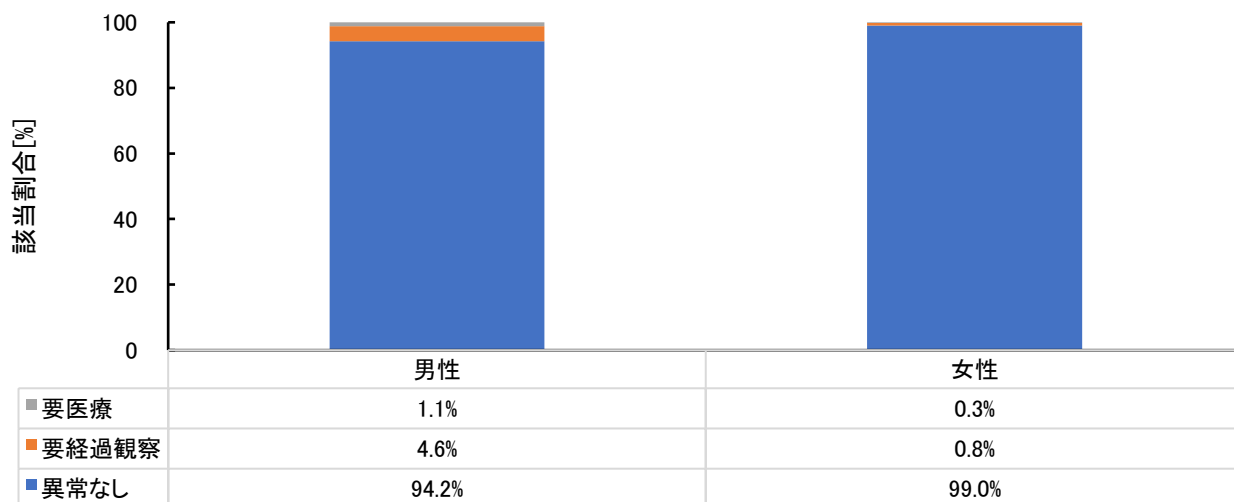


図 7-40 HDL コレステロール判定の結果

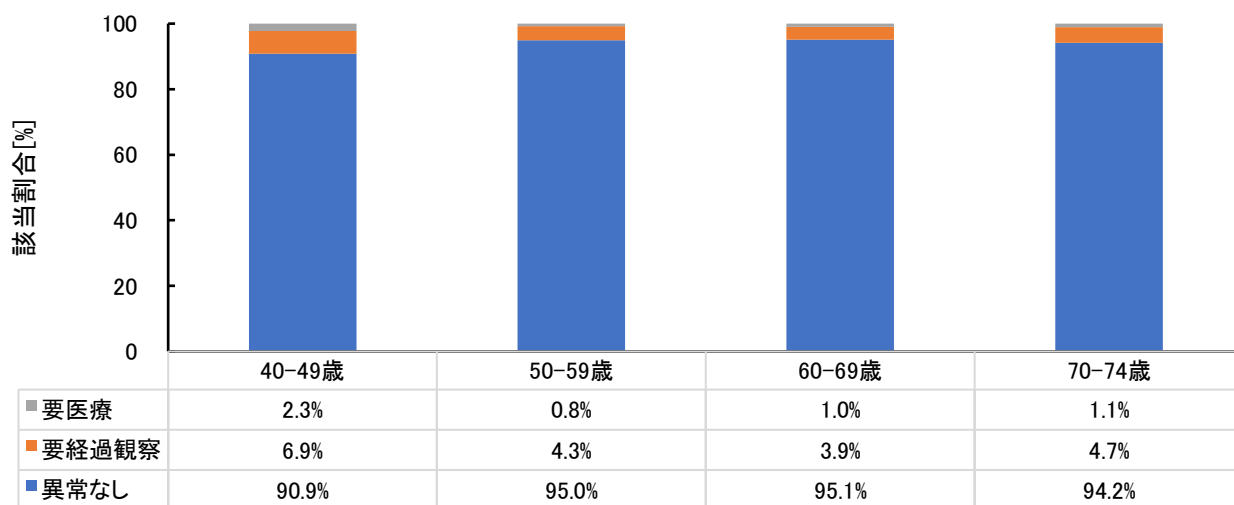


図 7-41 男性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

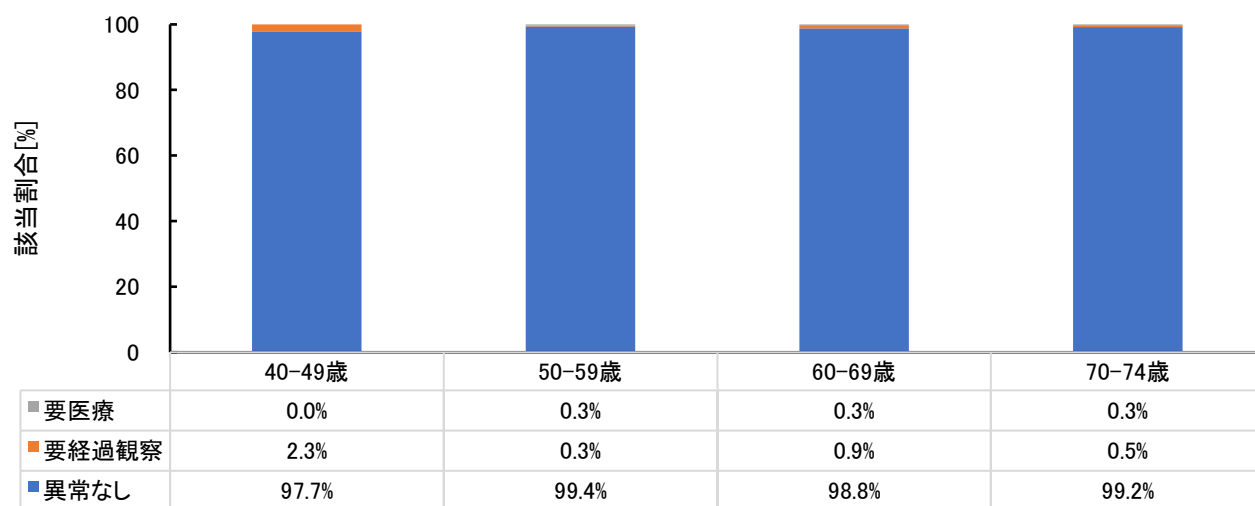


図 7-42 女性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

4.9. LDL コレステロールの状況

LDL コレステロールの判定は異常なし群(60-119mg/dl), 軽度異常群(120-139mg/dl), 要経過観察群(140-179mg/dl), 要医療群(59mg/dl 以下または 180mg/dl 以上)と定義した。

図 7-43 に LDL コレステロールの度数分布を性別に示した。男性は 110~119mg/dl にピーク, 女性は 120~129mg/dl にピークがある分布であった。120mg/dl 以上の割合は男性は 47.2%(607 人), 女性は 56.8%(1,010 人)であった。180mg/dl 以上の割合は男性は 3.1%(40 人), 女性は 4.2%(74 人)であった。60mg/dl 以下の割合は男性は 1.4%(18 人), 女性は 0.8%(15 人)であった。

図 7-44 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの LDL コレステロールの変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, $\pm 10\text{mg/dl}$ の割合は男性は 63.2%, 女性は 65.0%であった。40mg/dl 以上減少したのは男性は 3.3%, 女性は 3.9%であった。40mg/dl 以上増加したのは男性は 4.4%, 女性は 2.7%であった。

図 7-45 に男性, 図 7-46 に女性の令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの LDL コレステロールの変化を散布図に示した。縦の破線は LDL コレステロール判定の異常群の LDL コレステロール 180mg/dl のラインに引いている。男女ともに令和 4 年度に LDL コレステロールが 180mg/dl 以上の該当者は令和 3 年度から LDL コレステロールが増加傾向にあった。

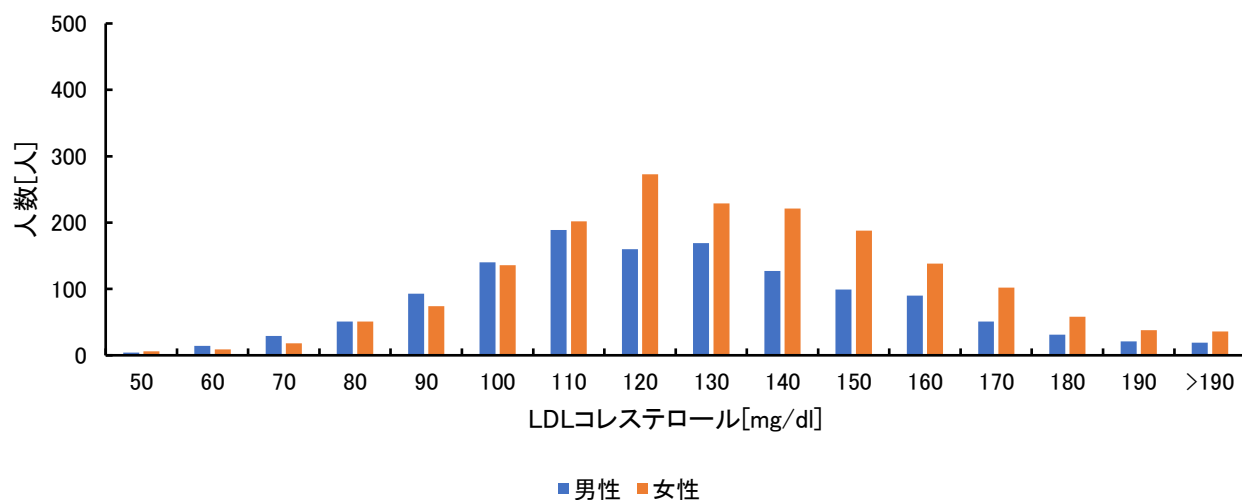


図 7-43 LDL コレステロールの度数分布

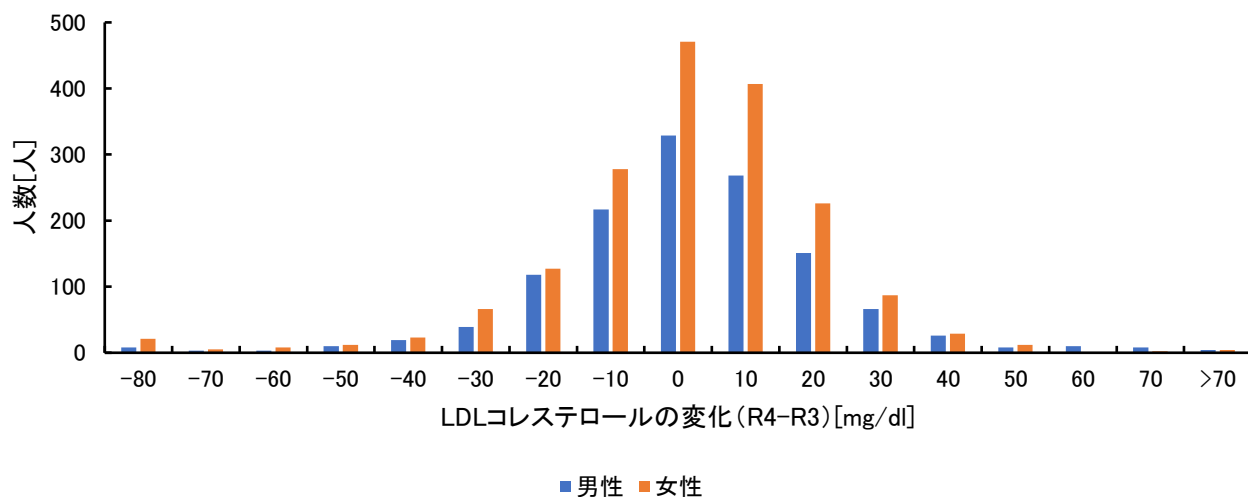


図 7-44 LDL コレステロールの変化

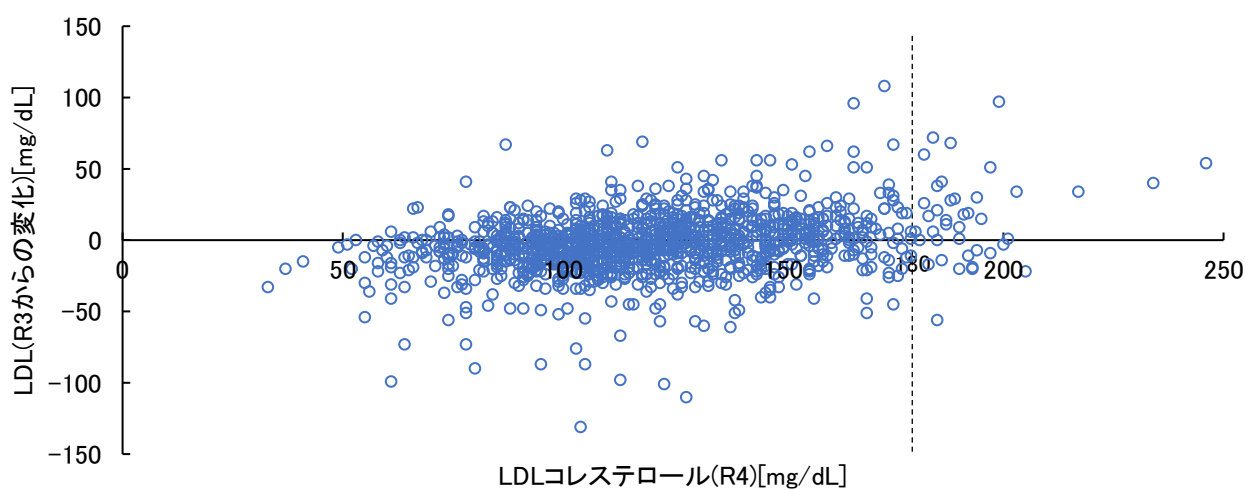


図 7-45 男性の LDL コレステロールの変化

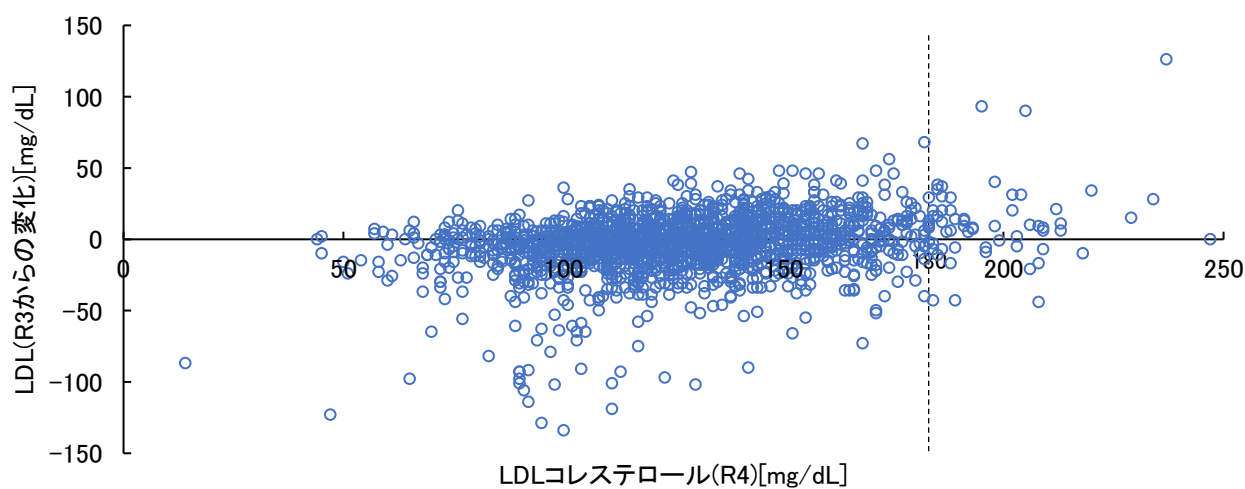


図 7-46 女性の LDL コレステロールの変化

図 7-47 に令和 4 年度の LDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 49.1%，軽度異常は 22.6%，要経過観察は 22.8%，要医療は 5.4%であった。女性の異常なしは 39.3%，軽度異常は 25.6%，要経過観察は 29.3%，要医療は 5.8%であった。

図 7-48 に男性，図 7-49 に女性の令和 4 年度の LDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は年齢に伴い異常なしの割合が増加していた。女性は 50-59 歳，60-69 歳で異常なしの割合が低下し，軽度異常，要経過観察の割合が増加していた。

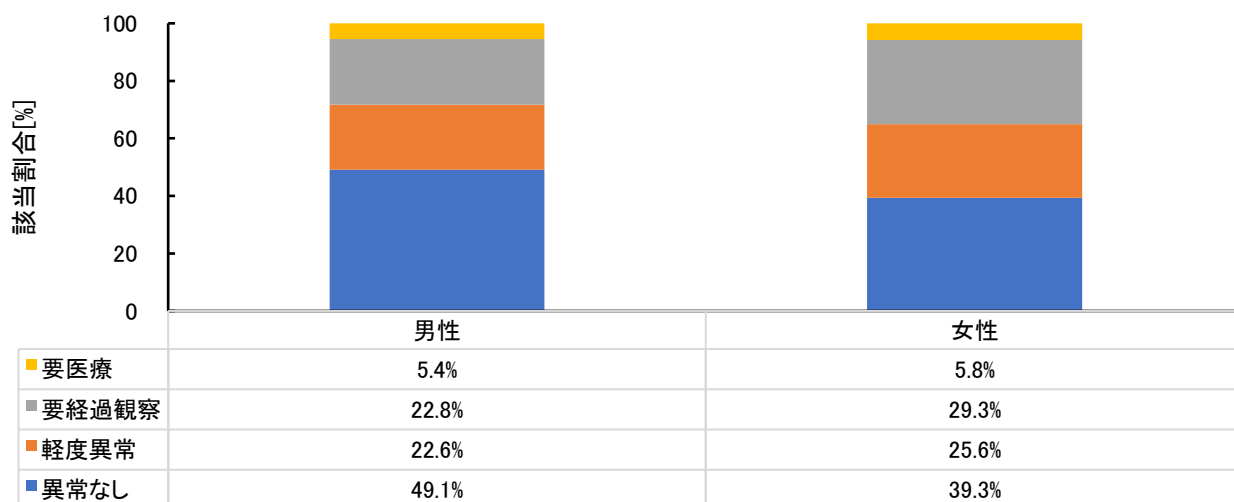


図 7-47 LDL コレステロール判定の結果

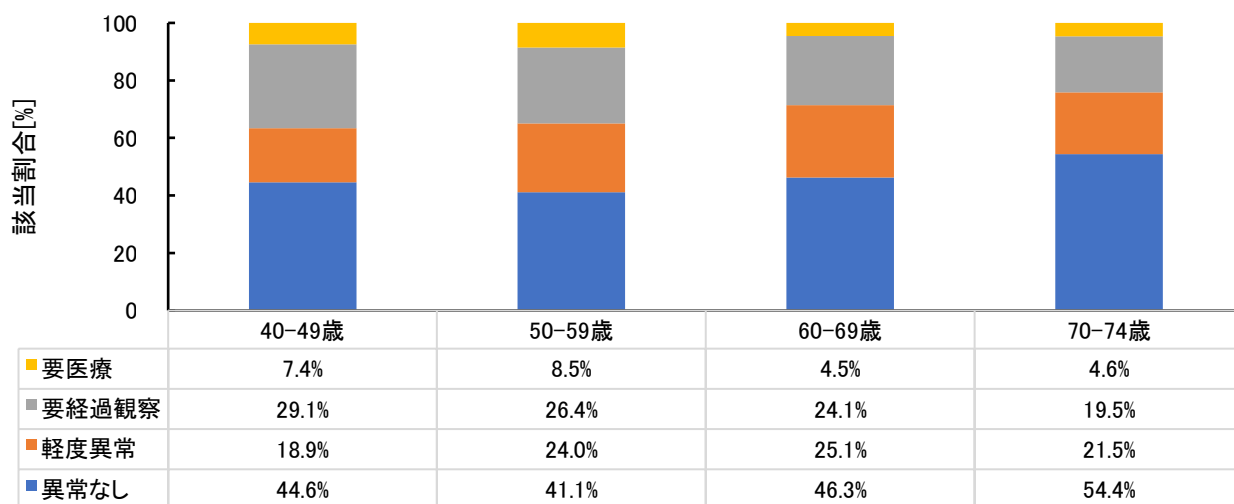


図 7-48 男性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果

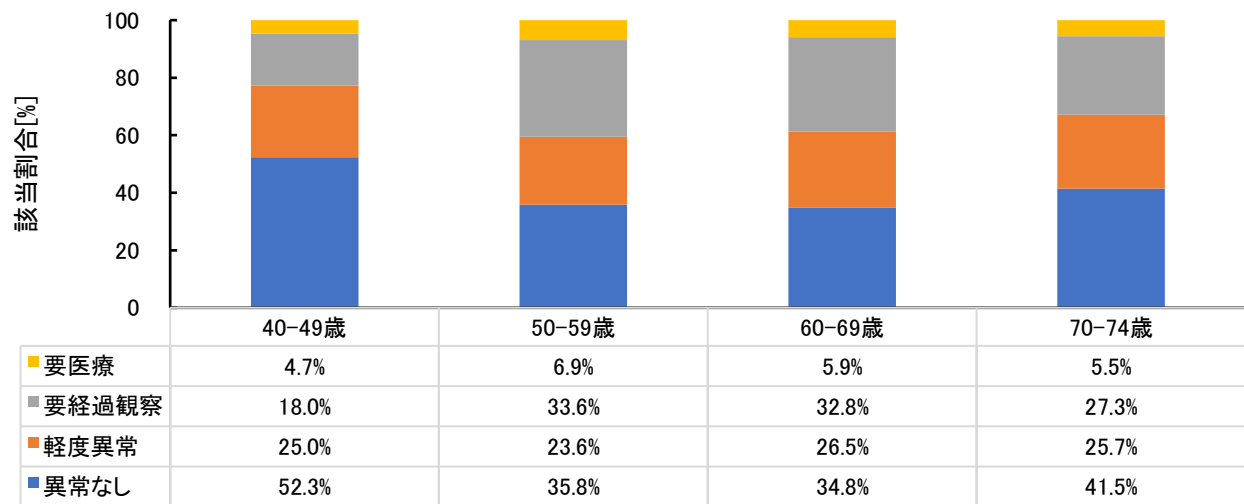


図 7-49 女性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果

4.10. GOT・GPT・ γ -GTP の状況

図 7-50 に GOT, 図 7-51 に GPT, 図 7-52 に γ -GTP の度数分布を性別に示した。GOT は男女ともに 30～34IU/L, GPT は 30～39IU/L にピークがある分布であった。 γ -GTP は男性は 40～59IU/L, 女性は 20～39IU/L にピークがある分布であった。

図 7-53 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの GOT の変化, 図 7-54 に GPT の変化, 図 7-55 に γ -GTP の変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, GOT は男女ともに 82%以上が ± 10 IU/L の変化, GPT は男性は 60.3%, 女性は 81.1%が ± 10 IU/L の変化であった。 γ -GTP は男女ともに 96%以上が ± 50 IU/L の変化であった。

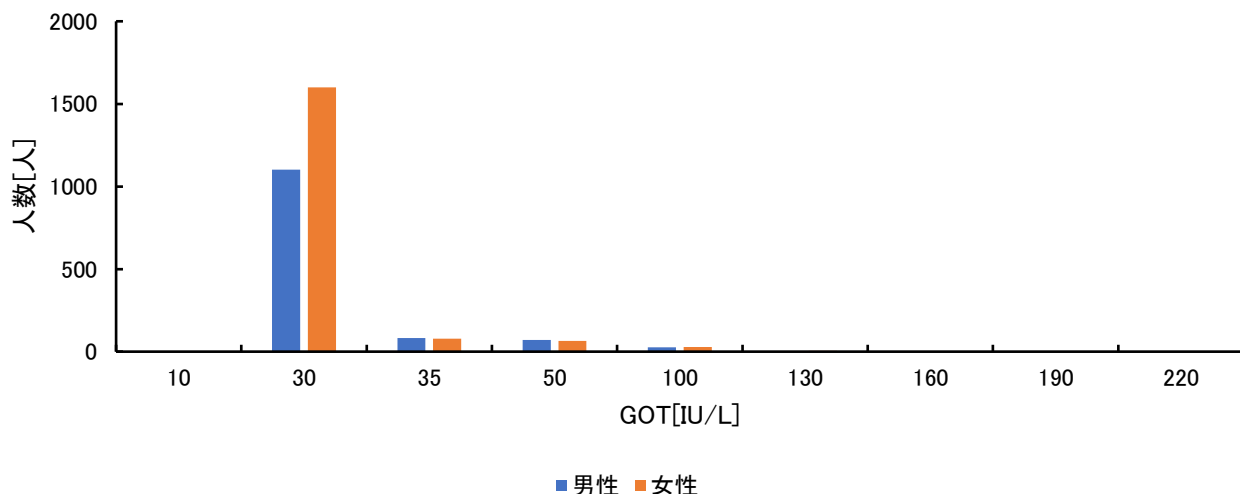


図 7-50 GOT の度数分布

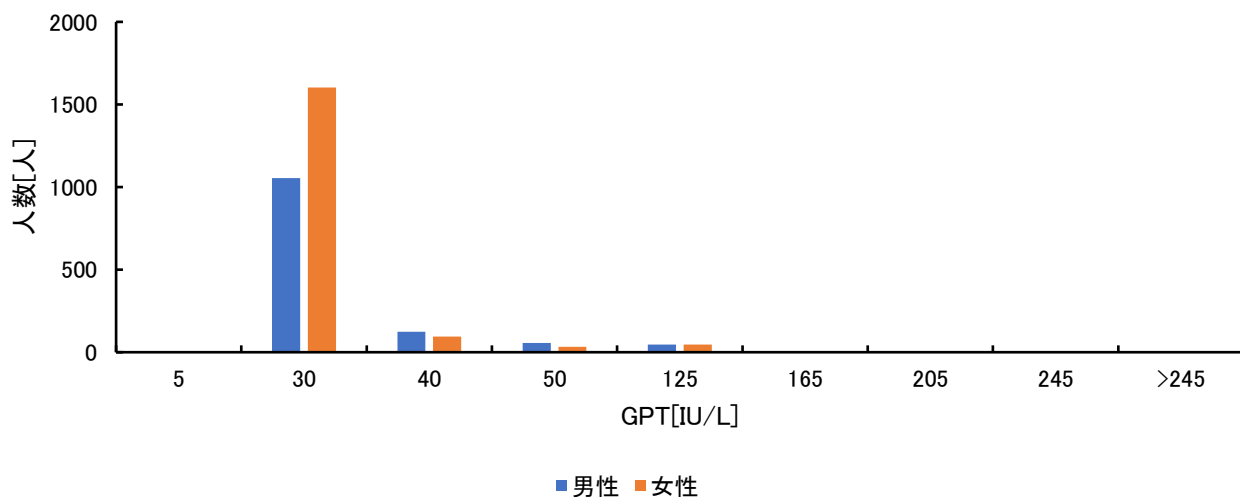


図 7-51 GPT の度数分布

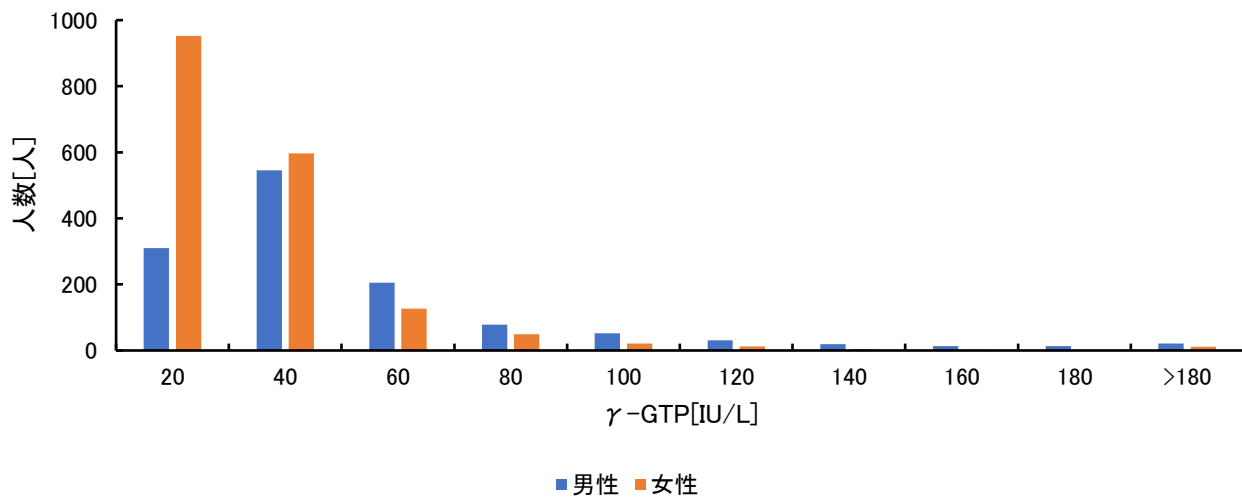


図 7-52 γ -GTP の度数分布

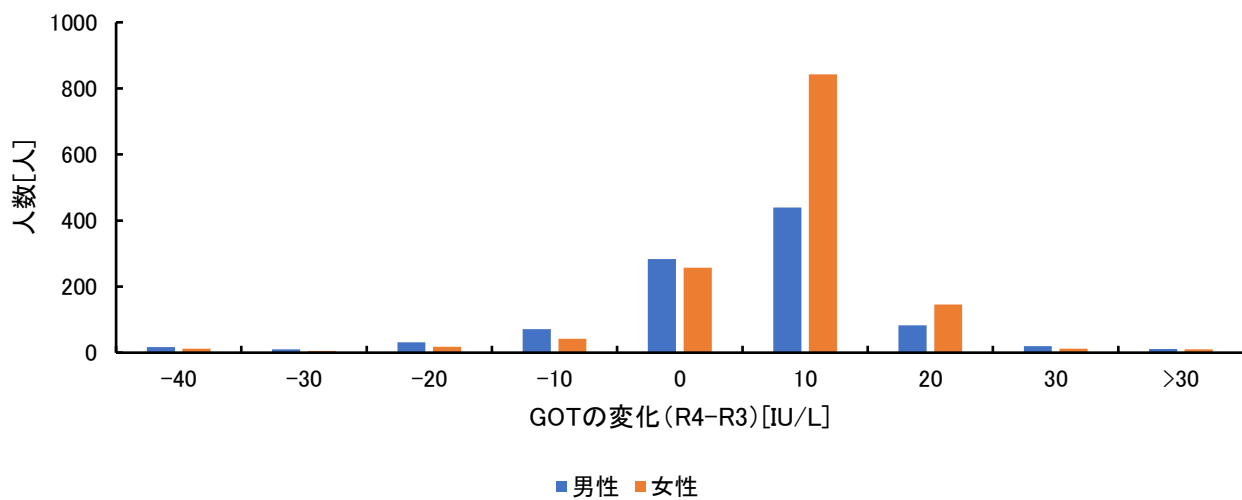


図 7-53 GOT の変化

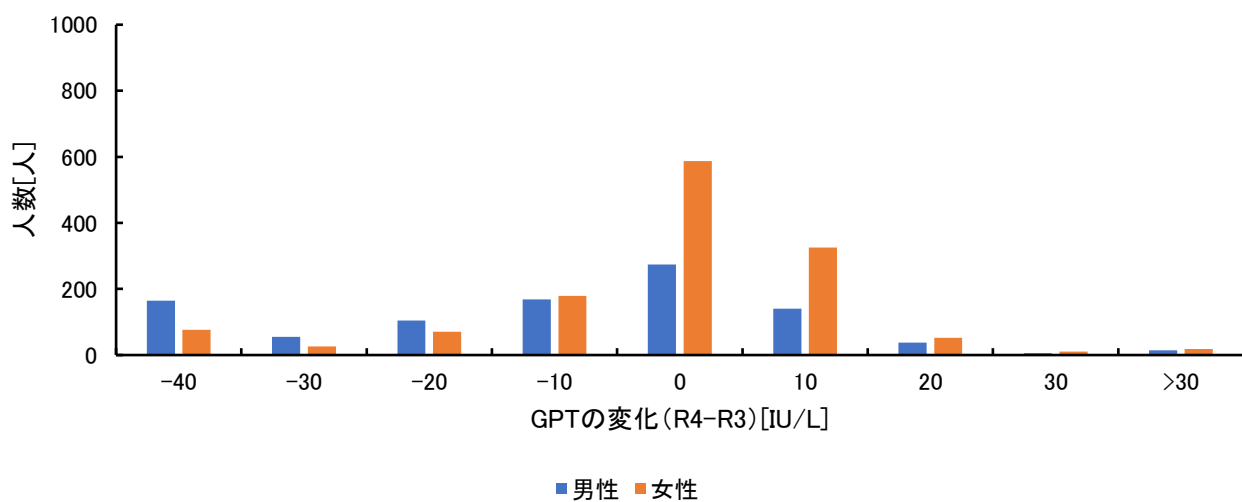


図 7-54 GPT の変化

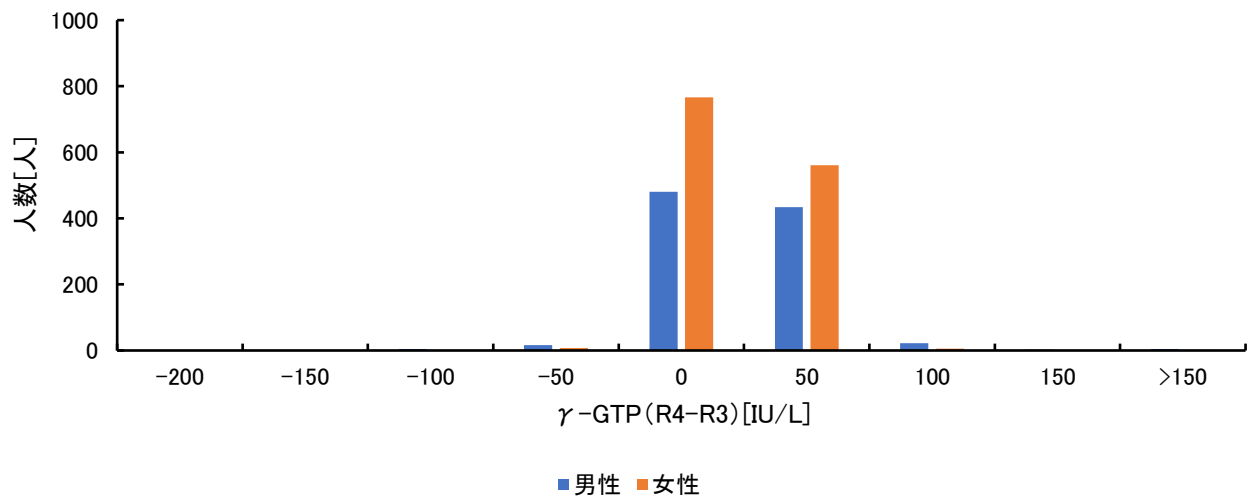


図 7-55 γ -GTP の変化

4.11. 血清クレアチニンの状況

図 7-56 に血清クレアチニンの度数分布を性別に示した。男性は 0.9mg/dl にピーク、女性は 0.7mg/dl にピークがある分布であった。男性の 1.0mg/dl 以上の割合は 19.7%(218 人)、女性の 0.7mg/dl 以上の人数は 30.1%(467 人)であった。

図 7-57 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの血清クレアチニンの変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果、 $\pm 0.1\text{mg/dl}$ の割合が男性は 88.8%, 女性は 96.8%であった。

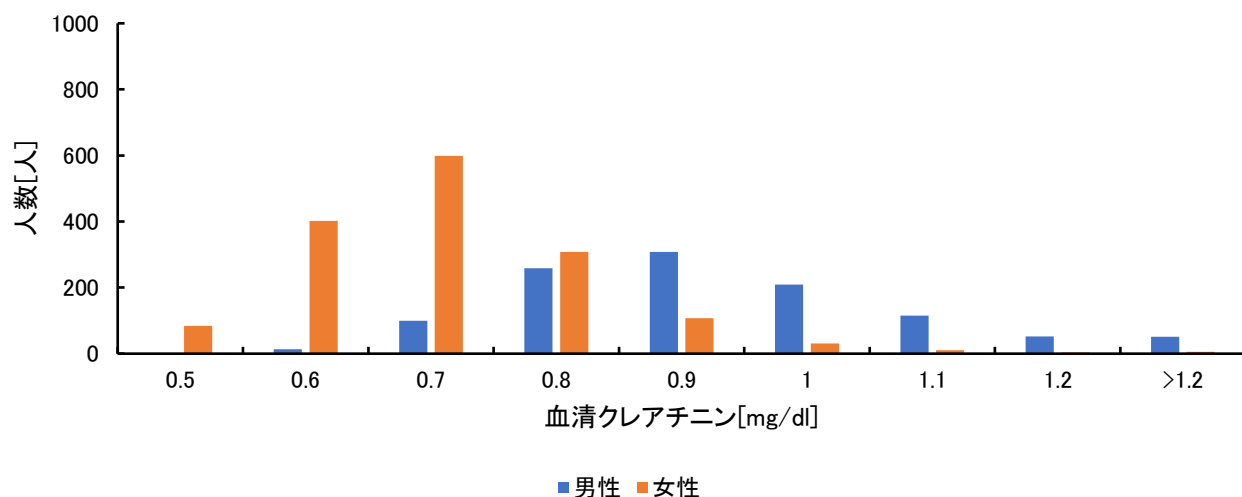


図 7-56 血清クレアチニンの度数分布

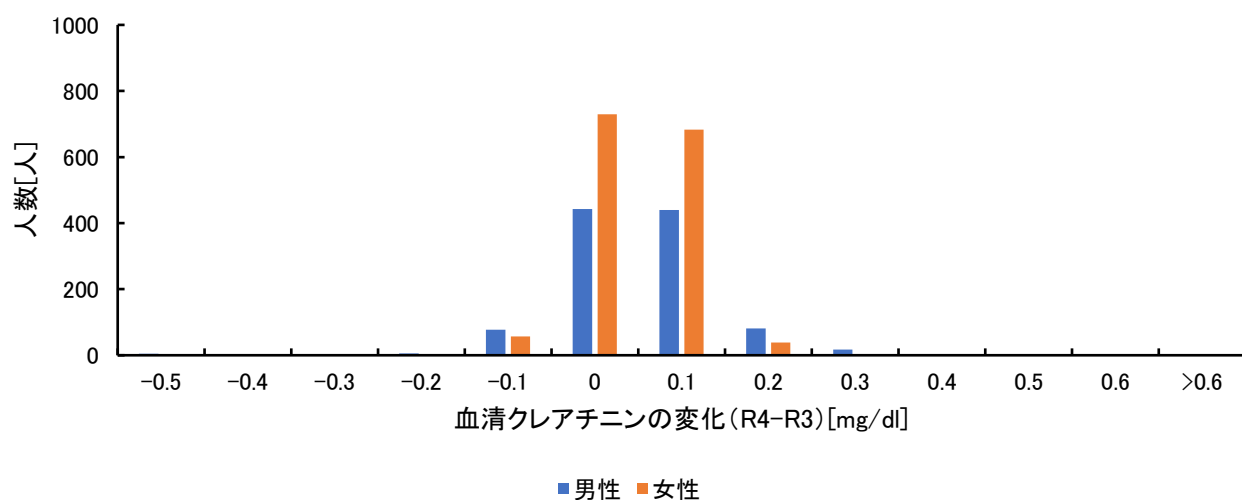


図 7-57 血清クレアチニンの変化

4.12. eGFR の状況

eGFR 判定は異常なし($60.0[\text{ml}/\text{分}/1.73\text{ m}^2]$ (以下単位省略)以上), 要経過観察群(45.0–59.9), 要医療群(44.9 以下)と定義した。

図 7-58 に eGFR の度数分布を性別に示した。eGFR は血清クレアチニンから算出し, 腎臓が老廃物を尿へ排出する能力がどの程度あるかを示している。腎臓における血液の濾過量のため, 値が小さくなるほど濾過機能が悪いことを意味する。男女ともに $75\sim 89\text{ ml}/\text{min}/1.73\text{ m}^2$ にピークがある分布であった。

図 7-59 に令和 4 年度を基準に令和 3 年度からの eGFR の変化を性別に示した。令和 3 年度と令和 4 年度を比較した結果, ± 5 の割合が男性は 74.8%, 女性は 76.6%であった。15 以上減少したのは男性は 1.8%, 女性は 1.9%であった。15 以上増加したのは男性は 2.3%, 女性は 1.1%であった。

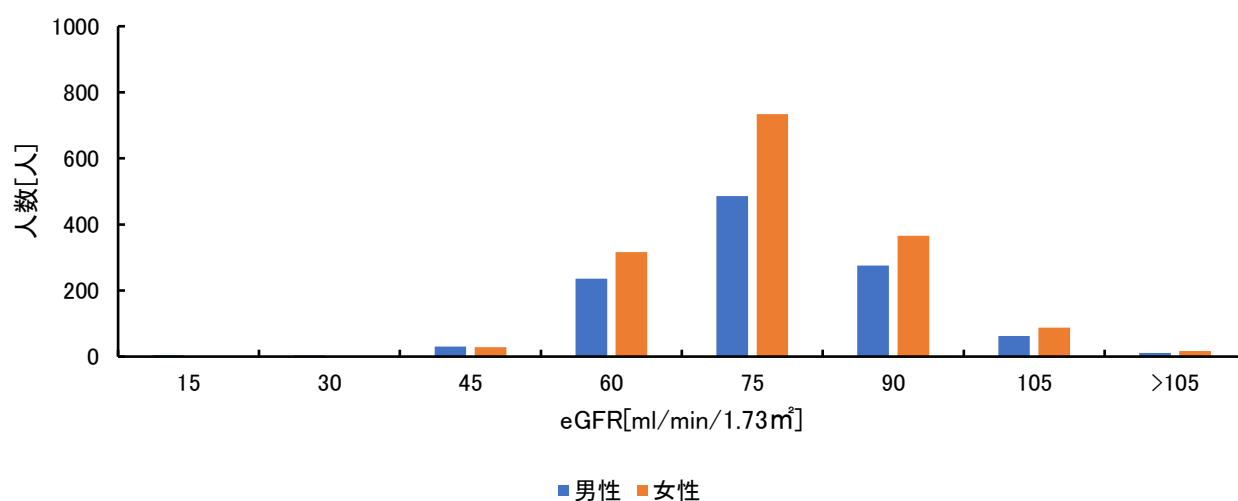


図 7-58 eGFR の度数分布

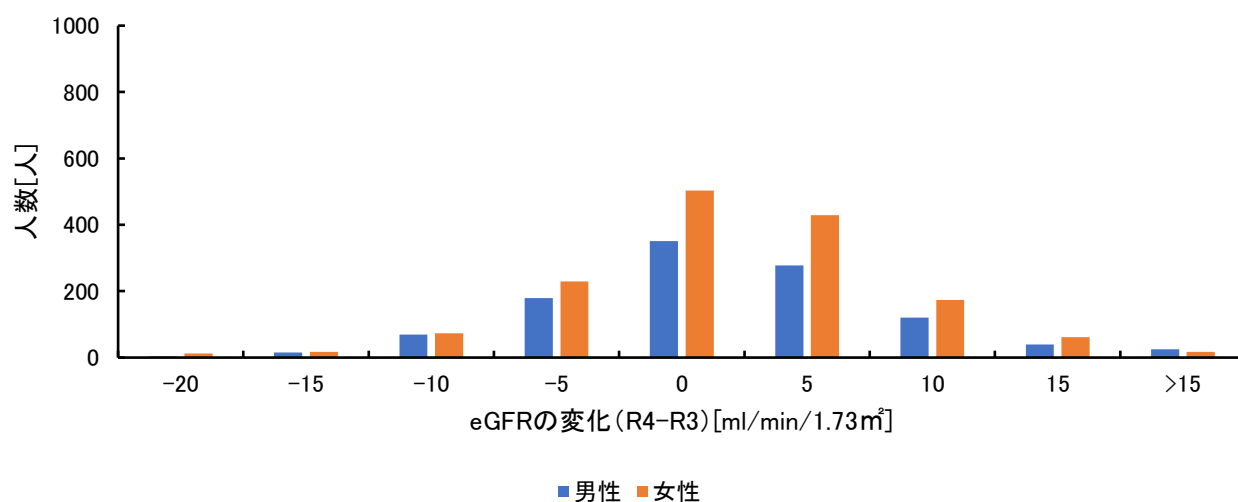


図 7-59 eGFR の度数分布

図 7-60 に令和 4 年度の eGFR 判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 76.3%, 要経過観察は 20.3%, 要医療は 3.4%であった。女性の異常なしは 78.7%, 要経過観察は 19.4%, 要医療は 1.9%であった。

図 7-61 に男性, 図 7-62 に女性の令和 4 年度の eGFR 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに年齢に伴い異常なしの割合が低下していた。40-49 歳は男女ともに要医療は 0%であったが年齢に伴い, 要経過観察, 要医療の割合が増加していた。

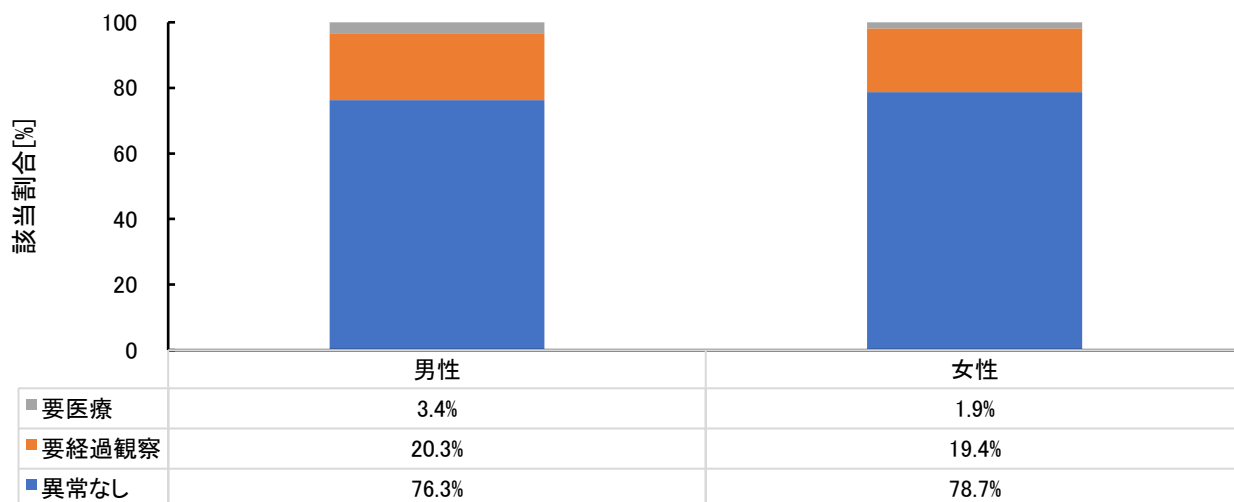


図 7-60 eGFR 判定の結果

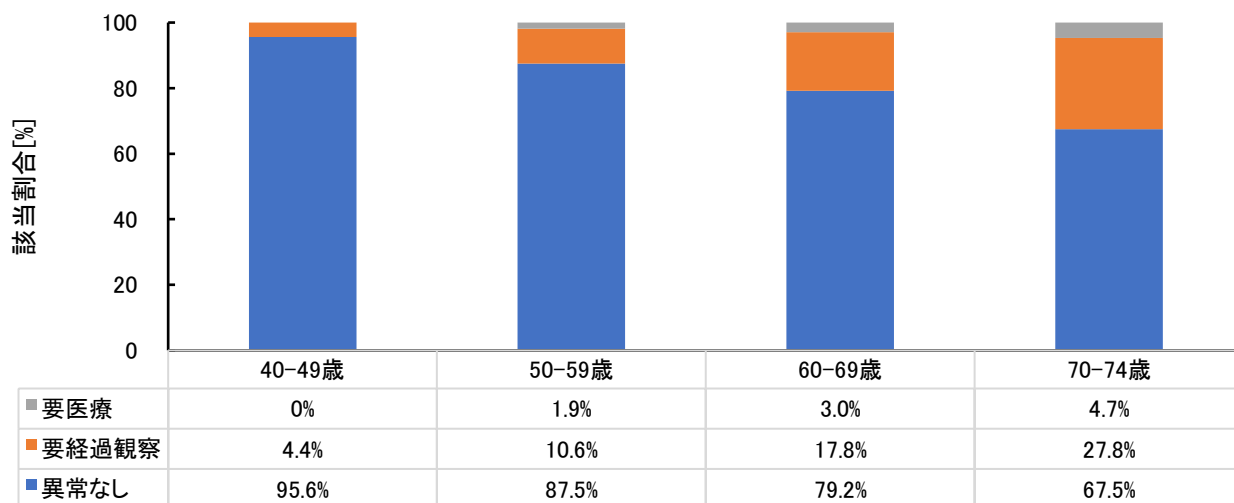


図 7-61 男性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

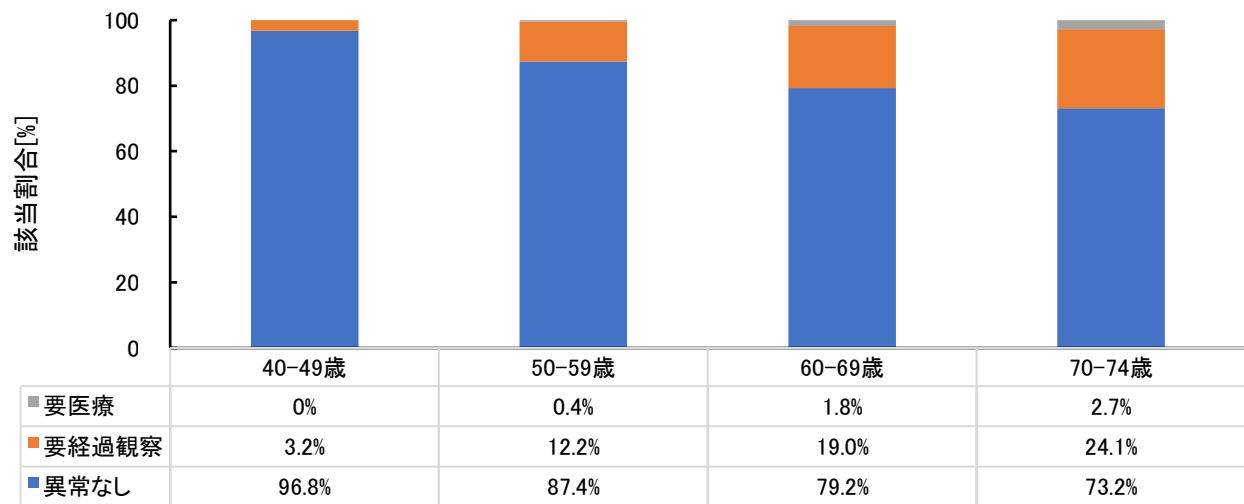


図 7-62 女性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

第8章 まとめ

1. 国保医療費のまとめ

- 国保被保険者は65歳以上が33.2%で約3割を占めた。65歳以上は受療率が高く、国保全体の医療費に占める割合も高い結果となった。今後、国保の被保険者は、国の社保への移行拡大を受け、生産年齢(15～64歳)の人数が減少すると予測される。社保から国保に移行する65歳のタイミング、あるいは疾病等により社保から国保に移行する人を対象とした健康教育は国保の医療費の増加を抑制する上で重要と考えられる。
- 入院外の受療割合は子どもと高齢者で高い。特に、高齢期になるほど入院を含めた受療割合、レセプト件数が増加した。入院外の受療割合について男性で60-64歳(70.0%)、女性で60-64歳(76.8%)のタイミングで上昇していた。入院は男性で50-54歳(2.0%)、60-64歳(3.8%)、女性は65-69歳(2.6%)で上昇していた。
- レセプト件数が36件/年を超えたのは85名であった。25-35件/年だったのは396名であった。
- 入院外診療日数が年間120日を超える頻回受診者は、83名(平均年齢65.0歳)が該当し、男性が56名(平均年齢63.9歳)、女性が27名(平均年齢67.4歳)であった。背景疾患の観点から、第11章(消化器系の疾患)、第13章(筋骨格系及び結合組織の疾患)、第4章(内分泌、栄養及び代謝疾患)、第9章(循環器系の疾患)が多かった。
- 入院期間が250日を超える長期入院患者は、36名(平均年齢58.6歳)が該当し、男性で23名(平均年齢56.6歳)、女性で13名(平均年齢62.2歳)であった。総医療費の総額は2.2億円であった。このうち消化器系の疾患、精神及び行動の障害、神経系の疾患の罹患者が多いことがわかった。
- 患者数が多く、医療費の総額が大きいのが、第4章の内分泌、栄養及び代謝疾患、第7章の眼及び付属器の疾患、第10章の呼吸器系の疾患、第11章の消化器系の疾患、第9章の循環器系の疾患、第13章の筋骨格系及び結合組織の疾患であった。
- 総医療費の合計は70-74歳が他群よりも大きく上回っていた。人数が多いこともあるが、総医療費に占める割合は70-74歳が大きいことがわかる。
- 患者数に関わる上位疾患のうち睡眠障害(不眠症)は上位7位に位置し、25-29歳から第5位に発症し、50-54歳で受療割合が10%を超えた。
- 精神および行動の障害の入院医療費、入院外医療費では、統合失調症、うつ病などの気分障害の医療費が20～70歳代まで幅広く大きな割合で発生していた。

2. 幼児・若年期

- 幼児、若年層では、アレルギー性鼻炎、皮脂欠乏性湿疹などの皮膚及び皮下組織の疾患、急性胃腸炎、アレルギー性結膜炎などの感染症や結膜炎などの眼科、気管支喘息や喉の痛みなどの急性上気道感染症の呼吸器が多い。

3. 青・壮年期

- 25～44歳では、呼吸器の疾患、睡眠障害(不眠症)、てんかん、うつ病、社会不安障害などの精神及び行動の障害による疾病が増加している。ストレスに対する知識や行動、休養、相談できる環境の利用などの対応が求められる。さらに糖尿病や脂質異常症が増加していた。

- 40 歳代から腎尿路性器系の疾患、筋骨格系及び結合組織の疾患、糖尿病、脂質異常症の慢性疾患の割合が急速に増加する。さらに、統合失調症などの精神的な課題の割合が増加しており、長期に影響する疾病構造が構成されていることから、40 歳からの対策は大きな影響を与えられとされる。特に関節疾患対策が期待される。
- 50 歳代から心不全、脳出血、脳梗塞、2 型糖尿病性神経筋疾患の割合が増加した。脳血管疾患は死亡リスクを高めるだけでなく、麻痺などの後遺症が生活に大きな影響を与える。脳血管疾患の原因となる糖尿病、脂質異常症などの慢性疾患対策、喫煙、ストレスなどへの対応と適切な食事と運動による予防活動が重要である。
- 心疾患は入院外では 40 歳から、入院では 55 歳から増加している。脳血管疾患と同様に対策が求められる。

4. 高齢期

- 高齢期では、糖尿病、脂質異常症等の内分泌、栄養及び代謝疾患、睡眠障害、多発性ニューロパチーの神経系の疾患、高血圧性疾患、心不全等の循環器系疾患、関節炎、股関節症、膝関節症、脊柱管狭窄症の筋骨格及び結合組織の疾患、骨粗鬆症が増加していた。これらの疾患は、総医療費合計で 5 億円以上かかっており、予防や対策が求められる。特に、多発性ニューロパチーは糖尿病、アルコール、薬剤性が要因として考えられるため、正しい知識を持つことと、生活習慣の改善が必要だと考えられる。
- 高齢期ではアレルギー性鼻炎、結膜炎、呼吸器系の疾患医療費、患者割合が高い。その中に、急性上気道感染症などが含まれる。鼻水の症状の原因には薬剤性鼻炎など薬に由来するものも少なくない。花粉症やアレルギーだと考えて抗コリン系薬剤などを服用すると認知症リスクを高める可能性がある。風邪や急性上気道感染症などの知識を正しく持つことが重要である。
- 60 歳代から脳血管疾患が急激に増加し、入院のアテローム粥状硬化症(動脈硬化)も増加している。入院外では 45-49 歳から発現している。アテローム粥状硬化症は、大動脈や脳動脈、冠動脈などの太い動脈に起こる動脈硬化症である。原因として、動脈の内側の膜(血管内膜)にコレステロールなどの脂肪からなる物質がたまり、傷がつくことでアテローム(粥状硬化巣)ができる。時間の経過とともに厚くなることで、動脈の内腔が狭くなり、脳血管疾患や心疾患につながる。血管の石灰化なども引き起こすことから、心疾患、脳血管治療の困難度が高まり、予後不良となるため注意が必要である。これらは糖尿病、高血圧症、脂質異常症が先に発現し、その後、心疾患、脳血管疾患が発現することから予防と対策、さらには再発予防に取り組むことが求められる。
- アルツハイマー病の受療割合が 65-69 歳から増加している。アルツハイマー病は長期にわたる睡眠障害や運動、生活習慣も関連すると報告される。睡眠障害は 30 歳ごろから増加している。この関連が疑われるため、対策が求められる。
- 膝関節症、股関節症は入院外では 45 歳以降、入院では 60 歳以降で受療割合が増加し、医療費が高まっている。これはこれまでと同じ傾向であり、予防が求められる。関節疾患は下肢筋力の向上、歩行、靴の対策などにより予防ができるため、早期の対策が必要である。
- 肺炎の入院・入院外の受療割合は 60-64 歳から増加している。肺炎は死亡リスクを高めるだけでなく、要介護要因にもなることから口腔衛生や入れ歯の対策が求められる。

5. COVID-19 の影響

- COVID-19 の入院は 25 歳以降に発生している。60-64 歳、70-74 歳は 3 名以上の入院が確認された。入院外では幅広い世代で COVID-19 の感染が確認された。
- 令和 4 年度(2022 年度)は 2 類相当(新型インフルエンザ等感染症)に該当するため、医療の提供に関して様々な国の方針があった。令和 5 年度以降の変化に注目したい。

6. 特定健診

- 保健指導について、動機付け・積極的支援に該当したのは男性が 19.4%、女性が 7.9%で男性に多い傾向であった。男性の 40~49 歳は 34.3%(動機付け 12.0%, 積極的 22.3%), 50-59 歳は 26.7%(動機付け 8.9%, 積極的 17.8%), 女性の 40~49 歳は 13.9%(動機付け 8.1%, 積極的 5.8%), 50-59 歳は 9.7%(動機付け 5.0%, 積極的 4.7%)であった。
- メタボ該当者は男性 56.0%, 女性 18.2%が該当した。
- 糖尿病の指標となる HbA1c では、メタボ非該当の要経過観察、要医療の該当者は 18.5%に対し、メタボ該当者では 34.2%が該当した。メタボ該当者では糖尿病リスクが高いことが推察される。
- 身長の変化で 1cm 以上減少したのは男性で 6.5%, 女性で 7.0%であった。50 歳以降で身長が 2cm 以上、若いときと比べて 4cm 以上減少していると骨粗鬆症リスク群と報告される。骨粗鬆症は骨折リスクが高いため、予防が求められる。そのため、身長の変化にも注目し、骨折予防に心掛けたい。
- BMI 別に HbA1c 判定を確認すると、男性の 18.5 未満は要経過観察、要医療の割合が 14.3%, 18.5~25 未満は 24.6%, 25 以上は 39.6%が該当した。女性では 18.5 未満は 12.8%, 18.5~25 未満は 17.4%, 25 以上は 35.6%が該当した。男女ともに BMI が大きいほど糖尿病リスクが高いことがわかった。メタボと同様に糖尿病対策という点でも BMI のコントロールが求められる。
- 血圧で要経過観察、要医療に該当したのは男性で 27.5%, 女性で 25.6%であった。要経過観察、要医療該当者は年齢とともに増加し、男性では 50-59 歳で 20.1%, 70-74 歳で 32.3%であった。女性では 50-59 歳で 12.3%, 60-69 歳で 25.8%, 70-74 歳で 31.8%であった。要医療の該当者が 5%を超えるのは、男性は 40-49 歳、女性は 60-69 歳である。国保の疾病構造と類似しているため、心疾患、脳血管疾患の予防の対策が求められる。
- 中性脂肪の TG は心疾患、脳血管疾患と関連がある。要経過観察、要医療に該当したのは 2.9%(男性:4.1%, 女性:2.0%)であった。TG の要経過観察、要医療該当者は、男性の 40-49 歳で 6.3%, 50-59 歳で 5.1%, 60-69 歳で 4.1%, 70-74 歳で 3.3%であった。女性では 40-49 歳で 3.5%, 50-59 歳で 2.2%, 60-69 歳で 1.8%, 70-74 歳で 2.0%であった。女性より男性の若い群が高値であることがわかる。R3 年度からの数値の変化をみると、男女ともに高値の群は昨年度よりも上昇していることがわかる。
- LDL コレステロールでは、要経過観察、要医療に該当したのは全体で 32.1%であった。要経過観察、要医療該当者について、男性は 40-49 歳で 36.5%, 50-59 歳で 34.9%, 60-69 歳で 28.6%, 70-74 歳で 25.1%であった。女性では 40-49 歳で 22.7%, 50-59 歳で 40.5%, 60-69 歳で 38.7%, 70-74 歳で 32.8%であった。男性よりも女性の方が高く、加齢とともに高値に推移した。R4 の高値群ほど R3 よりも LDL コレステロールが上昇しており、対策が求められる。
- 高血圧、脂質異常症は心疾患、脳血管疾患のリスク群である。特に脂質異常症は要対策者が多く、将来の要介護リスクを予防するためにも食事の対策が求められる。血圧、TG、LDL コレステロールともに値が

高いリスク群が前年度に比べて上昇しており、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチともに対策を期待したい。

- 糖尿病の指標である HbA1c は要経過観察、要医療に該当したのは全体で 23.9%であった。要経過観察、要医療に該当する割合は、男性の 40-49 歳で 11.4%, 50-59 歳で 20.1%, 60-69 歳で 29.2%, 70-74 歳で 35.1%であった。女性では 40-49 歳で 5.2%, 50-59 歳で 11.4%, 60-69 歳で 19.0%, 70-74 歳で 25.8%であった。男性の要経過観察の加齢変化が注目される。
- 腎機能を表す血清クレアチニンでは、要経過観察、要医療に該当したのは全体で 10.1%であった。eGFR では、基準値を下回り、要経過観察、要医療に該当したのは全体で 22.3%であった。年齢とともに腎機能は低下しており、60 歳代では男女ともに約 2 割、70-74 歳では約 3 割が要経過観察、要医療に該当した。糖尿病と合わせて腎機能の低下は糖尿病性腎症などの合併症、人工透析につながり、日常生活機能を大きく下げ、医療費の高騰につながる可能性がある。糖尿病を対策するなど、腎機能の課題に取り組む必要性がうかがえる。

以上